













特別支援学校 日常生活の指導ガイド















平成30年3月 秋田県教育委員会

ガイド発刊に当たって

このたび、本県特別支援学校における「日常生活の指導」が効果的に行われる よう「特別支援学校 日常生活の指導ガイド」を発刊しました。

秋田県教育委員会では、平成25年度より第二次秋田県特別支援教育総合整備 計画に基づき、特別支援教育推進のための体制を整備するとともに、幼稚園・保 育所等、小学校、中学校、高等学校における特別支援教育及び特別支援学校にお ける教育の充実を図るため、様々な施策を実施してきました。

特別支援学校においては「専門性の高い教育の充実」を基本方向の一つに掲 げ、平成26年度から4か年計画で「各教科等を合わせた指導」の授業改善プロ ジェクトに取り組んできました。最終年度に当たる今年度は、「日常生活の指 導」を取り上げ、県内特別支援学校の「日常生活の指導」を担当している教諭と ともに、「日常生活の指導」を基礎・基本から見直し、研修会や授業研究会を通 して、「日常生活の指導」の実践の充実に向けた取組を進めてきました。

このガイドは、「日常生活の指導」を行う際に押さえておきたい基礎・基本 と、本プロジェクトを担当した教諭の「授業改善の視点に基づく実践事例」を紹 介しています。また、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領の改訂を受け、 各教科との関連を意識して取り組むことができるように、「日常生活の指導」を 行う際の核となる教科である小学部「生活科」と中学部「職業・家庭科」の目 標、各段階の目標及び内容等を資料編に掲載しています。

本ガイドが積極的に活用され、各校における「日常生活の指導」の実践の更な る充実につながることを期待しています。

平成30年3月

秋田県教育庁特別支援教育課 課長 小 林

司

目 次

Ι	基礎編

1 知的障害教育における指導の特徴	4
(1) 知的障害のある児童生徒の学習上の特性等	4
(2) 知的障害のある児童生徒の教育的対応の基本	5
(3) 特別支援学校(知的障害)の教育課程の構造	6
2 日常生活の指導の意義	7
3 日常生活の指導の特徴と留意点	8
(1) 日常生活の指導の特徴	8
(2) 指導上の留意点	8
4 日常生活の指導の内容	9
5 日常生活の指導の評価	10
(1) 日常生活の指導の授業改善「14の視点」	10
(2) 各教科等を合わせた指導の学習評価	11
(3) 指導内容の設定と授業時数の配当	11
6 他の指導の形態との関連	12
(1) 各教科等を合わせた指導の教育課程上の位置付け	12
(2)学習活動のねらいによる各指導の形態の違い	12
(3) 日常生活の指導と遊びの指導	13
(4) 日常生活の指導と生活単元学習	14
(5) 日常生活の指導と作業学習	15
(6) 日常生活の指導と教科別の指導	15
7 中学部・高等部における日常生活の指導	16
8 重度・重複障害のある児童生徒の日常生活の指導	17

Ⅱ. 実践編

1	小学部1年「朝の活動」	横手支援学校	教諭	佐藤	深雪	•••••	18
2	小学部5年「着替え」	比内支援学校	教諭	松尾	佑美	•••••	20
3	小学部 5 年「朝の活動」	大曲支援学校	教諭	遠山	洋平		28

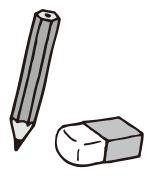
4	小学部1年「朝の会、朝の活動」	」 秋田きらり支援学校	教諭	髙橋亜	拒希子	•••••	30
5	小学部3年「朝の活動、朝の会」	」支援学校天王みどり学園	教諭	鎌田	育子	••••	32
6	小学部1年「朝の会」	ゆり支援学校	教諭	小野科	古美子	••••	34
7	小学部1、2、4年「朝の会」	比内支援学校かづの校	教諭	湊	奈緒	•••••	44
8	小学部6年「食事中における普	通箸の正しい持ち方と操作の	り仕方」				
		比内支援学校たかのす校	教諭	村岡	利哉	•••••	52
9	中学部1年「給食」	秋田きらり支援学校	教諭	渡辺争	 長樹子	•••••	54
1 0	小学部 5 年「黒板の掃除」	能代支援学校	教諭	伊藤	綾華	•••••	56
1 1	中学部1年「教室掃除」	稲川支援学校	教諭	山口	梓	•••••	58
1 2	中学部3年「掃除」						
	秋田大学教育	文化学部附属特別支援学校	教諭	佐藤	美里	•••••	64
1 3	中学部3年「持ち帰る物の用意	」栗田支援学校	教諭	加藤	秀幸		66

※実践2、6、7、11は、平成29年度授業改善プロジェクト授業・事例研究会の対象事例

Ⅲ. 資料編

資料1	小学部「生活科」と中学部「職業・家庭科」の目標、各段階の目標及び内容	68
資料2	知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科の各段	
	階の構成	73
資料3	知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校小学部の各教科	
	及び中学部職業・家庭科の特質に応じた見方・考え方	74
資料4	平成29年度特別支援学校授業改善プロジェクトの概要	75

I. 基礎編



知的障害教育における指導の特徴

日常生活の指導の基礎・基本の前に、知的障害教育における指導の特徴を押さえておきましょ う。全ての授業の基本になりますので、改めて確認しましょう。

(1) 知的障害のある児童生徒の学習上の特性等

- ○学習によって得た知識や技能が断片的になりやすく、実際の生活の場面の中で生かすことが難 しい。
 - →実際の生活場面に即しながら、繰り返して学習することにより、必要な知識や技能等を身に 付けられるようにする継続的、段階的な指導が重要となる。児童生徒が一度身に付けた知識 や技能等は、着実に実行されることが多い。
- ○成功経験が少ないことなどにより、主体的に活動に取り組む意欲が十分に育っていないことが 多い。
 - →学習の過程では、児童生徒が頑張っているところやできたところを細かく認めたり、称賛し たりすることで、児童生徒の自信や主体的に取り組む意欲を育むことが重要となる。
- ○抽象的な内容の指導よりも、実際的な生活場面の中で、具体的に思考や判断、表現できるよう にする指導が効果的である。
- ○教材・教具、補助用具やジグ等を含めた学習環境の効果的な設定をはじめとして、児童生徒へ の関わり方の一貫性や継続性の確保などの教育的対応や、在籍する児童生徒に関する周囲の理 解などの環境的条件も整え、知的障害のある児童生徒の学習活動への主体的な参加や経験の拡 大を促していくことも大切である。
 - →例えば、卒業後の就労等の進路先では、物事にひたむきに取り組む態度や誠実さといった学 びに向かう力や人間性が十分発揮されやすい。
- ○ⅠCT機器等を有効に活用することにより、児童生徒のもつ能力や可能性が更に引き出され、 様々に活動が発展し、豊かな進路選択の可能性が広がることで、自立と社会参加が促進されて 115
- ○児童生徒の多様な可能性を引き出すためには、学校だけでなく、児童生徒に関わる家族や支援 者、家庭等での様子など児童生徒を取り巻く環境や周囲の理解なども視野に入れた児童生徒の 確実な実態把握が必要である。特に、知的障害の程度が極めて重度である場合は、本来もって いる能力を十分に把握できない場合があるため、より詳細な実態把握が必要である。また、視 覚障害、聴覚障害、肢体不自由や病弱など、他の障害を併せ有することも多いので、より一層 のきめ細かな配慮が必要となる。

※参考:新特別支援学校学習指導要領説明会(平成29年7月)配布資料

(2) 知的障害のある児童生徒の教育的対応の基本

知的障害のある児童生徒の学習上の特性等を踏まえ、学習環境面を含めた児童生徒一人一人の 確実な実態把握に基づき、次のような教育的対応を基本とすることが重要です。

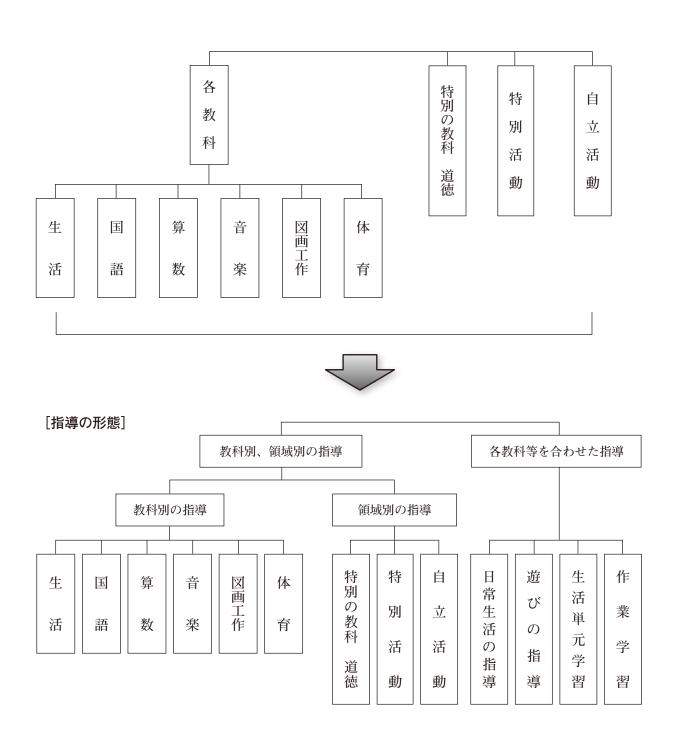
- (1) 児童生徒の知的障害の状態、生活年齢、学習状況や経験等を考慮して教育的ニーズを 的確に捉え、育成を目指す資質・能力を明確にし、指導目標を設定するとともに、指 導内容のより一層の具体化を図る。
- (2) 望ましい社会参加を目指し、日常生活や社会生活に生きて働く知識及び技能、習慣や 学びに向かう力が身に付くよう指導する。
- (3) 職業教育を重視し、将来の職業生活に必要な基礎的な知識や技能、態度及び人間性等 が育つよう指導する。その際に、多様な進路や将来の生活について関わりのある指導 内容を組織する。
- (4) 生活の課題に沿った多様な生活経験を通して、日々の生活の質が高まるよう指導する とともに、よりよく生活を工夫していこうとする意欲が育つよう指導する。
- (5) 自発的な活動を大切にし、主体的な活動を促すようにしながら、課題を解決しようと する思考力、判断力、表現力等を育むよう指導する。
- (6) 児童生徒が、自ら見通しをもって主体的に行動できるよう、日課や学習環境などを分 かりやすくし、規則的でまとまりのある学校生活が送れるようにする。
- (7) 生活に結びついた具体的な活動を学習活動の中心に据え、実際的な状況下で指導する とともに、できる限り児童生徒の成功経験を豊富にする。
- (8) 児童生徒の興味や関心、得意な面に着目し、教材・教具、補助用具やジグ等を工夫す るとともに、目的が達成しやすいように、段階的な指導を行うなどして、児童生徒の 学習活動への意欲が育つよう指導する。
- (9) 児童生徒一人一人が集団において役割が得られるよう工夫し、その活動を遂行できる ようにするとともに、活動後には充実感や達成感、自己肯定感が得られるように指導 する。
- (10) 児童生徒一人一人の発達の側面に着目し、意欲や意思、情緒の不安定さなどの課題 に応じるとともに、児童生徒の生活年齢に即した指導を徹底する。

※新特別支援学校学習指導要領説明会(平成29年7月)配布資料より

(3) 特別支援学校(知的障害) の教育課程の構造

[教育課程の基本的内容]

※特別支援学校(知的障害)小学部の教育課程の例



※中央教育審議会初等中等教育分科会 教育課程部会 特別支援教育部会 第6回配付資料より(平成28年2月)

日常生活の指導の意義

日常生活の指導は、日常生活そのものの指導であり、毎日一定の時間に繰り返し行われます。 指導の意義や意図を意識した指導が行われるよう、ここで改めて、日常生活の意義を確認してみ ましょう。

日常生活の指導において、終局的に目指しているところは、児童生徒が、一日の生活を見 通しをもって、その時々の日常生活の諸活動を自力で処理できるようにすることである。

単に、身辺生活の処理にかかわる技能を高めることにとどまらず、日常生活をより自立 的・発展的に行うための生活意欲や生活態度を育てることも意図している。

発達段階が、幼児期の状態にある児童生徒には、特に日常的な生活を大切にする必要があ る。日常生活に適切な働きかけをすることによって、児童生徒の生活を充実させ、発達を促 すことができるからである。児童生徒が、日常生活の諸活動に精一杯取り組み、それを無難 に処理することを繰り返せば、児童生徒自身の力で生活できる部分が日に日に大きくなり、 児童生徒の生活は、おのずから、より自立的になり、より発展的となる。

※「日常生活の指導の手引(改訂版)」より

日常生活の指導では、一日の見通しをもてるようにし、諸活動に向けた意欲を高めるため の「朝の会」や、一日を振り返り、取組の成果を共有するための「帰りの会」、またこれらの 一連の流れにおける役割の遂行、係活動などの他、「着替え」や「給食における準備・片付 け|あるいは給食におけるマナーなどが内容として取り上げられる。また、掃除などは、中 学部以降の職業教育にもつながる活動内容といえ、「役割|や「きまり」は価値観を形成する ことに関連付けて取り扱われる。これらの活動はすべて「社会的・職業的自立に向け、必要 な基礎となる能力や態度 | を育成するものの一つであり、その指導及び支援を通して児童生 徒一人一人の「キャリア発達」を促すことが求められるのである。日々繰り返し取り組まれ る[日常生活の指導]は、自分の生活に係る様々な事項に自分で取り組み、他者との関わりを 通して遂行することで達成感を得ていくものである。また、昨日や今日を振り返り、今より 先を見通していくものであることから、まさにキャリア形成の土台作りといえよう。

※「『日常生活の指導』の実践 キャリア発達の視点から | より

3 日常生活の指導の特徴と留意点

日常生活の指導の特徴と留意点について、新特別支援学校学習指導要領説明会(平成29年7 月) 配布資料には、次のように示されています。なお、下線部分は、前回の特別支援学校学習指 導要領解説総則等編(幼稚部・小学部・中学部)の内容から、文言が変更になったところや新た に加えられた内容です。特に、指導上の留意点(オ)「学校と家庭等との連携」については、新 たに項目として加えられた内容です。これらは、今後、日常生活の指導を行う上で特に重要な点 となりますので、しっかりと押さえておきましょう。

(1) 日常生活の指導の特徴

日常生活の指導は、児童生徒の日常生活が充実し、高まるように日常生活の諸活動につい て、知的障害の状態、生活年齢、学習状況や経験等を踏まえながら計画的に指導するもので ある。

日常生活の指導は、生活科を中心として、特別活動の〔学級活動〕など広範囲に、各教科 等の内容が扱われる。それらは、例えば、衣服の着脱、洗面、手洗い、排泄、食事、清潔な ど基本的生活習慣の内容や、あいさつ、言葉遣い、礼儀作法、時間を守ること、きまりを守 ることなどの日常生活や社会生活において、習慣的に繰り返される、必要で基本的な内容で ある。

※新特別支援学校学習指導要領説明会(平成29年7月)配布資料より

(2) 指導上の留意点

日常生活の指導に当たっては、以下のような点を考慮することが重要である。

- (ア) 日常生活や学習の自然な流れに沿い、その活動を実際的で必然性のある状況下で取り 組むことにより、生活や学習の文脈に即した学習ができるようにすること。
- (イ) 毎日反復して行い、望ましい生活習慣の形成を図るものであり、繰り返しながら取り 組むことにより習慣化していく指導の段階を経て、発展的な内容を取り扱うようにす ること。
- (ウ) できつつあることや意欲的な面を考慮し、適切な支援を行うとともに、生活上の目標 を達成していくために、学習状況等に応じて課題を細分化して段階的な指導ができる ものであること。
- (エ) 指導場面や集団の大きさなど、活動の特徴を踏まえ、個々の実態に即した効果的な指 導ができるよう計画されていること。
- (オ)学校と家庭等とが連携を図り、児童生徒が学校で取り組んでいること、また家庭等で これまで取り組んできたことなどの双方向で学習状況等を共有し、指導の充実を図る ようにすること。

※新特別支援学校学習指導要領説明会(平成29年7月)配布資料より

日常生活の指導の内容 4

日常生活の指導は、日常生活の流れに沿って、次のような実際の活動を通して行われます。 なお、日常生活の指導の内容を具体化するに当たっては、小学部「生活科」、中学部「職業・ 家庭科」、高等部「職業科」「家庭科」の内容を参考にすることが重要です。

(小学部「生活科」、中学部「職業・家庭科」の内容等 ☞ II. 資料編 P68参照)

日常生活の指導の内容例

登校	目的地までの歩行、交通安全、交通機関・スクールバスの利用、靴の履き 替え、雨具の始末、定刻までの登校、教師・友達との挨拶など
朝の支度	帽子・かばんの始末、持ち物の整理、ノート類の提出、着替え、用便など
係の仕事	窓の開閉、小動物・草花等の世話、黒板ふきの掃除、ごみ箱のごみ捨て、 提出物の回収、日課の表示など
朝の会	絵本の読み聞かせ、朝の挨拶、手遊び歌、朝の歌、体操、出欠調べ、月日・曜日・天気調べ、昨日のことの話し合い、日記の発表、今日の予定、 給食の献立の発表、守ることの確認、健康調べ、衛生検査など
食 事	手洗い、うがい、身支度、食器・食品の運搬、配膳、食事の挨拶、よくかんで食べること、好き嫌いをしないで食べること、時間内に食べること、 箸や食器の扱い方、作法を守ること、食器の後始末、歯磨き、食後の遊び・運動など
掃除	身支度、分担して仕事をすること、協力して仕事をすること、時間を意識 して仕事をすること、机・椅子等の移動、掃き掃除、モップがけ、雑巾が け、掃除機の使用、床みがき、窓ふき、机ふき、黒板ふきの掃除、手洗い 場の掃除、棚等の整理・整頓、掃除手順を覚えること、掃除用具の扱い 方、掃除用具の手入れの仕方、用具の後始末、手洗いなど
帰りの支度	着替え、帽子・かばん等の持ち物の用意、ノート類・配付物の持ち帰り、 次の日の準備、戸締まり、用便など
帰りの会	日課表・家庭連絡帳の記入、今日の学習の振り返り、次の日の予定の確認、帰りの歌、挨拶など
下 校	靴の履き替え、雨具の用意、目的地までの歩行、交通安全、交通機関・スクールバスの利用など

※日常生活の指導の手引(改訂版)、特別支援学校授業改善プロジェクト 実践事例より

日常生活の指導の評価

(1) 日常生活の指導の授業改善「14の視点」

日常生活の指導は、毎日、一定時間にほぼ同じように繰り返されます。したがって、児童生徒 の変容に応じて、日々授業改善が必要になります。しかし、多くの学校では、遊びの指導や生活 単元学習、作業学習等の他の指導の形態と比較して、授業研究会等の対象となる機会が少なく、 意識して授業を評価する機会が限られているのではないでしょうか。

日常生活の指導が固定的に繰り返され、児童生徒の活動の仕方が一定化していないか、より水 準の高い活動の仕方に変えていくように適切な手立てを講じているか等、日常生活の指導の基礎・ 基本に基づく実践になっているか改めて振り返ってみましょう。

その際、以下に示した日常生活の指導の授業改善「14の視点」を参考にしてください。これは、 平成29年度特別支援学校授業改善プロジェクトにおける基礎研修会や授業・事例研究会、各担 当教諭の資料から得られた、授業改善の視点です。

日常生活の指導の授業改善「14の視点」

<計画>

- ① 生育歴や家庭での様子を含めた実態把握ができているか。
- ② 今の活動が、次の学年、学部、卒業後にどのようにつながるかイメージできているか。
- ③ 障害特性、発達段階、生活年齢、学習状況や経験を踏まえた段階的、発展的な指導内 容になっているか。
- ④ ティーム・ティーチングの役割が明確であり、指導の意図が教師間で共有されているか。
- ⑤ 家庭(施設、病院)と連携を図り、双方向で情報を共有して指導に反映しているか。
- ⑥ 日常生活動作の機能向上に向け、外部専門家との連携や自立活動との関連が図られて いるか。
- ⑦ 身に付けた力や活動意欲を高めるために、他の指導の形態との関連を意図した一貫性 のある指導計画になっているか。
- ⑧ 関連する各教科の育成を目指す資質・能力を明確にした指導計画になっているか。

<実践>

- ⑨ 最後まで見通しをもって取り組める適切な活動量・支援量になっているか。
- 日常生活の流れに沿って、自然で実際的、必然的な活動になっているか。
- ① 人との関わりや役割意識、きまりを守ることなど、集団生活を送る上で必要な技能や 態度を主体的に身に付けられる活動になっているか。
- ② 学級、学年、学部、全校で支援方法が標準化されているか。

<評価>

- ③ 内面の成長を含めて複数の目で実態を把握し、指導を評価・改善する体制をとってい るか。
- 頃 関連する各教科の目標に準拠した評価の観点による学習評価が行われているか。

(2) 各教科等を合わせた指導の学習評価

各教科等を合わせた指導の学習評価を行うに当たっては、各教科の目標に準拠した評価の観点 に基づき学習評価を行うことが重要です。新特別支援学校学習指導要領 総則等編(小学部、中 学部) 説明資料には、以下のように示されています。

児童生徒一人一人の学習状況を多角的に評価するため、各教科の目標に準拠した評価の観 点による学習評価を行うことが重要である。一つの授業や単元、年間を通して、児童生徒が どのように学ぶことができたのかや、成長したのかを見定めるものが学習評価である。

また、学習評価は児童生徒にとって、自分の成長を実感し学習に対する意欲を高める上で 有効であり、教師にとって、授業計画や単元計画、年間指導計画等を見直し改善する上で も、効果的に活用していくことが重要である。

このような評価は教師が相互に情報を交換し合いながら適時、適切に評価に関する情報を 積み上げ、組織的・体系的に取り組んでいくことが重要である。

なお、教科別の指導を行う場合や各教科等を合わせて指導を行う場合においても、各教科 の目標に準拠した評価の観点による学習評価を行うことが必要である。

※新特別支援学校学習指導要領説明会(平成29年7月)配布資料より

(3) 指導内容の設定と授業時数の配当

授業時数の配当に当たっては、以下のことを参考にしてください。

各教科等を合わせて指導を行う場合には、授業時数を適切に定めることが示されている。 各教科等を合わせて指導を行う場合において、取り扱われる教科等の内容を基に、児童生徒 の知的障害の状態や経験等に応じて、具体的に指導内容を設定し、指導内容に適した時数を 配当するようにすることが大切である。

指導に要する授業時数をあらかじめ算定し、関連する教科等を教科別に指導する場合の授 業時数の合計と概ね一致するように計画する必要がある。

※新特別支援学校学習指導要領説明会(平成29年7月)配布資料より

他の指導の形態との関連

日常生活の指導や遊びの指導、生活単元学習、作業学習は、各教科等を合わせた指導であり、 児童生徒の能力や特性を考慮した指導の形態です。したがって、各教科等の基礎・基本が発展的 に関連付いて構成されます。

特に日常生活の指導は、各教科等を合わせた指導の形態の中でも最も基礎的なものであるとと もに、小学部から高等部までを通じて扱われます。したがって、それぞれの指導の形態との関連 を理解し、相互に効果を上げられるよう指導内容や指導方法を整えることと、カリキュラム・マ ネジメントの視点に基づき計画―実践―評価―改善していくことが重要になります。

(1) 各教科等を合わせた指導の教育課程上の位置付け

(イメージ図)

小学部(低→高)	中学部	高等部		
遊びの指導				
(遊びの要素:多→少)	(作業の要素:製作活動の少→多)			
	作業学習(生産→労働習慣)			
日常生活の指導				

※特別支援学校 生活単元学習ガイドより

(2) 学習活動のねらいによる各指導の形態の違い

~例:草花への水やり(かん水)~

・草花に毎日水をかける係活動

【日常生活の指導】

・草花の栽培を生活のテーマとした学習展開 →

【生活単元学習】

・生産活動として草花を大量に栽培

【作業学習】

※特別支援学校 生活単元学習ガイドより

(3)日常生活の指導と遊びの指導

朝の会で、絵本「おおきなかぶ|の読み聞かせを行い、児童の興味・関心が高まったところで、 遊びの指導において「おおきなかぶ」を題材にした再現遊びを行います。読み聞かせによってス トーリーに見通しをもち、理解が深まっていることで、遊びの指導では登場人物になりきって遊 ぶ児童同士の関わりが生まれることなどが期待されます。また、遊びの指導で経験した内容を、 朝の会や帰りの会で振り返ることで、そのとき感じた気持ちを表現する活動につなげることも効 果的です。

○日常生活における「遊び」と遊びの指導における「遊び」の違い

例1:手遊び歌や電車ごっこ

- ・朝の会の一つの内容として扱われる手遊び歌や電車ごっこ【日常生活の指導】
- ・手遊び歌からリズム遊びへの学習展開【遊びの指導】
- ・電車ごっこから乗り物遊びへの学習展開【遊びの指導】

例2:自由遊び

- ・朝の会が始まるまでの毎日一定時間に行われる自由遊び【日常生活の指導】
- ・遊びの指導のねらいに沿って展開される自由遊び【遊びの指導】
- ※同じ遊びの内容でも、毎日一定時間にほぼ同じように、生活の中で繰り返し行われるもの は、日常生活の指導として意味付ける方が適当です。

※日常生活の指導の手引(改訂版)より

参考:遊びの指導を展開する「7つの視点」

- ① 児童が積極的に遊ぼうとする環境を設定すること。
- ② 遊びをできるだけ制限することなく、安全に遊べる場や遊具を設定すること。
- ③ 教師と児童、児童同士の関わりを促す場を設定し、遊具等を工夫すること。
- ④ 自ら遊びに取り組むことが難しい児童には、遊びを促し、遊びに誘い、いろいろな遊び を体験できるように配慮して、遊びの楽しさを味わわせるようにすること。
- ⑤ 身体活動が活発に展開できる遊びを多く取り入れるようにすること。
- ⑥ 遊びの題材を豊富に取り入れた指導をすること。
- ⑦ 家庭、児童福祉施設等との連携を密にすること。

※特別支援学校 遊びの指導ガイドより

(4)日常生活の指導と生活単元学習

生活単元学習で調理学習を行う際、準備として手洗いの場面があります。日常生活の指導にお いて、食事の前に手を洗うことが習慣化されていると、調理の前にも手を洗う意識が身に付きや すくなります。日々の手洗いの場面を捉えて、「手がきれいだとおいしいものが食べられるね| 「おいしく調理ができそうだね|などと意味付けすることで、児童生徒が自分から手を洗おうとす る意識が高まります。また、修学旅行を前に、素早く着替えができるように意識を高めていくな ど、行事単元と関連付けて日常生活の指導を行うことも考えられます。

参考:生活単元学習を評価する「7つの視点|

- ① 単元名が生活に即し、分かりやすく、吟味されているか。
- ② 単元の目標が生活上の目標達成や課題解決につながるものになっているか。
- ③ 実際の生活から発展した計画になっているか。
- ④ 身に付けた内容を生活に生かす計画になっているか。
- ⑤ 児童生徒の目標意識や課題意識を育てる活動を含んだ計画になっているか。
- ⑥ 児童生徒が興味・関心や課題意識をもてる授業の導入になっているか。
- ⑦ 児童生徒が十分活動し、繰り返す中で、気付き、考え、思考する授業の展開になってい るか。

※特別支援学校 生活単元学習ガイドより

○「日常生活の指導」と「生活単元学習」等との性格の違い

「生活単元学習」等は、多くの場合、子供の学校生活において中心となる活動で組織され る。子どもの思いの中に多くの部分を占め、この活動に期待感や時には緊張感をもって登校 する。それが「生活単元学習」等の性格である。「生活単元学習」等が適切に展開されれ ば、それは子供の生活の中で、大事な思い出にもなる充実した時間となる。それに対して、 「日常生活の指導」は、学校生活の中心となる活動ではなく、多くは日常生活の中で繰り返 される習慣的な活動である。「日常生活の指導」の活動が首尾よく成し遂げられていれば、 子供の中にことさら意識されないものとなることもある。習慣化されるので、これといった 感慨もなく過ぎていくものとなる。「日常生活の指導」の性格は、このような、いわば当たり 前さにある。

※「日常生活の指導」の実践 キャリア発達の視点から より一部抜粋

(5) 日常生活の指導と作業学習

作業学習において求められる、挨拶、返事、報告、話を聞く態度、時間を守る意識等をはじ め、素早く着替えたり、手際よく掃除したりする内容は、全て日常生活の指導で扱われる内容で す。また、前述したように、手洗いなどの生活習慣が身に付いていると、食品加工等の作業種で は大きな力となって発揮されるなど、進路選択の幅が広がることにもつながります。このことか ら、日常生活の指導は、学校卒業後の進路実現に結び付く重要な指導の形態であることが分かり ます。日常生活の指導に当たっては、支援の在り方や指導内容等について、学部間の連携を図 り、指導が積み重なるように共通理解を図っていくことも重要になります。

参考:作業学習を評価する「10の視点|

【作業学習の目標・内容、製品等の開発、作業量】

- ① 生徒個々に応じた目標と内容になっているか。
- ② 職場実習につながる目標と内容になっているか。
- ③ 製品や作物、販売等の機会が固定化されていないか。
- ④ 作業量が十分確保されているか。

【原材料、道具・補助具、作業環境】

- ⑤ 安価、再利用、無償協力の原材料になっているか。
- ⑥ 精度を上げる道具や補助具の選択・工夫があるか。
- ⑦ 作業しやすい環境を整えているか。

【指導者の理解と力量】

- ⑧ 作業学習のねらいなど基本的な内容の理解は十分であるか。
- ⑨ 生徒の作業能力を職場実習も含めて客観的に分析できているか。
- ⑩ 担当作業種等について自己研鑽しているか。

※特別支援学校 作業学習ガイドより

(6)日常生活の指導と教科別の指導

日常生活の指導は各教科等を合わせた指導の形態の一つであり、生活科を中心にいろいろな教 科の内容が含まれています。指導している内容を教科別の指導とも関連付けて、発展的に取り扱 うことが重要です。

例:朝の会、帰りの会で歌う歌 → 【音楽】

朝の会における昨日の出来事のスピーチ、帰りの会での日誌記入 → 【国語】

朝の会における日付の確認 → 【算数】

名前カードを用いた教師や友達の呼名 → 【国語】

朝の会でのリトミック → 【体育】

なお、生活科の内容の多くは、それだけを取り出して時間を設定して指導するよりも、各 教科等を合わせた指導の形態により、総合的に取り扱う方が効果的である。したがって、生 活科の時間については、設定しないことが一般的である。

※日常生活の指導の手引(改訂版)より

中学部・高等部における日常生活の指導

特別支援学校(知的障害)において、日常生活の指導は、小学部、中学部、高等部の全ての学 部で行われていますが、学年、学部段階が進むに従って、着替えや朝の会、食事、掃除など、日 常生活の諸活動の時間配分や、内容、ねらいの組み立て方が異なってきます。これは、日常生活 の指導の扱いが軽くなるということではありません。むしろ、各学部段階における日常生活の指 導が丁寧に行われることで、それぞれの他の指導の形態において、指導の効果が一層高まること が期待されます。

例えば、作業学習で求められる挨拶・礼儀、身だしなみ、衣服の調節、着替えの速さ、健康管 理・衛生、役割意識、掃除の技能等は、まさに日常生活の指導でも扱われる内容であり、この力 が日常生活の指導によって十分に身に付いていると、より質の高い作業学習のねらいが設定され ることになります。この意識を学校の全職員で共有し、小学部から中学部、中学部から高等部へ と、指導内容や支援方法を切れ目なくつないでいくことが大切です。

また、中学部・高等部における日常生活の指導に当たっては、発達段階に関わりなく、年齢相 応の環境を児童生徒に用意したり、青年期にふさわしい配慮をしたりしながら、自尊感情等に留 意することも大切です。

例えば、歯磨きの際、小学部時代には幼児向けアニメキャラクター付きの歯磨き粉を使ってい た場合は、年齢相応なものを使い慣れるようにしていくことが必要です。また、名前を「ちゃ ん」付けで呼んだり、幼児言葉で話しかけたり、着替えの介助を異性の教職員が行ったりするこ とのないように気を付けなければいけません。これは、人権への配慮としても大切な視点です。

さらに、日常生活の指導は、思春期ならではの課題への対応等、保健体育や生徒指導とも関連 してきます。特に、性に関する指導やSNS等を使ったやりとりによるトラブルに関する指導に ついては、担任のみで抱え込まず組織として対応していくことが肝要です。そのためにも、予想 される諸課題について学年や学部の職員間で事前に確認し合い、生徒指導主事や学部主事、養護 教諭、寄宿舎指導員等と連携し、保護者の協力を得ながら計画的に指導していくことが大切で す。

生理・射精など性とかかわる内容に対する生活指導上の配慮として大切なことは、個々の 内容を取り出して単発的に問題にする前に、生活全般への適切な対応に心がけるということ である。そうすることで、安定した生活リズム・望ましい生活習慣の確立を図ることに努め なければならない。生活全般の調整ということになれば、当然、保護者と教師との協力、家 庭と学校との連携が必要となる。

※日常生活の指導の手引(改訂版)より

重度・重複障害のある児童生徒の日常生活の指導 8

障害の状態が重い児童生徒に対する学習活動は、多くの場合、自立活動を中心とした教育課程 において行われています。自立活動の内容である健康の保持、心理的な安定、人間関係の形成、 環境の把握、身体の動き、コミュニケーションは、全て日常生活の指導との関連が深く、前述の 授業改善の視点にも配慮して進めていくことが大切です。また、学習指導要領説明会配布資料 (自立活動編) に示されているとおり、WHO(世界保健機関) が採択したICF (国際生活機 能分類)の考え方に基づき、児童生徒本人を取り巻く環境面も含めて、多面的・総合的に日常生 活を捉え、QOL(生活の質)の視点から教育目標や指導内容を設定することが大切になりま す。

自立活動が指導の対象とする「障害による学習上又は生活上の困難」は、WHOにおいて ICFが採択されたことにより、それとの関連で捉えることが必要である。つまり、精神機 能や視覚・聴覚などの「心身機能・身体構造」、歩行やADL(食事や排泄、入浴等の日常 生活動作)などの「活動」、趣味や地域活動などの「参加」といった生活機能との関連で 「障害」を把握することが大切であるということである。そして、個人因子や環境因子等と のかかわりなども踏まえて、個々の幼児児童生徒の「学習上又は生活上の困難」を把握した り、その改善・克服を図るための指導の方向性や関係機関等との連携の在り方などを検討し たりすることが、これまで以上に求められている。

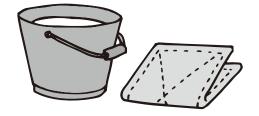
※新学習指導要領説明会(平成29年7月)配布資料(自立活動編)より

なお、自立活動の指導においては、次のような点に留意するよう示されています。

ICFの特徴の一つは、環境因子等を適切に考慮する点にあるが、成長期にある幼児児童 生徒の実態は様々に変化するので、それらを見極めながら環境を構成したり整えたりする必 要がある。自立活動の指導においては、幼児児童生徒が障害による学習上又は生活上の困難 を改善・克服するために必要な知識・技能等を身に付けることが目標(ねらい)となる。し たがって、それにつながるように個々の幼児児童生徒の実態に応じて環境を整えつつ、指導 内容・方法の創意工夫に努め、幼児児童生徒の自立と社会参加の質の向上につながる指導を 進めることが大切である。

※新学習指導要領説明会(平成29年7月)配布資料(自立活動編)より

Ⅱ. 実践編



事例1

小学部 1 年「日常生活の指導」 指導の内容「朝の活動」

秋田県立横手支援学校 教諭 佐藤 深雪

1 本指導の内容に関する、年度当初の対象児童の実態

指さしや簡単な指示を聞いて、何をするかが分かり、一人で取り組もうとする。初めて行う 生活に必要な動作が多いため、手を添えて両手や指先の使い方を指導している。様々なことに 注意が向くため、最後まで続けて取り組むことが難しいが、持ち物の置き場所は分かってきて いる。

2 目標(本指導の内容に関して、今年度末までに身に付けたい力、目指す姿)

○登校から朝の会までの、持ち物の整理、係活動、着替え、排せつの流れが分かり、自分から 行う。

3 授業改善の視点

○目標のスモールステップ化

4 指導の実際

- (1) 活動の流れ
 - ①持ち物の整理
 - ②係活動 (天気カード、ごみ捨て、健康観察簿)
 - ③着替え
 - ④排せつ

(2) 工夫点

- ○次の活動の手掛かりとなるよう に、朝の活動の流れや着替えの 手順を文字と写真で掲示し(写真 1)、写真を指さしながら、「天 気」「靴」などと言葉掛けをし to
- ○着替えを自分で行う気持ちが育つ ように、集中の度合いや児童の体 の動きに合わせて、教師が手順の 一部を行い、一人でできた達成感 を感じることができるようにし た。(写真2)







(写真2)

5 対象児童の変容

○写真カードを指さして、次の活動を知らせるようにしたことで、児童が自分から写真を指さ して確認し、次の活動を言葉で伝えるようになった。



持ち物の整理



次の活動の確認

○パネルで仕切った着替え用のスペースを設け、手順を少なくしたことで、集中が途切れるこ とが少なくなり、おおまかな手順を覚え、5分程度で体育着に着替えるようになった。家庭 でも、入浴時など、自分で衣服の着脱をするようになった。



着替え用のスペース



着替えの手順の確認

○係活動は、黒板から教室後方出口側に天気カード、ゴミ箱、健康観察簿を置いたことで、写 真カードがなくても、「次は?」の言葉掛けで、「天気」「ごみ」と答え、次の活動に移る ようになった。一人で保健室まで行き、健康観察簿を正しい向きでかごに入れ、戻ってくる ことができるようになった。



係活動の環境



健康観察簿の提出

6 他の指導場面との関連

朝の活動の流れや着替えの手順表の活用ができるようになったことで、他の授業でも写真や イラストに注目するようになり、朝の会で行っている好きな手遊びの絵カードを選んだり、身 の回りの物の写真カードを見て名前を覚え、正しく答えたりするようになった。

事例 2

小学部5年「日常生活の指導」 指導の内容「着替え」

秋田県立比内支援学校 教諭 松尾 佑美

1 本指導の内容に関する、年度当初の対象児童の実態

- ・心身の状態により、着替えに取り掛かるまでに時間を要するときがあるが、概ね自分で取り 組むことができる。
- ・襟元や袖口が肌に触れることに抵抗を示し、少しでも服が汚れた場合にはすぐに着替えをす る。制作活動の前など、普段と違う場面で着替えが必要になったときに気持ちが不安定にな
- ・シャツが出ていても気にする様子がなく、自分から身だしなみを整えようとする意識が低 11

2 目標(本指導の内容に関して、今年度末までに身に付けたい力、目指す姿)

○シャツの裾をズボンに入れることに気付き、自分から身だしなみを整える習慣を身に付け る。

3 授業改善の視点

- ○集団を生かした指導内容の工夫
- ○興味・関心を引きつける教材や活動内容の工夫
- ○キャリア発達の視点を踏まえた家庭との連携

4 指導の実際

- (1)活動の流れ
 - ①個別の活動(私服から体育着への着替え)
 - ②集団での活動(朝の会での身だしなみチェック)

(2) 工夫点

○興味・関心(相撲の取組)を生かした活動内容の工夫と集団で取り組む場面の設定



<写真①>



<写真②>

○朝の会での身だしなみチェックに関する掲示物の工夫





<写真4)>

5 対象児童の変容

- ・興味・関心(相撲の取組)を生かし、友達や教師と対戦形式で行う「身だしなみチェック」 を朝の会の中に設定した。その時間を楽しみにしながら、「今日も勝つぞ」と話して身だし なみを整えてから朝の会に参加したり、「身だしなみチェック | の時間が近付くと自分から シャツの裾を確認したりする姿が増えた。 <写真①、②>
- ・「身だしなみチェック」に関連する絵カードを着替え場所に貼ったり、日々の取組が分かる 掲示物として番付表を教室内に掲示したりした。それらを目にすることで、日常的に「今場 所も、優勝するぞ」と自分から身だしなみを整えたり、掲示物を見て身だしなみを整えるこ とに気付いたりするようになってきた。〈写真③、④〉
- ・学級全体で取り組んだことで、「○○さん、身だしなみ大丈夫 | と友達に声を掛けるなど、 友達同士で身だしなみを確認し合う場面が見られるようになってきた。
- ・小学部卒業後の生活を考え、衣服の種類(制服や作業着など)が変わっても同様に着替えに 取り組むことができるようにという視点を保護者と共通理解し、指導に当たった。ボタンや ファスナーなどが付いた服を家庭に用意してもらい、学校でもそれらの技能の獲得に向けて 練習に取り組むことができた。

6 他の指導場面との関連

体育着から私服への着替えの場面や排せつ後などにおいても、身だしなみを整えることに気 付いて、自分からシャツの裾を入れることができるように、教師の言葉掛けを工夫しながら取 り組んでいる。

※着替えに関連する部分は網掛けもしくは、枠囲みで表記

小学部 5 年 日常生活の指導 学習指導案

日 時:平成29年10月31日(火)

1校時(8:40~9:25)

場 所:小学部5年教室、小学部学習室他

指導者:松尾佑美(T1)藤井真由(T2)

久保田希 (T3)

1 題材名 「朝の活動・朝の会」

2 題材の目標

※知・技	・相手と手を合わせたり、視線を合わせて「おはようございます」と話したり して朝の挨拶をする。
※思判表	・朝の会での自分の役割が分かり、姿勢や声の大きさなどに気を付けて係の仕事を行う。・自分からまたは教師の言葉掛けを受けて、身だしなみを整えるポイントに気付き、シャツの裾を正しく直す。
※主体的	・安定した気持ちで活動に取り組み、一日の学習に見通しや期待感をもつ。

※知・技…知識・技能、思判表…思考力・判断力・表現力等、主体的…主体的に学習に取り組む態度

3 児童と題材

本学級は、男子3名、女子1名の計4名からなる。男子1名、女子1名は車いすを使用して おり、日常生活全般において支援が必要である。他2名は、心身の状況により活動に向かうこ とができなかったり、着替えの際に部分的に教師の支援や確認を必要としたりすることがある が、一連の流れが分かり概ね自分で取り組むことができる。

<着替えにおける児童(C、D)の主な実態>

- ・心身の状態により、着替えに取り掛かるまでに時間を要するときがある。
- ・襟元や袖口が肌に触れることに抵抗を示し、少しでも服が汚れた場合にはすぐに着替えを する。制作活動の前など、普段と違う場面で着替えが必要になったときに気持ちが不安定 になる。
- ・シャツが出ていても気にする様子がなく、自分から身だしなみを整えようとする意識が低い。

毎日同じ流れで一日の学習を始めたり、その日の予定に見通しをもったりすることで、安定 した気持ちで活動に向かうことができる時間や場面が増えてきている。また、それぞれの係活 動に繰り返し取り組むことで、進んで自分の役割を果たそうとする姿も見られるようになって きている。

朝の活動や朝の会は、一日の生活に見通しをもち、気持ちや身の回りのことを整えてその後 の学習に安心して臨むための大切な時間である。

「朝の活動」では、挨拶や着替えなどの活動に繰り返し取り組むことで、基本的生活習慣に 関する技能を高めることができると考える。身だしなみを整えることなどは、将来の生活にお いても大切になってくることから、小学部段階から意識を高めていきたい部分である。

「朝の会」では、一日の予定を聞くことで見通しをもち、楽しみにしている活動に期待感をも ったり、主体的に取り組もうとしたりする姿も増えるのではないかと考える。また、係活動に取 り組むことで、その場の状況から判断をし、自分の役割が分かって活動に向かうことができるの ではないかと考え、本題材を設定した。

指導に当たっては、以下の点に留意する。

- ・気持ちを整えながら朝の活動に向かうことができるように、活動を見守ったり、状況に合わ せて活動量を調整したりする。
- ・一日の学習に見通しをもつことができるように文字や写真などと合わせて簡潔に予定を伝える。
- ・身だしなみを整える意識を高めることができるように、「鏡を見てみよう」と言葉掛けをし たり、友達同士で身なりを見合う場面を設定したりする。
- ・将来の生活で必要とされる着替えに関する技能(ファスナーやボタン、ベルト)を高めるこ とができるように、それらが付いた私服の用意を依頼するなど家庭との連携を図っていく。

4 指導計画(総時数199時間)

内容		目標	主な指導の内容	時数
○朝の活動	知・技	・視線を合わせて朝の挨拶をし たり、発声で身近な教師の挨 拶に答えたりする。		
	思判表	・鏡を見たり、教師の言葉掛けを受けたりして、身だしなみを整えることに気付き、シャッの裾をズボンに入れる。		
	主体的	・手順表や具体物を手掛かり に、自分から着替えや係活動 に取り掛かる。		
○朝の会	知・技	・姿勢を正して話を聞いたり、話し手に合わせて礼をしたりする。	・歌 ・挨拶 ・日付と天気	本時120
	思判表	・自分の役割が分かり、自分から録音再生機器に手を伸ばして音声を流したり、決められた場所に移動し発表したりする。	・今日の予定	/ 133时间
	主体的	・一日の予定に見通しをもち、 楽しみな活動に対して期待感 を高める。 ・自分から楽器を手に取った り、体を動かしたりして音楽 を楽しみながら朝の会に参加 する。		

※年間を通して指導を行うが、集団の育ちや個々の能力の伸長に合わせて発展的な内容を取り入 れていく。

5 本時の計画

(1) 本時の目標

知・技	・教師の目を見て挨拶をしたり、笑顔や発声で挨拶に応じたりする。
思判表	・身だしなみを整えることに気付き、シャツの裾をズボンに入れる。 ・自分の役割の場面で手を動かして操作したり、決まった場所に移動したりする。
主体的	・朝の会で、一日の予定に見通しをもって楽しみなことを話す。

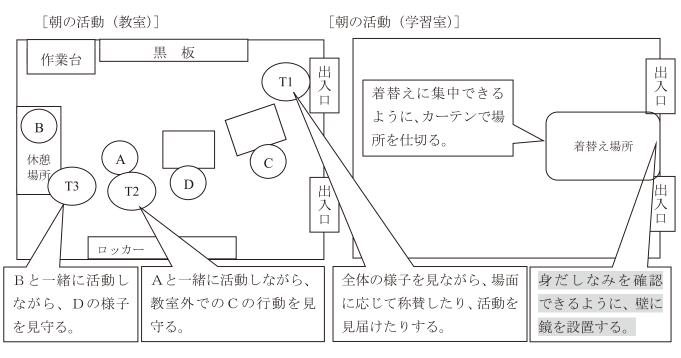
(2) 学習過程

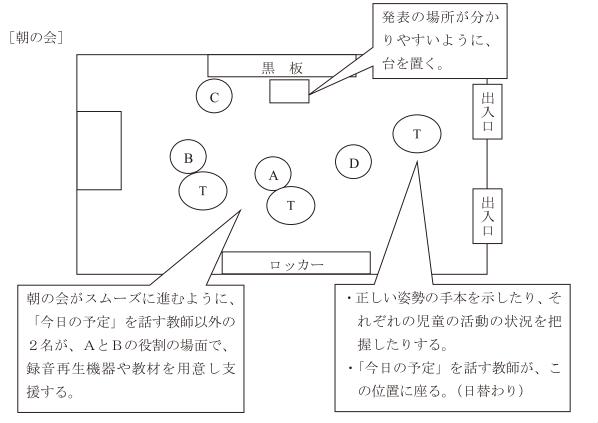
2)学習	到過程								
	時間	学習活動	手立てと配慮点	評価の観点						
	8:40 (30)	 登校 朝の活動に取り組む。 (1)荷物整理 (2)検温 (3)係活動 (4)排せつ 	・個々のでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 でものでは、 では、 でものでは、 でものに、 でものに、 できない。 では、 でものに、 できない。 では、 でものに、	・複数の教師に対し、それぞれの手段で朝の挨拶をするとができたか。						
		(5)着替え私 服体育着(長袖、長ズボン)	・身だしなみを整えることができるように、着替え場所に鏡や朝の会の活動(本日の取組)につながる掲示物を設置したり、「シャツはかっこいいかな」と言葉掛けをしたりする。 ・日常的に身だしなみに気を付けることができるように、児童の関心が高い大相撲と関連付けた「身だしなみ番付表」を教室内に掲示する。	・鏡を見たり、教師 の言葉掛けを受け たりして、シャツ の裾をズボンに入 れることができた か。						
	9:10 (15)	2 朝の会をする。	・自分の役割に向いたのというに、 の役割に向いたののできりに、 ののできりに、 ののできりに、 ののできりに、 ののできりに、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 のののでは、 のののでは、 ののののでは、 ののののでは、 ののののでは、 のののでは、 のののでは、 ののでは、 ののは、 のは、 のは、 ののは、 ののは、 ののは、 ののは、 のは、 のは、 ののは、 のは、 のは、	・自分かっない。 ・自分かっない。 ・自分かっない。 ・は、できるい。 ・は、でできるに、 ・身がといる。 ・身がといる。 ・身ができるい。 ・身ができるい。 ・身ができるい。 ・身ができるい。 ・身ができたか。 ・りきたか。 ・りきたか。 ・りきたか。						

(3) 本時の評価

- 児童側・複数の教師に対し、視線を合わせたり、発声したりして挨拶ができたか。
 - ・教師の言葉掛けなどを手掛かりに、身だしなみを整えることができたか。
 - ・一日の学習に見通しをもったり、意欲的に朝の会に参加したりすることができたか。
- 教師側・それぞれの手段で挨拶ができるような働き掛けや雰囲気づくりは適切だったか。
 - ・身だしなみを意識するための環境や活動の設定は適切だったか。
 - ・学習に期待感をもつことができるような話し方や活動内容は適切だったか。

(4) 環境設定について





\wedge
全版
運
\square
0
別
垣
11

手立て	・歩うないできるできた。 かかい できたい できたい できたい できたい できたい できまる できた はい できない できない できない から しかな から しかな から しゅん から しゅん から しゅん から しゅん から しゅん から しゅん から しゃく から しゅん かい かい を を は ない かい しょく しゅん という を は を ない しょく しゅん かい しょく しゅん かい しょく しゅん は を は ない しょく			・ をなるなななななながになる。 一年ではなる。 一年ではなる。 一年ではなる。 一年ではなる。 一年ではなる。 一年をはなる。 一年をはなる。 一次では、 一次できる。 一次では、 一次できる。 一次では、 一次できる。 一次では、 一次できる。 一次では、 一次できる。 一次では、 一次できる。 一、 一、 一、 のが、 のが、 のが、 のが、 のが、 のが、 のが、 のが、 のが、 のが			 ・「Dさん」と古を 国に立て、本児の正 る。。 ・与がしなな核をす できるようなを 間にたり、大が で で さ が が が に が が が が が が が が が が が が が が が					
本時の目標	・教師と手をつないだり、部分的 に一人でバランスをとったりし ながら教室を目指して歩く。	・二つの輪のどちらかを引き、く じ方式で友達の出番を発表する。	・自分から手を伸ばして健康観察 カードを受け取ったり、握る力 を弱めて教師に渡したりする。	・廊下で会う教師2名程に、担任 の挨拶に合わせて部分的に声を 出す。	・「今日の天気は何かな」という 言葉掛けを受けて外に視線を向け、正しい方の絵カードに手を 伸ばす。	・曲を聴きながら、自分から手を大きく動かしたり、楽器を鳴らしたりする。	・教師に注目して姿勢を正し、 「今日の予定」の話を聞く。	・鏡を見たり、教師の言葉掛けを 受けたりして身だしなみを整え ることに気付き、シャツの裾を ズボンに入れる。	・学習の予定を聞き、楽しみなこ とを一つ話す。	・教師と視線を合わせて、「おはようございます」と挨拶する。	・鏡を見たり、教師の言葉掛けを 受けたりして身だしなみを整え ることに気付き、シャツの裾を ズボンに入れる。	・学習の予定を聞き、楽しみなことを一つ話す。
本題材の目標	・係活動に取り組みながら、保 健室や教室を目指して歩行する。	・朝の会の役割の場面で、用具 を見て手を伸ばし、操作す る。	・係活動で、健康観察カードを 教室まで持ち運び、教師に渡 す。	・様々な教師に対して、視線を 合わせたり、声を出したりし て挨拶を返す。	・天気を見て、二つの絵カードから正しい方を選ぶ。	・歌の活動を楽しみながら、声 を出し笑顔で朝の会に参加す る。	・姿勢を正して話を聞いたり、 話し手に合わせて礼をしたり する。	・シャツの裾をズボンに入れ、 身だしなみを整えてから教室 に戻る。	・一日の予定に見通しをもち、 楽しみな活動への期待感を高 める。	・相手と視線を合わせて、挨拶 を返したり、自分から挨拶を したりする。	・シャツの裾をズボンに入れ、 身だしなみを整えてから教室 に戻る。	・一日の予定に見通しをもち、 楽しみな活動への期待感を高 める。
年間日標	十国日 の公の合言様の たして、自分から 発音再生機器に 流す。 核時、原下で 数語になっ がす。			登校時、廊下で会う教師に対し、担 独任と一緒に声を出 技	β	;		着 を た た た た た た た た る た る た る る る る る る る		登校時に、自分か を も を を を を を を を を を が に が に が で に が に が に が に が に が に が に が に が が に が が が が が が が が が が が が が		
実態	・光や音が出るものへの が高まってきていて、 したりする場面ばしたり、 にたりする場面が増えている。 となる。 な数分種度、続けて振めな にの操作もできるようにな ってきた。 ・中いすから降りて、 毎くことが好きである。 歩くことが好きである。 りなから声を出して関わるが が見られる。関わりの少な になからを出して関わる が見られる。関わりの少な になってきた。 かってきないが、 が見られる。関わりの少な になってさないが、 たりする様子も見られるな たりする様子も見られるよっ たりする様子も見られるよっ たりする様子も見られるよっ たりする様子も見られるよ			・心身の状況により着替えに・高かってとができないと離れるが、朝の活動で因のとなるの。気持むべきないときと、短時間で着替えなっている、数師の言葉描けを済まれて身だしなみを整えることができるようになってさ		・名前を呼んで視線を合わせ・ て待つことで、スムーズに 技移を返すことができるよ うになってきている。 ・						
児童名	-	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$		· (選)		(E)						

小学部5年 日常生活の指導 年間指導計画

月 題 材 名 目 標 学 習 内 容 (実施時数) ○朝の活動 ・教師や友達に自分から挨拶したり、挨 がを返したりする。 ・自分の役割が分かり、係活動に進んで取り組む。 ・決められた時間内で身支度や係活動を行う。 朝の会 ・挨拶や礼のときに姿勢を正す。 ・友達とタイミングを合わせて声を出し、挨拶する。 ・聞きやすい声や立ち位置に気を付けて、係の発表をする。 ・ 合言葉	反省と引き継ぎ
係活動 ・ 拶を返したりする。 ・ 連絡帳と宿題の提出・ 検温・ 献立の記入・ 投過・ 献立の記入・ 日付と天気の記入・ 健康観察カードの係 でする。 朝の会 ・ 挨拶や礼のときに姿勢を正す。 ・ 挨拶 ・ 今月の歌し、 挨拶する。 ・ 間きやすい声や立ち位置に気を付けて、係の発表をする。 ・ 一日付と天気・ ・ 今日の給食・ 今日の予定・ 合言葉	
・友達とタイミングを合わせて声を出 し、挨拶する。 ・聞きやすい声や立ち位置に気を付け で、係の発表をする。 ・合言葉	
・姿勢、聞き方	
○帰りの活動 ・掃除の手順や用具の使い方が分かっ ・用具の使い方 て、進んで清掃に取り組む。 ・掃除の仕方 ・整理整頓	
帰りの会 ・下校時に忘れ物がないか確認する習慣 ・持ち物の整理 ・ がんばり発表 ・ 1 日の学習を振り返り、頑張ったこと ・ 挨拶 ()	
○基本的生活習慣 着替え ・着替えの有無に気付き、自分から着替えに向かう。 ・みだしなみ・カルで腕を伸ばしたり曲げたりして着替える。 ・脱いだ服を丁寧に畳み、籠に入れる。・ハンカチ、ちり紙の入れ替えを忘れずに行う。・着替えた後に、自分からまたは教師の促しを受けてシャツの裾をしまう。	
通 持ち物の整理 ・身の回りの物を決められた場所に置く。 ・持ち物の整理整頓	
し 食事 ・「いただきます」「ごちそうさま」の ・食事のマナー 挨拶をする。 ・箸やスプーン、フォークを正しく使っ て食べる。 ・皿に手を添えたり持ったりして食べ る。 ・ふきんの準備に進んで取り組む。	
#せつ ・休み時間に、自分からまたは教師の促 ・排せつの仕方しを受けて排せつに向かう。・手洗い・排せつ後、シャツの裾をしまう。・排せつ後は、自分からまたは教師の促しを受けて手を洗い、ハンカチで拭く。	
・屋外での活動後や食事前に、教師の見	
○集団参加 きまり ・時計を見て、決められた時間を意識し で行動する。 ・椅子に着席して話を聞く。・片付け ・境業時間と休み時間 の区別	

担当者(松尾佑美、藤井真由、久保田希)

事例3

小学部5年「日常生活の指導」 指導の内容「朝の活動」

秋田県立大曲支援学校 教諭 遠山 洋平

1 本指導の内容に関する、年度当初の対象児童の実態

自閉的傾向のある児童であり、音に対して敏感であるが、イヤーマフを使用することで落ち 着いて過ごしている。集会活動など集団での活動に参加できることが徐々に増えてきている。 友達の様子を手本にしたり、視覚的な支援をしたりすることで、向かうべき活動を理解し、取 り組めることが多い。

2 目標(本指導の内容に関して、今年度末までに身に付けたい力、目指す姿)

- ○登校後から朝の会までの流れが分かり、自分から進んで身支度をしたり、係活動に取り組ん だりする。
- ○着替えの際に上衣、下衣の順番で素早く着替え、下着姿でいる時間を短くする。

3 授業改善の視点

- ○児童の認知特性に応じて手立ての改善
- ○最適な言葉掛けのタイミングや教材の提示の仕方
- ○児童の成長に応じた支援量の調整

4 指導の実際

(1) 活動の流れ

- ○朝の活動を以下の順番に沿って行うために、視覚的な教具等で支援を行っていく。
 - ①教室に入り、連絡帳や手紙などを所定の場所に出す。
 - ②ランドセルをロッカーに入れる。
 - ③検温し、健康観察簿に丸を付ける。
 - ④トイレで用便を済ます。
 - ⑤係の仕事をする。 (ごみ捨て)
 - ⑥着替えをする。
 - ・着替えについては別に手順カードを準備し、確認をしながら行う。
 - ⑦朝の会に参加する。
 - ⑧係の仕事をする。 (健康観察簿を保健室に届ける)

(2) 工夫点

- ○朝の活動の順番が分かるように手順表を準備した。最初は教師が手順表の使い方の手本を 示し、徐々に自分でできる部分を増やしていった。
- ○適宜手順表を改善し、児童の実態に合わせ意欲をもって取り組めるようにした。
- ○手本となる友達に注目できるように言葉掛けをし、着替えなどの活動が同じ時間になるよ うにした。
- ○着替えについては、朝の活動と別の手順表を準備した。

※朝の支度の手順表改善の実際

4~7月使用の手順表

順番が一目で分かるように配列し た。一つの活動が終わる度に、カー ドをはがして下のポケットに入れる ようにした。



②8~10月使用の手順表

めくり式にし、今やるべき活動だけが分 かるようにした。前の 手順表よりも活動にス

ムーズに移れるように なってきた。



③ 11 ~ 12 月使用の手順表

今まで使用していた手順表に慣れて意欲 が下がってきたため、楽し

みながら朝の活動ができる ように、手順表の写真を分 割してパズルにした。



④1月から使用の手順表

より達成感が得られるように、今までの

手順表に加え、シー ルでのご褒美を付け 加えた。



※着替えの実際

朝の支度と別に着替えについても、別に手順表を準備し取り組んだ。朝の 支度と同様にシールで評価するなどの改善を重ねて使用した。



5 対象児童の変容

- ・朝の活動については手順表を一覧の提示から、めくり式、パズルやシールの導入など、改善 を加えていった。手順表をきっかけとして次の活動に取り組むことができた。特にパズルを 取り入れた手順表に変えたときは、パズルのピースになっている半分の写真カードを見せる
 - とスムーズに活動に移れることが増えた。ごみ捨てと健康観察簿を運ぶ 係については、言葉掛けが無くても進んで行う姿が見られるようになっ てきた。また、朝の活動がスムーズに終えられ、時間に余裕ができたこ とで新たに玄関の下駄箱掃除の活動を加えることができた。さらに、朝 の活動をスムーズに終えられることで、2時間目以降の活動にも落ち着 いて参加できるようになった。



ごみ捨ての様子

・着替えについては、1学期は上衣、下衣を全部脱いでから着替えてい た。言葉だけの指示では分からないことが多かったが、手順表を提示し 見るように促したり、服を脱ぐときのきっかけを手伝ったりすることで 順番通りに着替えられるようになった。さらに、手順表通りにできたと きにシールを貼るようにしたところ、着替えに要する時間が短くなった。



着替えの様子

6 他の指導場面との関連

- ・生活単元学習や国語・算数の時間など他の学習場面でも、活動の手順全体の流れを示すより も、今の活動を一つだけ分かるように示して指導するようにした。
- ・手洗いについても同じような形式で手順カードを示して行った。指の間や手首まで丁寧に洗 えるようになった。

事例4

小学部] 年「日常生活の指導」 指導の内容「朝の会、朝の活動」

秋田県立秋田きらり支援学校 教諭 髙橋 亜希子

1 本指導の内容に関する、年度当初の対象学級の実態

※小学部1年、各教科等を合わせた指導を主とする学級である。主な障害名は2名とも脳性ま ひである。

【朝の活動】

・物の整理や身支度など教師の指示を受けて行う。手指を使った細かな活動は難しいが、自分 で行おうとする気持ちがあり、補助具を活用しできる準備に自分で取り組んでいる。

【朝の会】

・個々に役割を設定し、活動を見合ったり、やり取りしたりする場面を設けることでお互いの 活動を意識しながら朝の会に参加している。2名とも発音が不明瞭だったり、発語が少ない ために相手に言いたいことが伝わらないことが多く、ジェスチャーでの表現や教師による代 弁を取り入れながら朝の会を進行している。

2 目標(本指導の内容に関して、今年度末までに身に付けたい力、目指す姿)

- ①登下校時の準備や身辺処理等、自分でできることを増やし、自分から行う。
- ②朝の活動や1日の生活の流れが分かり、自分から活動する。
- ③あきらめずに、自信をもって相手に自分の気持ちを伝える。

3 授業改善の視点

- ○児童のやりたい気持ちに沿った補助具の工夫
- ○児童の変容に応じた支援内容の工夫
- ○育てたい姿と関連付けた課題設定とねらいのスモールステップ化

4 指導の実際

- (1) 活動の流れ(※は手立て)
 - ①朝の活動:上着を脱いでハンガーにかける。→ランドセルから連絡帳や給食袋などを出 し、かごに入れる。→係活動(カレンダー、今日の給食メニュー、ごみ捨て)
 - ※できるだけ自分で行えるように、補助具を準備する。困った時は児童自ら教師に依頼す るのを待つ。
 - ②朝の会:司会、カード係(次第をめくる)、日にちと天気、カレンダーワーク、今日の勉 強、挨拶などを児童同士がやり取りしながら行う。
 - ※見通しをもてるよう、活動の流れを同じくし、継続する。
 - ③※朝の会の挨拶や係活動をとおして、教師や友達とやり取りする場面を設定する。自分の 表現が伝わったという自信をもてるよう、発語や表現の場面を決め、少しずつ増やす。

工夫点

- ①個々の育てたい姿(児童の願いを含む)を目指した係活動の充実
 - ・朝の活動の流れが分かり自分から行えるよう、活動順を視覚化し掲示した。
 - ・一人で活動できる教材や補助具を準備した。
 - ・国語・算数・自立活動等の学習と関連付けた係活動を設定した(平仮名の文字チップを 並べて作る給食メニュー表、カレンダー、活動時間の設定など)。

②朝の会の項目の変更

- ・「今日のめあて」を考える活動を設定した。児童自身が今日の学習の中から頑張りたい ことを決める。帰りの会で振り返る。
- ③児童同士のやり取りで進める朝の会
 - ・教師主導から児童主導の朝の会へ移行できるよう、教師の代弁や仲立ちを少しずつ控 え、児童同士でやり取りしながら進める場面を大事にした。

5 対象児童・集団の変容

- ・自分で活動表を見て今やることを指差しながら朝の活動を行うようになった。
 - ・難しい部分を教師に依頼しながら最後まで自分の力で活動するようになった。
 - ・時間を意識して活動することができるようになった。
- ・様々な活動に見通しをもち、目標を意識しながら活動するようになった。
 - ・帰りの会での「今日の反省」の場面で、その日の出来事を順序立てて話したり具体的 な感想を話したりするようになった。
- │・朝の会を繰り返す中で、不明瞭ながらお互いが話していることが分かるようになり、 友達が話をする場面に注目したり、友達の話を聞いて答えたりするようになった。
 - ・進行中の間違いに気付いて正したり、雑談の多い友達に朝の会を進めるように伝えた りし、児童同士でやり取りしながら朝の会を進めるようになった。



5月:教師の指示を受けて活動する朝の会



1月:見通しをもち、自分たちで進める朝の会

6 他の指導場面との関連

- ・係活動(給食メニュー表作成)により、単語の構成力が付き、日常会話の中で発語で伝わら ない部分を平仮名五十音表を正しく指差すことで、確実に伝えることができるようになっ
- ・算数での学習と関連付け、時間を設定して活動している。時計が読めるようになり、休み時 間を守って遊ぶなど、時間を意識した学校生活を送ることができるようになった。家庭生活 においても、登校時間を意識して朝の時間を過ごしたり、テレビゲームなどをする時間を守 ったりして生活するようになった。
- ・挨拶や好きな活動などを中心に、児童がお互いの表現を読み取って返事をしたり答えたりで きるものが増え、様々な場面において、教師の代弁等の支援がなくても児童同士で楽しんで やり取りする場面が増えてきている。

小学部3年「日常生活の指導」 指導の内容「朝の活動、朝の会」

秋田県立支援学校天王みどり学園 教諭 鎌田 育子

1 本指導の内容に関する、年度当初の集団の実態

大まかな手順や方法が分かって一人で取り組む児童や、手順や方法を教師と一緒に確認しな がら取り組む児童がいる。係活動には、繰り返し取り組むことで見通しをもち、自分の役割を 理解してやり遂げようとすることができる。また学級の友達に対して関心をもち、言葉や身振 りなどで自分から関わろうとする姿が見られるようになってきている。

2 目標(本指導の内容に関して、今年度末までに身に付けたい力、目指す姿)

- ○少ない支援、又は一人で身の回りのことができる。
- ○あいさつや返事、簡単な受け答えなど、人との関わりの基礎となるコミュニケーションの力。
- ○集団(学級)の一員として自分の役割に取り組む。

3 授業改善の視点

- ○身に付けた知識を使って活動する場面の設定(係活動の交代)
- ○児童同士が関わり合う場面の設定と工夫
- ○TTの連携(支援内容、方法の共有)

4 指導の実際

(1) 活動の流れ

<朝の活動>

持ち物の整理、着替え、排せつ、検温、係活動

- <朝の会>:朝の活動で取り組んだ係活動を基本とした当番の活動を行う。
 - ①あさのあいさつ
 - ②日付と天気
 - ③健康観察
 - 4)給食
 - ⑤おはなし
 - ⑥おたのしみ(児童同士が関わり合うことができるようなゲームや活動を設定し、準備や後 片付けまで児童が主体的に動くことができる場面)
 - (7)おわりのあいさつ

(2) 工夫点

※指導の手立て等

- ○「健康観察」と「給食」の係の児童を9月に交代し、自分の取り組んでいた活動を教え合え るような状況づくりをした。さらに1月にも交代の機会を設け、2人で協力し合いながら取 り組むことができるようにした。
- ○当番活動の際に児童が自ら伝わる声の大きさを意識できるように、また教師が基準を基に具 体的に称賛できるように、「声のものさし」カードを提示した。(写真1)
- ○児童同士が自然に関わりをもち、相手を意識して活動に取り組むことができるようにカードの やりとりや両手でのタッチなどを取り入れ、正しい方法を繰り返し指導した。見本となるよう な関わりの場面や変化が大きかった場面では即時的に称賛する場面を増やした。 (写真2)
- ○児童同士が関わり合いながら活動に取り組むべき時間(おたのしみ)を設定し、1日の始ま りに達成感や楽しさを全員が味わうことができる活動内容を設定した。(写真3)







(写真1) 「声の物差しカード」 (写真2) 児童同士の関わりを促す教材(写真3) 「おたのしみ」活動の様子

5 集団の変容

<友達と協力して~係活動の交代>

- ・年間通して1つの係活動を行うことで、自分のやるべきことをやり遂げることができる児 童もいるが、他の児童には、期間を決めて係活動を交代する方法を取り入れたところ、自 分の経験したことを相手に伝え、教え合いながら活動する様子が見られるようになった。 また、以前は教師に質問し続ける様子が多かったが、この活動を繰り返していくことで自 分が経験して理解したことを、自信をもって相手に具体的に伝えるとともに、2人で協力 して係活動に取り組むことができるようになってきた。
- ・朝の活動の係活動を経て、朝の会で1人が健康観察、1人が給食の当番の活動を行った。 友達や教師の前で発表する際に、分からなくなったり自信がなくなったりしたときは教師 ではなく、一緒に活動した友達に尋ねることができるようになった。







分からないことを相談する

協力して取り組んだ係活動の成果を朝の会で発表する

<友達と一緒なら楽しいね~集団としてのまとまり>

- ・おたのしみとして、児童同士が関わり合いながらボール渡しゲームなどの簡単なゲームに 取り組む時間を設定した。そのことで一人一人の活動から、児童同士が相手を意識して活 動することができるようになってきた。「相手をよく見る」「相手に反応を返す」「相手 に伝える」など基礎的なコミュニケーションの力も伸びてきた。
- ・ゲームの中で、ゴールするためには友達と協力して取り組んでいくことが大切だというこ とを意識できるような活動を取り入れることで「友達と一緒なら楽しい」「教えてもらっ て嬉しい」などの気持ちが育ち、学級集団としてのまとまりが生まれてきた。







児童同士が楽しみながら、一緒に活動に取り組むボール渡しゲームの場面

6 他の指導場面との関連

・生活単元学習~たんけんに行こう

学校内の探検の場面や、校外での探検の場面(公共施設を中心に)で、児童同士がお互いに 自分の気持ちを伝えたり、リーダーとして役割を果たしながらも全員を引っ張って次の場所 や活動を教えたりすることができるようになった。

小学部 1 年「日常生活の指導」 指導の内容「朝の会」

秋田県立ゆり支援学校 教諭 小野 祐美子

1 本指導の内容に関する、年度当初の集団の実態

- ・対象は小学部1年生。男子2名、女子2名、計4名の学級である。
- ・女子2名は、言葉による簡単な会話ができ、友達や教師の名前を呼んだり自分から話しかけ たりして、積極的に関わろうとしている。
- ・男子2名は、表出言語は少ないが、身振りや簡単な言葉で自分の気持ちを表したり、教師と やりとりしたりしている。
- ・朝の会の途中で離席したり立ち上がったりする児童もいるが、全員が少しずつ朝の会の流れ に見通しをもってきており、徐々に落ち着いて参加できるようになってきている。
- ・休み時間に「朝の会ごっこ」をする児童もおり、朝の会を楽しみにしている様子も見られ る。

2 目標(本指導の内容に関して、今年度末までに身に付けたい力、目指す姿)

- ○自分の役割が分かり、進んで取り組む姿
- ○友達や教師と関わったり、誘いかけを受け入れたりする力
- ○活動に見通しをもち、最後まで頑張る力

3 授業改善の視点

- ○活動内容の精選
- ○児童の考えを促す言葉掛け
- ○他の指導の形態との関連
- ○詳細な実態把握

4 指導の実際

- (1) 活動の流れ(朝の会)
 - ①はじめのあいさつ → ②朝の歌 → ③健康観察 → ④わくわくタイム → ⑤先生の話
 - **→** ⑥ おわりのあいさつ

(2) 工夫点

- ○「ちびっこリーダー」 (朝の会の司会) の取組
- ○「わくわくタイム」の導入
- ○見通しをもたせるための工夫(活動から活動へつなぐ支援)

5 集団の変容

○自分の役割が分かり、進んで取り組む姿

朝の会の司会の係を「ちびっこリーダー」と呼び、毎日当番で行った。「ちびっこリーダ - という名前そのものも、児童の役割に対する意欲を高め、進んで役割に取り組む力につな がった。また、友達が役割に取り組む姿を見て、これまで朝の会の司会にはあまり興味の見ら れなかった児童が、休み時間にめくり式の式次第を手に取るようになったり、教師と一緒に朝 の会の進行に取り組んだりする姿が見られるようになった。







「ちびっこリーダー」が進行



当番表

○友達や教師と関わったり誘いかけを受け入れたりする力

朝の会の中に「わくわくタイム」というコーナーを設け、コミュニケーション的内容(「友 達とタッチ」、「友達とぎゅっ(抱き合う)」など)や動作模倣など様々な内容を扱った。ま た、「けんこうかんさつ」では、呼名に対する返事の後はみんなの前に出たり、次の友達にタ ッチしたりするようにした。友達を意識したり、関わったりする場面を意図的に設定すること で、友達に自分から関わろうとしたり、友達に注目したりする姿が増えてきた。



友達に名前カードを渡す



「わくわくタイム」での動作模倣

○活動に見通しをもち、最後まで頑張る力

当初は朝の会の流れを一覧で提示していたが、児童の実態を考慮し、めくり式の式次第に 変更した。また、式次第の横に番号をつけ、全体の見通しをもてるように工夫をした。提示 の仕方を実態に応じて変更し、毎日繰り返し取り組んだことで、活動に見通しをもつことが でき、離席が多かった児童も、落ち着いて参加できる時間が延びてきたと考えている。

また、朝の会の前に絵本タイム(絵本の読み聞かせ)を設けた。個々で行う朝の活動は、 一人一人の課題や支度にかかる時間も全く違ったため、個別の活動から全体の活動である朝 の会へ気持ちを切り替えることが難しかった。絵本タイムを設けたことで、朝の会が始まる ことが分かり、見通しをもって朝の会へと気持ちを切り替えることができた。教師の言葉掛 けだけではなく、活動の魅力で児童の関心を引きつけ、次の活動へと気持ちを切り替えてい けるような手立て(活動から活動へつなぐ支援)が有効であり、今後も大切にして授業つく りをしたいと考える。



改善前



改善後



絵本タイム

6 他の指導場面との関連

「わくわくタイム」では、1日の中で中心となる学習で取り組んでいる課題や内容を取り上 げた。例えば、学校祭の練習を行っている時期には、せりふや決めポーズの練習に取り組み、 学級内で披露したり、称賛し合ったりした。それによって、初めての学校祭であったが、学部 での練習にも意欲的に取り組み、見通しをもって参加することができた。また、継続して動作 模倣を取り上げたことで、初めは模倣が苦手だった児童も、楽しみながら教師の真似をしてポ ーズを取ったり動いたりすることができるようになってきた。体育や音楽等でのダンスやリト ミックなどでも、前で演示をする教師の模倣ができるようになり、他の児童と一緒に活動を楽 しむ姿が見られた。

個別に行っている国語・算数の学習との関連も大切にした。国語・算数の学習内容を確認 し、朝の会での内容とリンクさせた。例えば、健康観察では、国語の内容と関連して自分の顔 写真と名前カードのマッチングの課題をステップアップさせたり、算数で学習している指数字 を朝の会の進行に活用したりした。国語・算数で学習したことを朝の会で披露することで自信 がつき、国語・算数の学習意欲も高まった児童もいる。

また、日常生活の指導における実態表を作成し、一人一人の実態やねらいを共通理解したこ とで、日常生活の指導だけでなく、他の教科等においても、関連する場面で一貫した指導がで きた。作成した実態表は定期的に見直し、児童の成長や現在のねらいを確認した上で、今後も 活用していきたい。

小学部1年 日常生活の指導 学習指導案

日 時:平成29年10月10日(火)

8時45分~9時30分

場 所:小学部1年教室

指導者:小野祐美子(T1)、畠山千恵(T2)

佐藤愛香(T3)

1 単元名 ぴかぴか!わくわく!あさのかい~ちびっこリーダーにチャレンジ~

2 目標

- (1) 学級の友達や教師と関わったり、誘いかけを受け入れたりしながら、朝の会に楽しく参加する。
- (2) 呼名に対してタイミングよく返事をしたり、「元気です」を言葉や身振りで表現したりする。
- (3) 教師と一緒に「ちびっこリーダー」の役割に取り組む。

3 児童と単元

(1) 児童について

本学級は、男子2名、女子2名の計4名で構成されている。全員が、入学前は一つ一つ手を添 えて補助しながら行動していた児童たちであったが、少しずつ言葉での簡単な指示を理解した り、きっかけとなる写真カードを見たりしながら、朝の活動の流れに沿って行動できるようにな ってきた。女子2名は、言葉による簡単な会話ができ、友達や教師の名前を呼んだり、自分から 話しかけたりして、積極的に関わろうとしている。男子2名は、表出言語は少ないが、身振りや 簡単な言葉で自分の気持ちを表したり、教師とやりとりしたりしている。

途中で離席したり、立ち上がったりする児童もいるが、全員が少しずつ朝の会の流れに見通し をもってきており、徐々に落ち着いて参加できるようになってきている。また、休み時間に朝の 会ごっこをする児童もおり、朝の会を楽しみにしている様子も見られる。

(2) 単元について

登校後、身支度や排せつなどの朝の活動を個々に行っている児童たちにとって、朝の会はその 日初めて学級の友達とみんなで行う活動である。意欲的に取り組み、気持ちよく一日スタートが できるような朝の会にしたいと考えている。

これまでの朝の会は、教師の言葉掛けを聞いて起立や着席をしたり、教師の呼名に応じて返事 をしたりするなど、教師とのやりとりを中心に取り組んできた。その中で、友達への関心が徐々 に広がってきた児童たちにとって、今後は友達を意識し、一緒に活動することが大切であると考 える。そこで、朝の歌や健康観察、わくわくタイムなどの活動を通して関わり合う場面を意図的 に設定し、友達と関わったり、関わりを受け入れたりする気持ちを育んでいきたい。

また、初めて係活動に取り組む児童にとって、「やってみたい!」という意欲を高めることは 大切なことであると考える。そこで、朝の会における役割を「ちびっこリーダー」という司会 の係に限定し、当番で取り組むようにしたい。ちびっこリーダーとしての役割を果たす友達の姿 を見ることによって、「私もやりたい!」という係活動に対する関心や意欲を引き出すことがで き、今後、様々な係活動に自信をもって取り組むことにつながるのではないかと考え、本単元を 設定した。

(3) 指導に当たって

「子ども同士で互いに意識し、表現し合う姿を目指すために、以下の手立てに留意し、指導に 当たる。

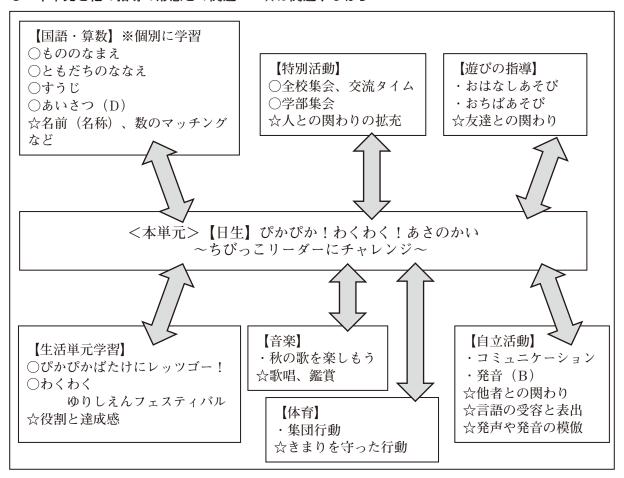
- ・発表する友達に注目したり、意欲的に発表したりできるように、お立ち台を用意する。
- ・様々な表現方法を知り、司会進行や発表等の自発的な表現につながるように、言葉だけでな く、簡単な手話や身振りをまじえて話す。
- ・友達と一緒に、楽しく朝の会に取り組むことができるように、児童同士でタッチをしたり、手 をつないだりして関わり合う場面を設定する。
- 上記以外に関して、次の点に留意して、指導に当たる。
- ・児童の自主的な行動を引き出すことができるように、視覚的な支援を用いたり、「次は何をし ますかしなどの、直接的ではなく気付きを促すような言葉掛けをしたりする。

- ・朝の会に向けて気持ちを切り替えることができるように、朝の会の前に絵本の読み聞かせを行 う。
- ・国語や算数の学習と関連できるように、数字や平仮名などの指導に関する言葉掛けや発問を意 図的に行う。
- ・見通しをもち、落ち着いて参加できるように、朝の会で扱う内容を精選するとともに、「けん こうかんさつ」と「わくわくタイム」を中心に、会を進行する。
- ・ちびっこリーダーのやる気を高めたり、誰がちびっこリーダーか分かるように、教室に「今週 のちびっこリーダーさん」を掲示したり、リーダーにバッジをつけたりする。

4 指導計画(総時数187時間 本時 99/187時間)

時数	学習内容	主なねらい
7 0	ぴかぴか!わくわく!あさのかい① ~みんなでいっしょに~ 〈4月~7月〉	・朝の会の流れが分かり、教師と一緒にあい さつや健康観察などの活動に取り組む。
4 4 (本時 29 / 44)	ぴかぴか!わくわく!あさのかい② ~ちびっこリーダーにチャレンジ~ 〈8月~10月〉	・友達に注目したり、友達と関わり合ったり しながら、朝の会に取り組む。 ・司会の係に、教師と一緒に取り組む。
3 7	ぴかぴか!わくわく!あさのかい $③$ \sim ぼくの、わたしのかかり $Part1\sim$ $\langle 11月\sim 1月 \rangle$	・どんな当番があるのかを知り、教師と一緒 にそれぞれの当番活動に取り組む。
3 6	""""""""""""""""""""""""""""""""""""	・自分の当番の活動内容が分かり、当番活動 に取り組む。 ・当番の友達に注目する。

5 本単元と他の指導の形態との関連 ☆は関連するねらい



6 本時の計画

- (1) 本時における全体のねらい
 - ・友達と手をつないだり、「健康観察」で名前を呼ばれた友達に注目したりして、関わり合いな がら朝の会に参加する。
 - ・名前を呼ばれたら大きな返事をしたり、「元気です」と答えたりする。

(2)個々のねらい

児童 学年・性別	単元における目標	本時のねらい
A 1年・男	・友達の誘いに応じて手をつないだり、友達に注目したりする。・身振りや言葉を使って、呼名などに応じたり、教師と一緒にちびっこリーダーの役割に取り組んだりする。	・歌のコーナーで、教師の言葉掛けを 受けて隣の友達と手をつなぐ。 ・健康観察で、教師や友達に名前を呼 ばれて返事をしたり、「元気です」 と答えたりする。
B 1年・男	・教師や友達からの誘いかけに応じて 手をつないだり、友達に注目したり する。・身振りや発声を使って、返事をした り、教師と一緒にちびっこリーダー の役割に取り組んだりする。	・健康観察やわくわくタイムで、教師からの誘いかけに応じて前に出た友達に注目する。 ・健康観察で、名前を呼ばれたら、教師の言葉掛けを受けて「はい」と返事をする。
C 1年·女	・自分から友達と手をつないだり、前に出た友達に注目したりする。 ・言葉で健康観察での呼名などに応じたり、ちびっこリーダーの役割に取り組んだりする。	・健康観察やわくわくタイムで、前に 出た友達に注目する。・ちびっこリーダーとして、教師と一 緒に言葉を話し、朝の会を進行す る。
D 1年・女	・友達の名前を呼んだり、「立ってください」と言葉を掛けたりする。・ちびっこリーダーの役割に、一人で取り組む。	・場面を見て、友達に「座って」や 「立って」と言葉を掛ける。・教師と声を合わせて、あいさつをしたり、友達の名前を呼んだりする。

(3) 学習過程 ※朝の会のみ

時間	学習活動	指導上の留意点等	準備物
	I :	~9:10までは、朝の活動を個別に行う。 1標や指導の手立てについては、別紙参照。	
4分	1 「えほんタイム」 絵本の読み聞かせ を聞く。	 ・集合するきっかけとなるように、タンブリンを鳴らす。 ・朝の活動やその後の自由遊びから気持ちを切り替え、朝の会に向けて気持ちを整えることができるように、絵本の読み聞かせを行う。 ・絵本の内容をみんなで楽しめるように、動作や言葉の模倣を取り入れる。 	
1分	2 今週のちびっこリーダー (司会進行係)を確認する。	 ・Cが「自分がちびっこリーダーだ!」という気持ちをもてるように、Cにリーダーバッジをつける。 ・Cが自信をもって司会の役割に取り組めるように、T1は発語のきっかけとなる言葉掛けをしながら一緒に話したり、身振りを演示したりする。 	バッジ 進行表
1分	3 あさのあいさつ	・司会に注目し、姿勢を正したり礼をしたりできるように言 葉掛けをしたり、手本を示したりする。	
1分	4 あさのうた	・楽しい雰囲気を感じたり、友達を意識したりできるように、隣の友達と手をつないで歌う。その際、友達と手をつなぐことができるように、手を添えたり、「○○さんと手をつなごう」と言葉掛けをしたりする。	
5分	5 けんこうかんさつ・呼名・名前カードと顔写真のマッチング・「元気です」の返事	 ・自分の名前が呼ばれることや、名前を呼ばれる友達が誰かが分かるように、名前カードを提示しながら呼名する。 ・自信をもって返事をしたり、「元気です」を自分なりに話せるように、必要に応じて教師が演示をしたり、言葉掛けをしたりして促す。 	(平仮名) 顔写真
3分	6 せんせいのはなし・日付と天気・今日の予定・今日の給食	 ・日付と天気を正しく話すことできるように、始めに教師が大きな声で話し、全員で復唱するように促す。 ・一日の予定の中で中心となる学習が分かるように、絵カードや写真、具体物などを用いながら話す。 ・思考を促すことができるように、「今日の天気はなに?」「(絵カードを提示して)これはなに?」などの発問をしたり、2枚のカードから選んだりできるようにする。 	指し棒 天気カード 予定表 献立ボード
4分	7 わくわくタイム 「レッツポーズ!」	 ・わくわくタイムへと気持ちを切り替え、期待感をもつことができるように、T3をわくわくタイムの先生として呼ぶ。 ・楽しく取り組むことができるように、「ゆり支援フェスティバル」のダンスやステージ発表につながるポーズの練習を取り入れる。 ・一人一人の活動に注目できるように、前に出て発表する時間を設定する。また、満足感を味わうことができるように、友達のポーズの真似ができた時は称賛する。 	
1分	8 おわりのあいさつ	・司会に注目し、姿勢を正したり礼をしたりできるように言 葉掛けをしたり、手本を示したりする。	

(4) 評価

<児童>

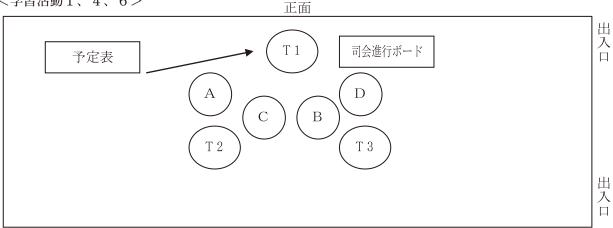
- ・友達と手をつないだり、動きに注目したり、言葉を掛けたりして関わり合いながら、朝の会に参 加できたか。
- ・ちびっこリーダーとして、進んで司会進行の役割に取り組むことができたか。また、ちびっこリ ーダーに注目することができたか。

<教師>

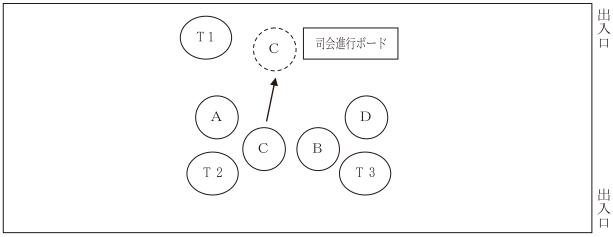
- ・友達を意識したり、関わり合いを促したりするための手立てや環境設定は適切だったか。
- ・児童の気付きを促し、児童中心に朝の会に取り組むことができる教師の配置は適切だったか。

(5) 配置図

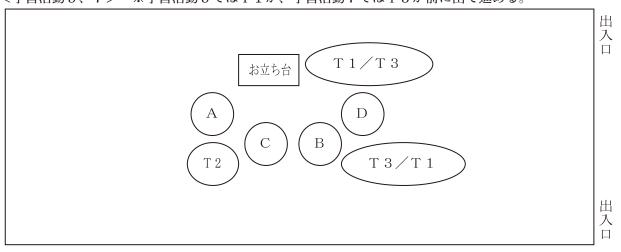
<学習活動1、4、6>



<学習活動2、3、8>



<学習活動5、7> ※学習活動5ではT1が、学習活動7ではT3が前に出て進める。



年間指導計画及び評価

田	10			11			12	-	2		က	**
												_
日常生活の指導	畠山 千恵 小野 祐美子 佐藤 愛香	に付け、一人でできることを増やす。 教師の言葉掛けや支援に応じながら、日常の活動に取り 表情、発声で伝える。	単	・教師の言葉掛けを聞いて立ち止まり、自分なりに挨拶することができた。担任など身近な教師には、自分から挨拶する児童も少しずつ見られてきています。 はったい かっこん	・教主に本たら行う物を設任し、牧価 をするという流れが分かり、少ない 言葉掛けで朝の活動に取り組むこと ができるようになってきている。	自分の名前を呼ばれると、手を挙げたり、「はい」と返事をしたりできる。	・&カードを使いながら一日の学習予定を伝えた。予定表を見て、「にこてにてのイム、あるよ!」などと楽しるみな学習を話す児童も見られた。	・学校では布パンツを履くようにした。 A やBはトイレで排尿できる回数が増えた。 D は定時に少量の排尿ができるようになってきている。 C もトイレに嫌がらずに行き、一定時間便座に座っていることができるようになった。	・給食の準備の流れを覚え、少ない言葉掛けで、一人で取り組むことができる場面が増えてきている。 ・教師とのやりとりを通して、苦手な食べ物もまずは頑張って一口食べてみる気持ちが育ってきている。	・自分でも歯に沿って歯ブラシを動か そうとするようになってきており、 仕上げ磨きにも協力的になった。	・女服の着脱や、脱いだ衣服の ^{格木} な どで、一人でできる部分が増えてき た。CとDは、年度当初は朝の支度 に時間がかかりトイレで着替えをし ていたが、教室での着替えに間に合 うようになった。後期は衣服の裏表 や前後などを取り入れながら、たた み方なども継続して指導していく。	2 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 -
指導の形態	D 指導者名	習慣を身 分かり、 を言葉や	単元/題材の目標	・自分から検拶をしたり、返 事をしたりする。 ・朝の活動の流れが分かり、 身の間りの整理整備等自分	で、このことでは、9°°	自分の名前を呼ばれたら 返事をする。	・活動に意欲を持てるように 	・教師と一緒に定時にトイレ に行く。 ・排せつや始末の仕方を身に 付ける。	・手洗いや身支度 (おしぼり エプロン等) の準備等の習 價を身に付ける。 ・ 古手なメニューも挑戦して 食べようとする。	・自分で歯を磨いたり、仕上 げ磨きをしてもらったりす る。	・自分で着替えたり、脱いだ 衣服をたたんだりする。	() () () () () () () () () () () () () (
-	学習クループ 小学部1年 児童 A、B、C、 (人数) (4名)	年間目標 ・基本的な生活が ・1日の生活が組む。 組む。 ・自分の気持ち ・	単元/題材名・学習内容 (予定/実施時数)	登下校・朝の活動 接移、靴の履き替え、上 着等の着脱、提出物や持 ち物整理、着替え、排せ つ、極温		朝の会・帰りの会 挨拶、歌、健康観察、日	付と天気、今日の予定、 今日の給食、歌、スピー チ、今日の振り返り、先 生の語	(排せつ) 排せつの仕方、時間排せつ、おむつ交換時の協力 動作、尿意・便意の伝え 方	<u>総食</u>	<u>歯磨き </u> 歯の磨き方、うがいの仕 方	<u>着替え</u> 衣服の着脱の仕方、たた み方、着替え時の協力動 作	 (前期実施時数:131.6 h 前期予定時数:137 h)
	仲		田	4	rv		9	<u>~</u> ∞	6			
L											-	

く記入者 小野 祐美子> | NIMA A MIN A M

皿	単元/題材名・学習内容 (予定/実施時数)	単元/題材の目標	即温
10	(登下校・朝の活動) 接核、靴の履き替え、上着等の着脱、提出物や持ち物整理、着替えと協力 も物整理、着替えと協力 動作、排せつ、検温	自分から挨拶をしたり、返事をしたりする。朝の活動の流れが分かり、身の周りの整理整頓等自分で行う。	
11	朝の会・帰りの会 検移、歌、健康観察、日 体と天気、今日の予定、 今日の給食、歌、スピー チ、今日の続り返り、先生の話	・係の仕事に自分から取り組む。	
	<u>排せつ</u> 排せつの仕方、定時排せ つ、尿意・便意の伝え方	・排せつや始末の仕方を身に付ける。	
12	(給食) 手洗い、身支度、配膳下膳、箸やスプーンなどの 持ち方、食事中の姿勢、 食事のマナー	 ・手洗いや身支度(おしぼり エプロン等)の準備等の習慣を身に付ける。 ・姿勢や箸、スプーン等の持ち方に気をつける。 	
\vdash	<u> 歯磨き </u> 歯の磨き方、うがいの仕 方		
2	<u>着替え</u> 衣服の着脱の仕方、たた み方	・自分で着替え、衣服をたたむ。む。	
	[清掃活動] 教室内の掃除、整頓	・自分の机やいすを運ぶ。・清掃用具の使い方を知る。	
$_{\odot}$	(後期予定時数:137h f	後期実施時数 h)	
L	※上記の内容を、年間を通し	もして指導する。	<記入者 小野 祐美子>

別紙

平成29年度 小学部1年 日常生活の指導 実態表

			•		
区	項目	A (男)	B (男)	C (英)	X)
	目的地までの歩行	立ち止まる。	・言葉掛けをしたり、教室まで行くように促したり すると、教師と一緒に教室まで行くことができる。・好きなものがあると、立ち止まる。	・数室まで一人で来ることができるが、周囲の人や 環境に関心が移って立ち止まることが多い。 ・最近はたって移動しようとすることがあるため、 「歩きます」などの言葉掛けが必要である。	・教室や玄関までは一人で行くことができる。 ・下校時は、友達を待たずに一人で行ってしまうこ ともあったが、現在は友達と手をつないで一緒に 下校する習慣が身についてきている。
		5玄関まで止まらずに歩く。	くことができる。	支援で、一人で玄関から教室まで移	<目標> ・教師や友達の誘いに応じて、友達と一緒に下校する。
		く手立て〉 ・目的意識をもつように、目的地の写真カードを携 行する。	して行く場所を一緒に確認した いたところで見守ったりする。	掛けを少なくして、見守る。	〈手立て〉 ・手をつなぐことができるよう教師が友達との仲立 ちをして誘いかけたり、手をつないだ時は称賛し たりする。
┙	靴の履き替え	・立ったまま、片足ずつ履くことができる。	・立ちながら手を使わずに靴の脱ぎ履きができる。 ・魔くときに手を使わないため、たまにかかとの部 分を踏んだまま歩いていることがある。	・立ったままでの靴の履き方を練習中である。手を靴棚にかけるように促すと、自分で足をあげて靴を上げことするなど、徐々に自分でできるようになってきたってきたってったってきたって	・一人で靴を履き替えることができる。 ・人学当初は左右を間違えることもあったが、今は 間違えずに履くことができるようになった。
۴			手を使って履く。	<目標> ・立位で靴を履き替えることに慣れる。	
校			靴のかかと部分まで手	<手立て>・教師と一緒に練習したり、「立って履きましょう」などの言葉掛けをしたりする。	
	教師・友達との 挨拶	数筒のまね ようなら」 。	ナをすると、お辞儀をして挟拶を返す。ま 市の真似をして「お」は、よー」と続けて できるようになってきている。	 「おはようございます」と明瞭に話せるようになってきている。 「挨拶をすることは分かっているが、恥ずかしがって与わないことがあるので、言葉掛けが必要である。 	・教室に入る際に、自分から「おはようございます」と挨拶ができる。 ・挨拶を返すことができるが、挨拶されたことに気 ・付かずに通り過ぎてしまうこともあるため、言葉掛けが必要である。
		<日標> ・声を掛けられた相手に向かって発声する。	<目標> ・自分から「おはよう」と挨拶ができるようになる。	# .	<目標>・教師の促しがなくても、教師や友達に挨拶をする。
		<手立て> ・立ち止まって相手の顔を見るように、教師がモデ ルとなって一緒に技営する。	<手立て> ・「おはよう」と続けて言えるよう朝の場面を捉え ・がはが見来を示したり、自分から挨拶をするように促したりする。	れるように少	〈手立て〉 ・教師が手本となるように挨拶をしたり、自分から 挨拶ができた時は称賛したりする。
	幅子・かばんの 始末、 持ち物の整理、 ノートの提出、 持ち物の準備	盾しをもってきており、手順表 樗掛けを受けながら、持ち物の ∿る。	く持ち物の整理> ・手順表の活用によって朝の活動の流れを覚え、今 は少ない言葉掛けだけで一人で取り組むことがで きるようになってきている。	く持ち物の整理>・朝の活動に見通しをもっているが、周囲の人や環境に興味が移り時間がかかるため、言葉掛けや絵カードの提示が必要である。	く持ち物の整理> ・少ない言葉掛けて取り組むことができる。他の活動に関心が向き、朝の活動へを気持ちを切り替えることが難しい場合もあるが、教師とのやりとりや「次はなんですか?」などの言葉掛けで活動に戻ることができるようになってきた。
	,	で整理する。	<目標> ・朝の準備では、一人でスムーズに取り組めるよう になる。	目標> 「てきばき」を意識して、なるべく短時間で荷物 の整理に取り組む。	く目標> ・教師の促しがなくても、一人で朝の活動に取り組 む。
即・韓		16	〈手立て〉 ・離れたところで見守ったり、手順表を提示したり して自分で確認するように促したりする。	ている友達への注目を すか」などのヒントと	〈手立て〉 ・なるべく言葉掛けをせずに見守り、一人でできた 時には称賛する。
りの支度	着替え	・衣服の着脱を一人でできるようになってきた。裏 返しを直すのは教師の支援が必要である。 ・女服の始末ができるようになってきており、「は んぶん」と言葉掛けすると、半分にたたむことが できるようになってきている。	・着替えの手順に見通しをもっており、少ない言葉だけで、一人で衣服を着脱できるようになっている。 にいる。 ・脱いだ衣服の始末も自分なりのやり方で行っているが、きれいな衣服のたみかりのやり方で行ってい あが、きれいな衣服のたみ方について教師と一 緒に学習している。	・周囲の人や環境が気になってしまうため、個室で着替えを行っている。 ・時間はかかるが、手順に見通しはもっており、「次間はかかるが、手順に見通しはもっており、「次は?」と聞くと「ズボン(をはく)」などと答える。	・おおむね一人で着替えや脱いだ衣服の始末ができる。たたむ時も、自分で衣服を広げてきれいにたたもうとする姿が見られるようになってきた。 ・女服の前後をほぼ間違えずに着ることができるようになった。
			く目標> ・手順を覚えて、教師と一緒に衣服をたたむ。	く目標> ・手順に沿って、なるべく一人で着替えをする。 ・着替えにかかる時間を短くする。	<日標> ・下着姿にならないように順番を意識して着替えを する。
		く手立て> ・たたみ方の手順表を提示する。	く手立て> ・丁寧なたたみ方が分かるように、補助具を活用する。	く手立て> ・「次は何ですか」などの言葉掛けをしたり、手順 表を提示したりする。 ・時間を意識できるように、タイムタイマーなどを 用意する。	<手立て> ・手順表を用意したり、「順番に脱ぎましょう」な どの言葉掛けをしたりする。

				1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	
	井	・ホハンシを着用し、応時帯セン(1時間~1時間 半間隔)に取り組んでいる。学校ではトイレでの 排尿が定着してきている。 ・トイレに行きたい時は「おしっこ」と伝えること ができるようになってきている。	ツを滑出し、定時指在り(1時間~1時間 に取り組んでいる。 での排尿が定着してきている。トイレに行 時は落ち着かなくなるなどの行動の変化は サインはまだ習得していない。	に時排せつ(3.0 いる。 が汚れた感覚がま まうことが多い。 こったが、2 学期に た。	・ホイングを着用し、定時様せつ(1時間~1時間 ・1 年間隔)に取り組んでいる。 ・2 年期から家庭と学校のトイレで排尿ができるようになり、失敗もほばなくなってきている。 ・トイレに行くと必ず排尿するが、尿高を伝えるサインはない。 機嫌が悪くなったり、活動の途中に 急に立ったりするなどの行動の変化は見られる。
H		〈目標〉・教師に尿意を伝えてトイレに行き、一人で排尿する。		<目標> ・トイレでの排尿の回数を増やす。	〈目標〉 ・トイレでの排尿を定着させる。
明・帰り		『こ応じてシャツをしまうとこ。	im/ ic	〈手立て〉 ・30分間隔でトイレに行き、排尿を促す。 ・トイレで排尿できたときは称賛する。	〈手立て〉 ・原意を伝えられるように、行動の変化が見られた時に尿意の伝え方を示したり、伝えられた時は称賛したりする。
の支度	係の活動(役割意識)	・ 意識している様子はないが、 天気カードが張られていること	く健康観察係という意識があり、取りに行くよう・自分の役割だという意識があり、取りに行くように生さ、保健室まで行き、教師の言葉掛けで健康銀際簿を取ることができる。・自分の学級の健康観察簿ではないものを取ってしまうことがある。	く朝の会の司会進行係〉 ・朝の会の司会進行係(ちびっこリーダー)に意欲 的に取り組んでいる。 ・自分が当番の時には、「ちびっこリーダーをん」 ・上呼ぶと「はい」と返事をするなど、自覚がある。	く朝の会の司会進行係> ・朝の会の司会進行係(ちびっこリーダー)に意欲 的に取り組んでいる。 ・当番表を見て、「今週のちびっこリーダーは○○ さんです」と分かる。
		<日標> ・カレンダーから今日の日付カードを取り、黒板に 貼る。	200	<目標> ・自分の役割が分かり、教師と一緒に取り組む。	<目標> ・自分の係が分かり、自分から取り組む。
		-ドが取れるように、日付カート :うに「きょう」の表示をする。	0.1	く手立て〉 ・役割が分かるように、当番表を提示したり、教師 と一緒に繰り返し練習したりする。	<キ立て>・教師と一緒に係活動に繰り返し取り組み、徐々に・数節と一緒に係活動に繰り返し取り組み、徐々に 支援を少なくしていく。
	手洗い、身支度、食器・食品 の運搬、後始末 など	時間がかカ		く食器・食品の運搬> ・巻師と一緒に配膳用の机へ牛乳を取りに行く。 ・周りの人や環境に関心が移るため、言葉樹けが必要なときがある。	く食器・食品の運搬>・配膳用の机から牛乳を持ってきている。自分の名・配膳用の机から牛乳を持ってきている。自分の名札を確認し、間違えずに選ぶことができる。
		く目標> ・やるべきことが分かって、進んで身支度や後片付 けをする。	く目標> ・お盆にのった食器を落とさないように運ぶ。	<日標> ・一人で牛乳を取りに行ったり、少ない食器が乗ったお盆を持ってきたりする。	<目標> ・自分の給食を配膳用のワゴンから持ってくる。
		〈手立て〉 ・できるだけ教師の言葉掛けを抑え、自分で動ける ようにエブロンや帽子などのカードを準備する。	〈手立て〉・食器がすべらないように滑り止めシートをお盆にして教師と一緒に運ぶ練習を食事場面で繰り返し行う。	く手立て〉 ・教師と一緒に練習をしたり、「前を見ます」など の注意を促す言葉掛けをしたりする。	〈手立て〉・初めはテーブルから運んだり、ワゴンの取り出し・わなけて一ブルがを置い給食を置いたりして、教師と一緒に 練習をする。
4	资 田 副	・偏食が強い。白米やフライドポテト、鷄肉やゼリーなどは好んで食べる。 :コトノにの金べ物に在せたニートにもが、町井笠	・偏食が強い。肉や白米、ラーメンや果物などは好んで食べる。 よで食べる。 ・またばってやジャコでナストーにがないたが、 ゥル		・はしと補助ばしを使用している。 ・熟いものが苦手なため、あらかじめ冷ました給食 た会パテン2
4	編 しょう とう とう くんしょく くんしょく (人) マイナー ない	・18-CのCの投、物にも加えないこのでない。 の苦手な食べ物も頑張って一口だけ食べるように なり、食べられるものが増えてきている。お茶で 流し込むことが多いが、最近では咀嚼しようとす る姿も見られるようになってきた。	・ナで戻っては、やくに、のににかずいたの、ヘノーンやフォークの使用を練習している。		では、こいる。 ・初めて食べるものや苦手な食べ物には強い抵抗感を示し、泣いてしまうこともある。教師とのやりとりを通して気持ちを整理し、一口食べた後は、自分から食べること多い。
₩		く食べ物> ・食べ物を口に入れ、咀嚼する。	って食べる。	く目標> ・前を向いて給食を食べる習慣をつける。	く目標> ・はしを使って食事をする。
		〈手立て〉 ・長めに切った食べ物を奥歯の上に乗せ、咀嚼を確 認する。	くう練習をする。 を添える。	<手立て> ・前を向くことができるよう座席の配置を工夫した り、良い姿勢を写真や絵カードで示したりする。	<=立てン ・ つまみやすい固形物で練習したり、個別学習の時間でも練習をしたりする。
	歯磨き	・歯ブラシを見せると嫌がらずに口をあけて、教師の仕上げ磨きを受け入れる。	・歯ブラシについた水分を吸ったり、歯ブラシをかんだりずることが多い。 んだりずることが多い。 ・「ゴンゴシするよ」と言葉掛けをすると、自分なりに磨くことができるようになってきた。	をくわえるだけのことが多かったが、歯 シをあてて自分なりに磨くことができる ってきている。	・自分なりに歯に歯ブラシをあてて、歯磨きをしている。
		〈目標〉 ・1~2分自分で歯を磨く。	く目標> ・前歯に歯ブラシをあてて横磨きができる。	歯を磨こうとする。	<目標> ・丁寧に磨くことを意識しながら、一定時間歯を磨く。
		<pre><手立て> ・タイマーや砂時計を活用し、自分で磨く時間が分 かるようにする。</pre>	く手立て> ・やり方が分かるように教師が手を添えて一緒に磨 いたり、手本を示したりする。	<手立て>・歯ブラシが歯にあたっていることを意識でいるように、鏡を見ながら磨くようにする。	く手立て> ・手順表や鏡を提示したり、タイマーを用意したり する。

小学部1、2、4年「日常生活の指導」 指導の内容「朝の会」

秋田県立比内支援学校かづの校 教諭 湊 奈緒

1 本指導の内容に関する、年度当初の集団の実態

言語によるやりとりが可能な児童が2名、発声や身振り等でコミュニケーションをとる児童 が4名である。全員が教師の指示をおおむね理解することができ、朝の活動や朝の会にも見通 しをもって参加できるようになってきている。一方で、逸脱行動があったり、友達や教師の話 を注意して聞くことが難しかったりする児童もおり、他の児童もその児童に影響を受けて集中 が途切れてしまうことがある。

2 目標(本指導の内容に関して、今年度末までに身に付けたい力、目指す姿)

- ○発語、発声、身振り等の自分に合った方法で、依頼や報告、係の発表をする姿
- ○見通しをもち、最後まで落ち着いて友達と一緒に朝の会に参加する姿
- ○話し手に注目して話を聞いたり、話し手に合わせて気を付けや礼をしたりする姿

3 授業改善の視点

- ○主体性を大切にした内容構成
- ○見通しと期待感をもたせる工夫
- ○児童同士の関わりを育む工夫
- ○基本的学習態度の習慣化

4 指導の実際

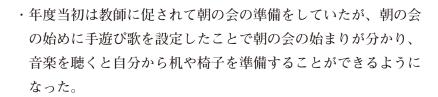
- (1)活動の流れ
 - ①手遊び歌 ②朝の挨拶 ③日付と天気 ④健康観察 ⑤身だしなみ調べ
 - ⑥今月の歌 ⑦先生の話 ⑧合い言葉

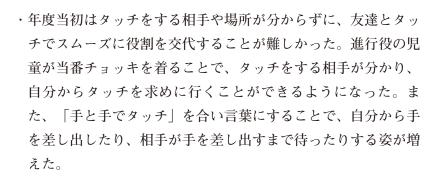
(2) 工夫点 ※指導の手立て等

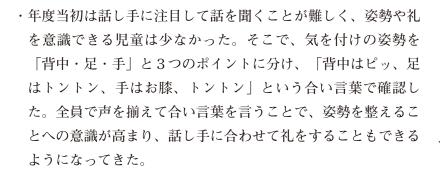
- ○毎日繰り返しの活動の中で、児童が期待感や意欲をもって朝の会に参加できるよう、学習 活動の順番を日替わりで入れ替える。
- ○朝の会の始まりが分かり、自ら朝の会の準備ができるよう、朝の会の始めに手遊び歌を歌 う。
- ○進行役(当番)の児童を日替わりにし、係の発表をする児童とタッチで交代する。タッチ をする相手が分かり、自分から友達にタッチができるよう、当番の児童が着る当番チョッ キを用意する。
- ○児童が話し手に注目できるよう、「気を付け」の姿勢を「背中・足・手」の3つのポイン トに分け、合い言葉で確認する。

5 集団の変容

・逸脱行動のある児童が、毎日朝の会が始まる前に学習活動の順 番を自分で決め、進行ボードのカードを入れ替えた。自分で活 動の順番を決めることで見通しと期待感をもち、落ち着いて参 加することができるようになり、逸脱がなくなった。









カードを入れ替えている場面



音楽を聴いて準備をする場面



友達とタッチで交代する場面



T1に合わせて礼をする場面

6 他の指導場面との関連

・朝の会で身に付けた基本的な学習態度が、全校集会などの大きな集団での学習場面でも生か されている。全校集会において、年度当初は逸脱が多く、教師が側に座って参加していた児 童が、現在は他の児童と一緒に整列し、最後まで参加することができるようになった。また 他の児童も、集会の途中で姿勢が乱れてきた際に、教師が直接言葉掛けをしなくても、手足 や背中を指差すだけで姿勢の乱れに気付き、正しい姿勢に直すことができるようになってき ている。



本学級の児童が整列し、全校集会に参加する様子

正しい姿勢を意識して

小学部1組(1・2・4年)日常生活の指導 学習指導案

日 時:平成29年10月25日(水) 1校時

 $8:40\sim9:25$ (朝の会は9:00~9:25)

場 所:小学部1組教室

児 童 男子6名 女子0名 計6名

指導者 T1 湊 奈緒 T2 田中 智佳

1 題材名 「朝の会 ~今日も一日みんなでチャレンジゴーゴーゴー!!~」

2 題材の目標

- (1) 言葉・発声・身振りなど、自分なりの方法で係の発表をする。
- (2) 話し手である教師や友達に注目して話を聞いたり、礼を合わせたりする。

3 児童と題材

<児童の学習に向かう姿と題材について>

本学級は1年生2名、2年生1名、4年生3名の計6名の学習グループである。言語による やりとりが可能な児童が2名、発声や身振りなどでコミュニケーションをとる児童が4名であ る。学年の幅が広く、コミュニケーションの実態にも差があるものの、友達の学習の様子を気 にしたり、自ら関わろうとしたりするなど、友達に興味がある児童が多い。休み時間には遊具 を共有するなど、物を介して友達と一緒に遊ぶ姿が見られる。また6名全員が、教師の指示を おおむね理解し行動することができる。

朝の会については、4月から繰り返し取り組んできたことで、最後まで見通しをもって参加で きる児童が増えてきた。児童一人一人が自分の得意なことを生かした係活動を担当しており、言 葉で伝えることが難しい児童も、教師の言葉に合わせて「1」などの数や「始めます」など言葉 の一部分を、身振りや発声で伝えることができるようになってきている。自分の係には意欲的に 取り組む児童が多い一方で、友達や教師の話を注意して聞くことが難しく、途中でいたずらをし たり、離席や逸脱をしたりする児童もいる。他の児童もその児童に影響を受けて、集中が途切れ てしまうことがある。また、当番の児童と係の児童が交代する際に手と手でタッチをしている が、タッチする相手や場所、力加減が分からず、スムーズに交代できないことも多い。友達との 適切な関わり方も身に付けることができるよう支援しているところである。

本校は小規模校のため、学部合同の授業を多く設定し、集団を生かした指導を展開してい る。その中で朝の会は、毎日継続して学級単位でじっくり取り組むことができる貴重な学習機 会である。話し手である教師や友達に注目して話を聞いたり、礼を合わせたりするといった基 本的学習態度や生活習慣は、学部合同の授業やその他の生活場面においても求められる力であ り、児童の将来の生活にもつながる大切な力であるため、小集団である学級での朝の会で丁寧 に育んでいきたい。また、朝の会において、学級の児童同士の関わりや仲間意識を育み、集団 としてのまとまりを強化することで、全員で心を一つに一日を気持ちよくスタートすることが できると考える。

指導に当たっては、教師の少ない言葉かけで、児童一人一人が自分で考えて判断し、主体的 に朝の会に参加する姿を引き出すために、次の点について留意する。

- ・学級の一体感を高め、楽しく明るい雰囲気づくりができるよう、手遊び歌を取り入れた り、本学級の合い言葉「みんなでチャレンジゴーゴーゴー!! を全員で声を合わせて言 ったりする。
- ・毎日繰り返しの活動の中で、児童が期待感や意欲をもって取り組むことができるよう、学 習活動の順番を日替わりで入れ替えたり、司会を当番制にしたりする。
- ・言葉で伝えることが難しい児童も、他の児童と同じように会の進行をすることができるよ う、めくり式の進行ボードを用意する。
- ・自分なりの表現方法が相手に伝わる経験を積み重ねることができるよう、言葉、発声、身 振りなど、児童一人一人に合った表現方法で会の進行をしたり、係の発表をしたりする機 会を設定する。
- ・全児童が見通しをもって朝の会に参加できるよう、イラスト付きの時間割、時計の模型、 タイマーなど、児童一人一人の実態に合わせた視覚的支援を提示する。
- ・児童が前方にいる話し手に注目しやすいよう、朝の会はT1が中心に進め、T2は児童の 後方に座り、逸脱や離席、椅子を倒すなどの行動があったときのみ支援をする。

4 指導計画 (通年 総時数160時間)

※〈主〉は主体的な学び、〈対〉は対話的な学び、〈深〉は深い学びに結び付く指導方法の工夫を示す。

兴邓洋新 市場		きゃかさい	田士: 米人	化海十分のエナ
				指導方法の工夫
手遊び歌	1	朝の会の始まりが分かる。	通年	・朝の会の始まりが分かり、
朝の挨拶	2	発語や発声、身振りで挨拶をする。	160時間	自ら朝の会の準備ができ
日付と天気	3	日付や曜日、天気に関心をもつ。		るよう、朝の会の始めに
健康観察	4	呼名に反応したり、体調を周囲に伝		手遊び歌を歌う。〈主〉
		えたりする。		・一日の流れが分かるよ
身だしなみ調べ	5	身だしなみの乱れに気付く。		う、時間割と一緒に写真
今日の給食	6	献立の名前を知り、見通しや期待感		やイラストのカードを提
		をもつ。		示する。〈主〉
今月の歌	7	明るく楽しい気持ちで一日を始め		・友達と関わりながら朝の
		る。		会を進めることができる
先生の話	8	一日の流れに見通しと期待感をも		よう、児童同士がタッチ
		つ。		で交代する場面を設定す
合い言葉	9	友達と一緒に一日がんばろうという		る。〈対〉
		意欲をもつ。		・タッチで交代する相手が
				分かり、自分からタッチ
	·É	分の係が分かり、一人でまたは教師		ができるよう、当番の児
	0)支援を受けて取り組む。		童が着る当番チョッキを
	・請	舌し手に注目し、顔を上げて話を聞い		用意する。〈主〉〈対〉
	7.	たり、礼を合わせたりする。		・意欲的に朝の会に参加で
	· 🏂	反達と関わりながら朝の会を進行す		きるよう、学習活動の順
	Z	δ_{\circ}		番を日替わりで入れ替え
				る。〈主〉〈深〉
	日付と天気 健康観察 身だしなみ調べ 今日の給食 今月の歌 先生の話	手遊び歌 1 朝の挨拶 2 引の挨拶 3 日付と天気 4 健康観察 4 今日の給食 6 今月の歌 7 先生の話 8 合い言葉 9 ・ 点 ・ 点 ・ 点 ・ 点	手遊び歌 1 朝の会の始まりが分かる。 朝の挨拶 2 発語や発声、身振りで挨拶をする。 日付と天気 3 日付や曜日、天気に関心をもつ。 健康観察 4 呼名に反応したり、体調を周囲に伝えたりする。 身だしなみ調べ 5 身だしなみの乱れに気付く。 今日の給食 6 献立の名前を知り、見通しや期待感をもつ。 今月の歌 7 明るく楽しい気持ちで一日を始める。 先生の話 8 一日の流れに見通しと期待感をもつ。 合い言葉 9 友達と一緒に一日がんばろうという	手遊び歌 1 朝の会の始まりが分かる。 通年 朝の挨拶 2 発語や発声、身振りで挨拶をする。 160時間 目付と天気 3 日付や曜日、天気に関心をもつ。 4 呼名に反応したり、体調を周囲に伝えたりする。 身だしなみ調べ 今日の給食 5 身だしなみの乱れに気付く。 今日の給食 6 献立の名前を知り、見通しや期待感をもつ。 今月の歌 7 明るく楽しい気持ちで一日を始める。 先生の話 8 一日の流れに見通しと期待感をもつ。 合い言葉 9 友達と一緒に一日がんばろうという意欲をもつ。 ・自分の係が分かり、一人でまたは教師の支援を受けて取り組む。 ・話し手に注目し、顔を上げて話を聞いたり、礼を合わせたりする。 ・友達と関わりながら朝の会を進行す

5 児童の様子及び本題材の目標

※【】は関連する領域等名を示す。

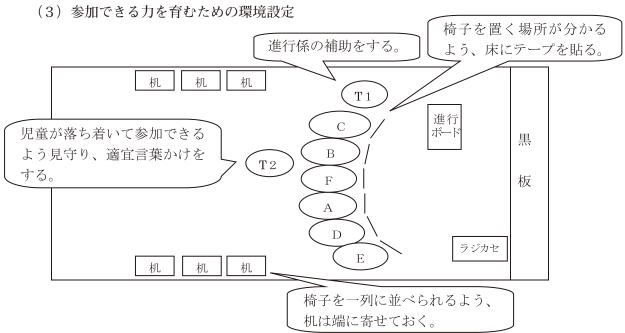
※ 【 】 は 財産	する領域等名を示す。		
氏 名 (学年·性別)	個別の指導計画における 年間目標	今までの取り組みの様子	題材目標
A (1・男) 司会(本時) 歌係	・自分の気持ちを表す言葉や身振りを増やす。 【自立活動】 ・集会や儀式に正しい姿勢で参加する時間を延ばす。【特別活動】	・係の発表では、発声や身振りで簡単な単語や数を伝えることができる。・話を聞いている途中で姿勢が崩れてきたり、ふざけて靴を脱いだりすることが多い。	・身振りや発声で朝の 会を進めたり、係の 発表を行ったりする。・話し手に合わせて 気を付けや礼をす る。
B (1·男) 給食係	・全校集会で、前で話を する人に合わせて礼を する。【特別活動】	・遅刻により朝の会に最初から参加できないことが多く、会の流れを十分には覚えていないが、係の発表を楽しみにしている。 ・話し手に注目して話を聞くことができるが、途中で勝手に話し始めることがある。	・朝の会の流れを覚え、自信をもって係の発表をする。・最後まで静かに教師の話を聞く。
C (2・男) 日付と天気係	・教師や友達と一緒に最後まで活動に参加する。【生活単元学習】 ・話している教師や友達に注目する。【自立活動】	・係の発表では、早口になりやすいものの、黒板に書かれた日付と天気を読み上げることができる。・会から逸脱したり、大きな声を出したりすることがあるが、落ち着いて参加できることが増えてきている。	・係の発表で、大きな声でゆっくりと話す。・静かに話を聞き、話し手に合わせて礼をする。
D (4・男) 朝の挨拶係	・発音できる単語を増や す。【自立活動】	 ・明瞭に発音することは難しいが、「バ」や「マ」などの発音しやすい音を組み合わせて、様々な単語を伝えようとする。 ・背もたれに寄りかかる癖があり、姿勢が崩れやすいが、個別で言葉掛けされると直すことができる。 	を聞いて、自ら姿 勢を直す。
E (4・男) 身だしなみ 調べ係	・自分の気持ちを伝える 手段を増やす。【自立活動】・話し手に注目して話を聞く。【特別活動】	・教師の言葉に合わせて、身振りで係の発表ができる。 ・話し手に合わせて礼ができるが、話の途中で姿勢が崩れることがある。	・友達と関わりながら係の発表をする。・教師の話を最後まで姿勢よく聞く。
F (4・男) 合い言葉係	・自分の活動が分かり、 最後まで落ち着いて取 り組む。【生活単元学 習】 ・教師の呼び掛けに挙手 で応える。【自立活動】	・教師の手本を見ながら、 「みなさん」「立ってください」と身振りで伝えることができる。・靴を脱ぐ、物を投げるなどの行動はあるが、教師が側にいると落ち着いて会に参加できるようになってきている。	・教師の言葉に合わせて簡単な身振りで係の発表をする。・教師の話を聞き、挙手や礼をする。

6 本時の計画

(1) 本時の目標 ・言葉、身振り、発声など、自分に合った方法で係の発表を行う。 ・話し手である教師に注目し、姿勢を整えたり礼を合わせたりする。

(2) 個別の目標と本時の学習過程

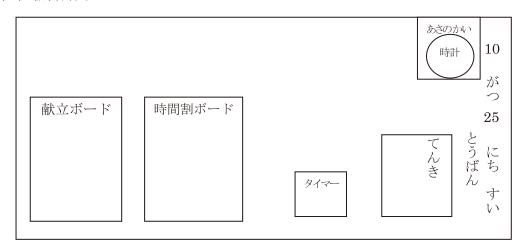
	F (4年)	合い言葉係			数節の言葉に合む はて、身板りで係の 発表をする。 ・身板りを合わせや すいよう、教師が ゆっくりと話した り、タイミングを 待ったりする。	言葉で確認する。
	E (4年)	身だしなみ調べ係		を手渡したりする。 て,課題量を調整する。	友藤と関わりながら 身だしなみをイェックする。 ・自分から女様の身 だしなみをイェックできるよう。「ハンカチ」「シャッの 稲」という2つの ポイントや、女 のの方え方を申 こののたえ方を申 に教師が伝えてお く。	つのポイントに分け, 合い
とそれに対する教師の働きかけ・留意点	D (4年)	朝の挨拶係		7たり、次の活動で使う物 引やその日の調子に合わせ	大きな声で係の発表 をする。 ・「おはようございま す。」と話すことが できるよう、始め の「お」の文字を 教師が話したり、 「セーの」と言っ て誘い掛けたりす る。	勢を「背中・足・手」と3
児童の目標 とそれに対する	C (2年)	日付と天気係		りるよう, 官し, 児童から報告を受け 明学習を設定し, 登校時間	大きな声でゆっくり と係の発表をする。 ・ 落ち着いて発表で きるよう, 立つ位 層にテープを貼る。 ・ 事前に「大きな声 でゆっくり話そう な。」と教師がポイ ントを伝える。	5よう,「気を付け」の姿勢 :, トントン」) :,
5	B (1年)	給食係		児童がより少ない支援で朝の活動に取り組めるよう, ・T1の配置を教室の前方に固定し,児童から報告を受けたり,次の活動で使う物を手渡したりする。 ・児童の実態に合った係活動や朝学習を設定し,登校時間やその日の調子に合わせて,課題量を調整する。	大きな声で係の発表をする。 ・ 自信をもって発表できるよう、文字カードの隣にイラットを提示したり、事前に献立の問語み方を教師と一緒に練習したりする。	児童が話し手である友達や教師に注目できるよう,「気を付け」の姿勢を「背中・足・手」と3つのポイントに分け,合い言葉で確認する。(「背中はビッ」「足はトントン」「手はお膝、トントン」)
	A (1年)	進行歌係		児童がより少ない ・T 1	身振りと窓声を交え て、朝の会を進行する。 ・自分から身振りが できるよう、簡単 なり振りを設定する。 ※ 教師のまねをしな がら発声できるよ う、ゆっくりと話 して手本を倒示する。	児童が話し手であ
教師の働きかけ・留意点	4 4		・児童が時間を意識して取り組めるよう、タイマーや時計の	模型で朝の会の開始時間を提示する。	 ・児童が自分の座る位置が分かるよう、顔写真とテープを床に貼る。 ・明るい気持ちで朝の会をスタートできるよう、朝の会の始めに事体で歌を設定する。 ・朝の会に期待感をもって参加することができるよう。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	真を貼る。 ・1日の流れに見通しをもつことができるよう,「先生のお話」では写真やイラストのカードを提示する。
(左) 国別の日常に本時の子自国任	字沓活動	1 朝の活動	①着替え②検温	③係活動 ④朝学習	2 朝の会(進行:A) (①手遊び歌 (②朝の枝桜(D) (③目付と天気(C) (④) (④) (④) (⑥) (⑥) (⑥) (⑥) (⑥) (⑥) (⑥) (⑥) (⑥) (⑥	
= (7)	聖世	20分			5 5 \$\frac{4}{4}\$	



(4) 準備物

進行ボード、机、椅子、顔写真カード、ラジカセ、CD、タイマー、時計の模型、献立ボー ド、時間割ボード、天気ボード、当番チョッキ

(5) 板書計画



(6) 評価の観点

- (児童)・発表の流れが分かり、言葉、身振り、発声などの自分に合った方法で、自信をもって 係の発表をすることができたか。
 - ・友達や教師の方へ顔を向け、姿勢を正して話を聞いたり、礼を合わせたりすることが できたか。
- (教師)・児童が言葉、身振り、発声など、自分に合った方法で係の発表をするための手立て、 環境設定は適切であったか。
 - ・児童が、話し手である友達や教師に注目し、姿勢を正して話を聞いたり礼を合わせた りするための手立て、環境設定は適切であったか。

平成29年度年間指導計画 「日常生活の指導」

小学部1・2・4年

					小子部 I •	
月	項目名	ねらい	指導内容	題材の評価	予定時数	実施時 数
	・登下校	・保護者や添乗員と一緒に、安全に気を付けて登下校する。・左右を確認して一人で靴を履き替えたり、脱いた靴の片付けを行ったりする。・玄関から教室まで一人で移動する。	・登下校 ・靴の履き替え・片付け ・教室への移動			
	着替え	・着替えの一連の流れが分かり、自分から進んで衣服の着替えに取り組む。 ・一人でまたは教師と一緒にジャンバーをハンガーに掛ける。 ・衣服の前後や表裏を教師と一緒に確認しながら着替えたり、脱いだ衣服を一人でたたみ、かごに入れたりする。 ・教師の促しを受け、ハンカチを衣服のポケットに入れる。	・衣服の着脱 ・衣服たたみ ・ハンガーの使い方 ・ボタンやファスナー ・身なり			
	・挨拶,返事	・友達や教師に自分から挨拶をしたり、応えたりする。・自分の名前が呼ばれたことが分かり、身振りや挙手、発声で応える。	・登下校時の挨拶 ・返事の仕方			
	・整理整頓	・かばんや連絡帳、給食袋を所定の位置に一人で置く。 ・絵本やCD, 折り紙等の遊び道具を、所定の場所に一人で片付ける。	・持ち物の整理 ・遊び道具の片付け,整頓			
通	・係活動	・教師や友達と一緒に、自分の係の仕事に取り組む。 ・自分の係に見通しをもち、一人で取り組む。 ・係の仕事が終わったら、身振りや発声で「できました」と教師に伝える。	・健康観察カード、おたより・日付・ごみ捨て・給食		1年 440 2年	1年 2年
年	・排せつ	・尿意や便意を発声や身振りで教師に伝える。・教師の促しを受けてトイレへ行き、小便器で排尿する。・ズボンを膝下まで下げずに排尿する。	・尿意・便意の伝え方 ・自発的排せつ及び時間排せつ ・排せつ後の始末と手洗い		440 4年 270	4年
	・手洗い	・石けんを付け、手をこすって洗う。・洗った後ハンカチで手を拭く。	・手の洗い方		210	
	•朝の会	 ・明るく楽しい気持ちで一日を始める。 ・学習内容、活動場所、一緒に活動する人などの情報を確認し、一日の流れに見通しをもつ。 ・自分の係が分かり、一人で又は教師の支援を受けて取り組む。 ・教師や前に出て発表する児童に注目し、話を聞いたり礼を合わせたりする。 ・友達と関わりながら朝の会を進める。 	 ・挨拶 ・ 健康観察 ・ 身だしなみ調べ ・ 給食 ・ 先生のお話 ・ 歌 ・ 合い言葉 			
	・清潔	・ハンカチを持ち歩き、必要に応じて使う。・一人でティッシュを使い、鼻をかむ。・汗をかいていること、衣服が汚れていることに気付き、着替えようとする。	・ハンカチの持ち歩き・鼻がみ・衣服の取り替え			

	・健康・安全	 運動や外出後に、うがいや手洗い、水分補給をする。 けがをしたときの身体の痛み、不調を言葉やサインで教師に伝える。 身の回りの危険な場所や危険な遊び、危険な行動が分かり、安全に気を付けて活動したり遊んだりする。 手をつないで歩いたり、左右を確認したりしながら、教師と一緒に安全に道路の歩行や横断をする。 身体測定や各種検診に慣れ、医師や養護教諭に体を向け落ち着いて診断を受ける。 	・衛生管理 ・健康管理・危険回避 ・交通安全・身体測定 ・各種検診		
	・食事	・食事の準備や後片付けに取り組む。 ・好き嫌いをせずに、よくかんで食事をする。 ・肘をつかず、良い姿勢で食べる。 ・スプーンやフォーク、補助箸や箸を使い食事をする。 ・皿を持って食事をする。 ・食べ終わったら口の周りやおぼんの汚れに気付き、拭く。	・衛生管理・準備及び後片付け・食事の作法・偏食の改善		
通	・歯磨き	・食事が終わったら歯ブラシとコップを持って水飲み場へ行く。・一定時間自分で歯ブラシを持って歯を磨く。・教師に仕上げ磨きを自分から依頼する。・口を大きく開けて教師と一緒に仕上げ磨きに取り組む。	・歯磨きの習慣・歯ブラシの使い方		
年	・掃除	 ・雑巾を濡らし、力を込めてしぼる。 ・教室の端から端までまっすぐ雑巾がけをする。 ・机や椅子を引きずらないで持ち上げて運ぶ。 	・雑巾がけ・雑巾の絞り方・椅子と机の運び方		
	帰りの会	・教師と一緒に今日の学習を振り返り、一日の学習の終わりを意識する。・次の日の活動を確認することで、期待感をもつ。	・先生のお話 ・明日の日程		
	・帰りの支度	 連絡帳,給食袋をかばんにしまう。 帽子やジャンバーを身に付け、身支度を整える。 全員で整列して玄関まで移動する。 	・持ち物の整理・身だしなみ・玄関への移動		
	・困ったときの協力依頼		・依頼の仕方、協力の求め方の練習 ・感謝の気持ちの伝え方の練習		
	・体力づくり	・友達や教師のまねをして、一緒に身体を動かす。・継続してランニングに取り組むことで、体力の向上を図る。・活動の流れを一定にして取り組むことで、見通しをもち自分から活動に取り組む。	・ラジオ体操・ランニング		

【総合評価】

指導者(湊,田中智,藤平)

小学部6年「日常生活の指導」 指導の内容「食事中における普通箸の正しい持ち方と操作の仕方」

秋田県立比内支援学校たかのす校 教諭 村岡 利哉

1 本指導の内容に関する、年度当初の対象児童の実態

児童の食事及	及び箸・食器の使用等に関する実態(○→できている ▲→課題がある)
箸(しつけ箸と 普通箸を併用)	○しつけ箸使用時…一人で食べることができるが、時間がかかってしまう。 「つまむ (2 cm角程の物)」「切る (柔らかい物)」、「近接した皿からかきこむように食べる」ができる (※しつけ箸は小3より使用)。 ▲薬指と小指が握れず、親指、人差し指、中指に力が入りづらい。 ▲長期に渡りしつけ箸を使用しているため、普通箸における人差し指と中指による支持が難しい。
スプーン	○スプーンの握り方は「手掌回内握り」と「手指回内握り」の中間程度で、人差し指が伸びている。捕食時には手首を内側に回すことができる。
食器の持ち方	▲言葉掛けがあれば食器を持つが、言葉掛けがないと左手を下方に伸ばして いる。

2 目標(本指導の内容に関して、今年度末までに身に付けたい力、目指す姿)

- ○食事中における普通箸の正しい持ち方の経験を積み重ねる。
- ○普通箸で食べ物をつまみ、口に運ぶ技能を習得する。

3 授業改善の視点

- ○普通箸の操作に有効な学習支援等について、外部専門家と連携を図りながら進める。
- ○普通箸の操作を支える学習活動について、自立活動や各教科等と連動して取り組む。
- ○QOLの高まりを期して、称賛する機会を多くし、技能面と合わせて意欲面も育てる。

4 指導の実際

- (1)活動の流れ
 - ①給食場面
 - ・対象児童の手指の巧緻性に応じた箸(ピストル型の柄付き箸、普通箸を併用)及び補助 具等を継続的に使用する。
 - ・左手で食器を持つことに意識を向けるための指導を行う。
 - ②自立活動や各教科等の学習場面
 - ・指先でつまむ動作、手首のひねり・戻し、前腕の回外運動等を向上するための指導を行 う。
 - ③家庭との連携
 - ・教材・教具を共有し、箸や食器の持ち方、児童の様子等について情報交換を行う。

(2) 指導の手立て等

- ①「ピストル型の柄付き箸」「普通箸」を併用しながら、継続的な食事指導を行う。 普通箸に移行できるよう段階的に支援を減らしていく。
- ②「洗濯ばさみを使った教材・教具(指先でつまむ動作)」「ボルトアンドナット(手首の ひねり・戻し)」「ドアノブ回し(前腕の回外運動)」「箸でつまむ教材・教具」など、 自立活動や各教科等と連動して取り組む。
- ③左手で食器を持つことに意識を向けるため、「食器を持つ」イラストの提示、言葉掛けと 称替、セルフチェックを行うことができるよう鏡の設置等をする。



ピストル型の柄付き箸 (薬指・小指の握りの安定)



ボルトアンドナット(手首のひねり・戻し)



洗濯ばさみを使った教材・教具(指先でつまむ)



食器を持つイラストやセルフチェック用の鏡

5 対象児童の変容

(1) ピストル型の柄付き箸を使うことで、薬指・小指 (手を安定させるための働き) を軽く握 るようになった。また、普通箸でも、薬指と小指を軽く握るようになり、箸の操作が安定 してきた。



普通箸の使用時、薬指・小指を握り切れていない(6月)



ピストル型の柄付き箸の使用により、 薬指と小指の握りが安定した(10月)

- (2) 指先のつまむ力が強くなったことで、箸で食べ物をつまんだり、食べ物を口に運んだりす る動きが増えてきた。さらに、手首のひねり・戻しや前腕の回外運動等の機能向上によ り、食べ物を落とさず、スムーズに口に運ぶことができるようになった。
- (3) 左手で食器を持つことが増え、食事時に良い姿勢を保っていられる時間が長くなってきて いる。それにより、箸の操作も向上してきている。

中学部1年「日常生活の指導」 指導の内容「給食」

秋田県立秋田きらり支援学校 教諭 渡辺 美樹子

1 本指導の内容に関する、年度当初の対象生徒の実態

- ・左半身にまひがあるため左手は添える程度である。教師の支援を必要とする活動が多いが、 自分から依頼することができず教師の言葉掛けを待っている。
- ・時間を意識して行動することが難しく、活動全般に多くの時間を要する。
- ・給食は準備、片付けを含めて時間内(45分)に半量程を食べる。
- ・好き嫌いがあり、好きな食べ物は先に全部食べ、苦手な野菜や魚は残すことが多い。
- ・周囲を見たり、会話に夢中になったりし、手が止まっている時間が多い。
- ・様々な面で生活経験が少なく、食への関心が低い。

2 目標(本指導の内容に関して、今年度までの身に付けたい力、目指す姿)

- ○一人での活動が難しい内容は教師に手伝いを依頼しながら準備や片付けをする。
- ○進備、片付けを含め時間内(45分)に、目標量(2/3程度)を食べる。

3 授業改善の視点

- ○食べる意欲を高め、達成感を得るために、興味・関心のあることを利用した教材作り。
- ○食への関心を高めるために、他の教科での関連した活動内容の工夫。

4 指導の実際

- (1)活動の流れ
 - ①進 備ーおしぼりを出す→牛乳にストローを刺す→滑り止めにおぼんを置く
 - ②食べる-前半:献立等の会話を楽しむ→後半:食べることに集中する
 - ③片付け−おしぼりを入れる→牛乳パックをつぶす→下膳する→テーブルを拭く→ 食べた量を一緒に確認しシールを貼る

(2) 工夫点

- ①〈準 備〉
 - ・手の動きやスペース等を考慮し、やりやすい方法や順番を一緒に考え繰り返した。
 - ・スムーズに準備ができるように「順番表」を提示した。 【写真1】
- ② 〈食べる〉
 - ・時間を意識できるように、終わりの時刻を示した時計を置いた。【写真1】
 - ・後半は食べることに集中できるように「しゅうちゅうタイムカード」を提示した。

【写真2】

③〈片付け〉

- ・スムーズな片付けと順番の定着をねらい、準備と同様の「順番表」を活用した。
- ・意欲付けに「給食がんばり表」【写真3】を用い、食べた量に応じて○をした。 全量食べた日は、花丸に加えて好きなタレントのシールを貼った。

4 〈その他〉

- · 「外部専門家」の活用~姿勢を中心にOTより二度アドバイスを受け、改善した。
- ・関連した学習として、生活単元学習(進路学習)で栄養士にインタビューをし、調理を している様子を見学した。また、クリスマスには初めて包丁を使用して果物やスポンジ ケーキを切り、オリジナルのケーキを作った。



順番表がなくても準備、 片付けができるように なってきた。



【写真1】 <時計、順番表>



【写真2】 <集中タイムカード>



【写真3】 <給食がんばり表>

5 対象生徒の変容

- ① 〈準 備〉
 - ・準備の活動一つ一つのやり方や順番を一緒に考え、活動しやすい順番で準備を継続した ことで、支援を受けることが多かった準備を、ほぼ一人でできるようになった。
 - ・パンの袋を開ける等両手を使う難しい活動は、自ら教師に依頼をするようになった。
- ② 〈食べる〉
 - ・環境の整理や食べることに集中する時間を作ったことで、周りを見て手が止まることが 減り、食事に集中するようになってきた。
 - ・食べ方の偏りが減り、苦手なメニューや食べ物もバランスよく目標量の食事が定着し た。また、週に2~3日は全量食べるようになった。
- ③〈片付け〉
 - ・食べた量を的確に教師に伝え、全量食べた日は「給食がんばり表」に喜んでシールを貼 った。『また明日も全部食べて~さんを貼りたい』と意欲の高まりが見られた。
- 4 〈その他〉
 - ・栄養士へのインタビューや調理見学、ケーキ作り等の関連した学習から、作ることの大 変さや楽しさを知り、給食や食への関心が高まった。
 - ・連絡帳や面談、送迎時に給食や学習の様子を伝え、情報を共有した。家庭においても時 間を決めながら食べ、食べる量が増えた。また、保護者から「家でも調理を経験させた い」とあり、家庭においても新たな取り組みに向けての機会となった。

6 他の指導場面との関連

- ・作業学習において、作業スペースややりやすさを考えながら、順番通りの準備や作業、片付 けを一人で行うことができるようになってきた。
- ・難しい活動は自ら教師に手伝いを依頼をし、自分でやろうという気持ちが高まった。

小学部5年「日常生活の指導」 指導の内容「黒板の掃除」

秋田県立能代支援学校 教諭 伊藤 綾華

1 本指導の内容に関する、年度当初の対象児童の実態

対象児は小学部5年男児で、軽度精神遅滞である。自分の思いをゆっくり話したり、簡潔な 指示を聞き取って行動したりすることができるが、自分から行動することが少ない。指の動か し方や力の入れ方にぎこちなさがあり、紐結びなどが苦手である。

掃除における自分の担当する役割(掃き掃除、黒板掃除など)が分かるが、手順が定着して おらず、取り掛かるまでに時間が掛かったり、手順をとばして掃除すべき箇所をやり残してし まったりすることがある。

2 目標(本指導の内容に関して、今年度末までに身に付けたい力、目指す姿)

○掃除の一連の手順や掃除用具の正しい扱い方を覚え、自分から素早く取り掛かったり、最後 まで丁寧にやり遂げたりする力

3 授業改善の視点

- ○黒板やレールの隅など、細かい部分まで丁寧に掃除を進めるための環境設定
- ○黒板掃除に自分から素早く取り掛かって進めるための環境設定
- ○本児が自分で「できた」と感じられ、「次もがんばろう」と思えるような場面の設定

4 指導の実際

- (1)活動の流れ
 - ①黒板の掲示物やマグネットを外し、チョークをよせる。
 - ②黒板を拭く。
 - ③レールを拭く。
 - ④黒板の掲示物やマグネット、チョークなどを元の場所に戻す。

(2) 工夫点

○黒板やレールの隅の拭き残しが無くなるように、ポイントとなる場所に印を付けたり、隅 などの小さい場所の拭き方をカードで提示したりする。



【隅の部分に気付くためのチェック印】

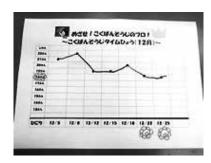


【隅を拭く際の雑巾の使い方】

- ○自分から掃除に取り掛かったり、時間を意識しながら一人で進めたりできるように、掃除 の手順表やタイマーを提示する。
- ○自分で黒板掃除の振り返りができるように、掃除の振り返りシートを使って自己評価をし たり、教師と一緒に振り返ったりする場面を設定する。



【黒板掃除振り返り表】



【黒板掃除タイム表】

5 対象児童の変容

- ○黒板やレールの隅に付いている印を見ることで、隅の部分を丁寧に掃除しようとする様子が 見られた。また、隅まできれいに拭くための雑巾の使い方を覚え、12月後半は隅まで拭き 残し無く拭くことができるようになってきた。
- ○黒板掃除を終える目標の時間を設定することで、雑巾を絞ったり、マグネットを外したりす る部分などを、素早く行うことができるようになってきた。時折、自分でタイマーを見て残 り時間を確認するなど、時間を意識して掃除に取り組むようになってきている。掃除を終え るまでの時間が短くなったのをグラフで確認し、嬉しそうにしている様子が見られた。
- ○掃除が終わった後に、振り返りシートを使いながら教師と一緒に掃除の振り返りをすること で、頑張ったことやもう少し頑張れば良かった部分などに自分で気付くことができた。評価 の花丸が増えてきていることを喜んでおり、全部花丸が付くように意欲的に掃除に取り組む 様子や、「上手になった」と自分で発言する様子などが見られ、自信をもって黒板掃除に取 り組めるようになってきた。

6 他の指導場面との関連

- ・黒板掃除の際は、「すばやく」や「決められた時間の中で」など、速度や時間を意識できる ようになってきた。それを生活単元学習の制作活動の場面や着替えの場面でも出来るよう に、目標となる時間をタイマーなどで提示し、すばやく時間内に終えられるように支援して いる。事前に目標となる時間を明確に伝えることで、速度や時間を意識しながら行動できる ようになってきた。
- ・黒板やレールの隅まで拭く際に、親指と人差し指で雑巾をつまんで拭くことを繰り返したこ とで、生活単元学習や図工などの制作場面で、小さいビーズをつまんで置いたり、シールを 指定の場所からずれないように貼ったりなど、指先を使った活動に少しずつ取り組めるよう になってきた。

中学部 1 年「日常生活の指導」 指導の内容「教室掃除」

秋田県立稲川支援学校 教諭 山口 梓

1 本指導の内容に関する、年度当初の対象生徒の実態

(1) 学級全体の構成

- ・男子3名の学級である。
- ・コミュニケーションに関しては、3名中2名は言葉で意思を伝え、簡単な指示を理解して 行動できる。1名は発語が無く、表情や発声、身振りで要求を伝えている。生徒同士で積 極的に関わり合う姿はまだ少なく、集団として一つのことに取り組もうとする意識は薄い が、教師が仲立ちをしたり、意図的に関わり合う場面を設けたりする中で、お互いの様子 を見て行動したり、互いに関心をもち始めたりしている。
- ・指示に従って掃除をするが、進んで掃除をしようというところまでには至っていない。掃 除用具の扱いや掃除の仕方に関しては、それぞれの出身小学校や小学部で学んできたこと がベースとなっている。一人一人ペースが異なっていたり、不慣れな部分があったりする が、決められた流れに沿って掃除をしている。

(2) 対象生徒の掃除に関する実態

	·
関心・意欲・態度	・掃除に対しては消極的であり、進んで掃除をしようというところ
	までには至っていない。
	・面倒と思う気持ちから、掃除が雑になることがある。
	・様々なものに注意が移り、掃除から逸脱することがあるが、やる
	ことは分かっている。
思考・判断・表現	・机や床の汚れまでに意識は向いていないが、自分の手や所有物が
	汚れたら気にして洗おうとする。
	・教室を掃除しないと汚れが溜まることが分かる。
技能	・注意不足から掃き残しが出てしまうが、自在ぼうきを使ってごみ
	を掃くことができる。
知識・理解	・掃除の手順が分かる。
	・煩雑さはあるが、自在ぼうきや文化ちりとり、雑巾などの掃除用
	具の使い方が分かる。

2 指導の意義

いつも身の回りをきれいにすることは日常生活や集団生活において大切なことであり、掃除 をすることは健康衛生上や快適に生活する上でも必要なことである。しかし、対象生徒にとっ て掃除をなぜやるのかが分かりにくく、達成感が得られにくい面があるのが現状である。

学級では教室掃除を下校前に設定し、毎日行っている。掃除の内容は主に、床はき、黒板拭 き、雑巾掛け、机・椅子の移動である。いずれも掃除をする上で基本となる内容であり、基本 的な掃除の仕方を学ぶことで他の学習活動や、家庭生活へと発展していけると考える。また、 掃除に学級で協力して取り組むことで、みんなで使う場所を大切にする気持ちや、集団生活を 意識して協調性を育てることができ、キャリア教育の視点からも大切な活動であると考える。

以上のことを踏まえ、年間を通し、「やらされる掃除」から「自分からする掃除」へと意識 が変容するような手立てを講じながら毎日の掃除の指導を継続することで、基本的な掃除技能 が定着するとともに、達成感を得ることができるようになり、主体的に掃除に取り組むように なるのではないかと考える。

3 目標(本指導の内容に関して、今年度末までに身に付けたい力、目指す姿)

- ○毎日の掃除が習慣として身に付き、教室がきれいになるように掃除をする。(生活する力、 考える力)
- ○必要性を感じて掃除に取り組もうとする。 (意欲をもって物事に向かう力)
 - ※ () 内は、本校キャリア教育の指標『地域とあゆむ い~なプラン (別紙2参照)』の4 つの付けたい力と関連付けて目標を設定している。

4 評価規準

関心・意欲・態度	①掃除の意義が分かり、掃除に取り組もうとする。
	②習慣として毎日の掃除に取り組もうとする。
思考・判断・表現	③ごみや汚れがなくなるように気を付けて掃除をする。
技能	④用具の正しい使い方や掃除の仕方が分かり、掃除をする。
知識・理解	⑤教室掃除の流れ、正しい用具の使い方、掃除の仕方が分かる。

5 授業改善の視点

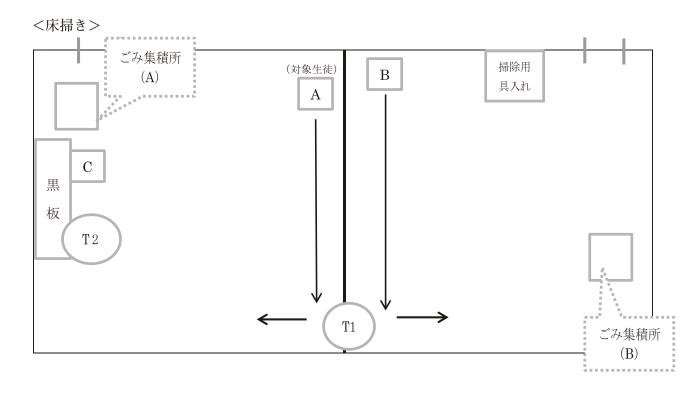
- ○活動の必要性を伝えるための指導内容の工夫
- ○生徒の主体性を大切にした内容の工夫
- ○キャリア教育全体計画との関連

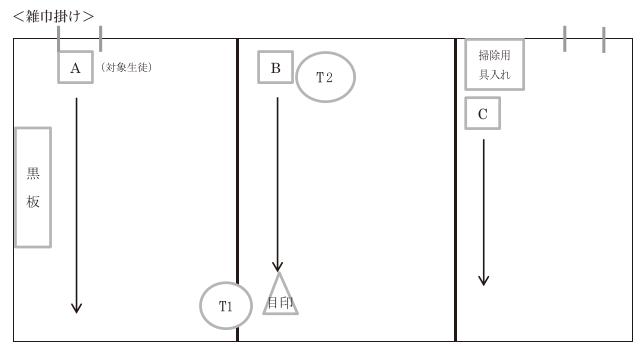
6 指導の実際

(1)活動の流れ(15分)

時間(分)	学習活動・内容	指導上の留意点及び手立て
1 4	①机・椅子等を廊下へ出す。②床掃き、黒板・ホワイトボードを拭く。③雑巾掛けをする。(7月から実施)④ごみ箱のごみを捨てる。⑤机・椅子等を元の位置へ戻す。	・机、椅子の移動では、自分の机、椅子だけを運んで終わることがないよう、運ぶ机や椅子の数を明確にして伝える。 ・必要に応じて用具の正しい使い方や掃除の仕方について書かれたカードを提示したり、教師が手本を見せたりする。 ・使い慣れているほうきで掃除をする。 (A (対象生徒) …自在ぼうき、B…座敷ぼうき)・ごみを集める場所に印を付ける。 ・混みを集める場所に印を付ける。・掃除から逸脱が見られた場合は、「次は何をしますか?」など自分のやるべきことに気付けるような言葉掛けをする。 ・雑巾を絞りやすいように、薄手の雑巾を用いる。 ・雑巾を絞りやすいように、薄手の雑巾を用いる。 ・雑巾を絞りやすいように、薄手の雑巾を用いる。
1	⑥終わりの会	・学級としての活動の終わりが分かるように全員 揃って終わりの挨拶をする。

(2) 配置図





(3) 工夫点

※指導の手立て等

○生徒が身に付けたい力を段階的に、一貫性をもって指導できるよう、指導内容や目標を設 定する際に、本校のキャリア教育の指標『いーなプラン』(別紙)を拠り所とした。

<主体的に掃除に取り組めるように>

○掃除の仕方や役割分担の見直しを定期的に行う。掃除の仕方を変更する必要があった場合 は、生徒に提案する形で話し合いをもち、相談しながら決める。 (写真①)

- ○床掃きをメインにした「Aいつもの掃除」、雑巾掛けを行う「Bぴかぴか掃除」、棚や机の 整頓のみの「C簡単掃除」、の3つのコース制を導入し、コースの選択を生徒に委ねる。
- <掃除に取り組みやすいように>
 - ○掃除箇所や役割を分担し、やることを明確にする。
 - ex.1) 床掃き、雑巾掛けの際には教室を分割し、個々に担当箇所を決める。
 - ex.2) 掃いたり、拭いたりする方向や順番をテープで床に印す。 (写真②)
 - ○掃除に対する抵抗感を軽減するために、薄手の雑巾など扱いやすい掃除用具を用いたり、 清掃範囲を段階的に広げたりする。

良いところ	だめなところ
はくのが上手になげた。 .すみずみはいている。 .自分できずいてつくえをはこる . 自分できずいてつくえをはこる . イスとつくえをいらしれにはこぶ	、ごみもずのこっていた。 、そうじ中に(うろうるする。 、 ・ごみをすてたのに 40かを (おいいま
<改善ポイント> ・ごみをみたしょく。 ・ごみをすてたら → (ま) ま	じかんを まめて そうじをする は毎冬 3

(写真1) 話し合いの内容の記録



(写真②) 床への表示

7 対象生徒の変容

(★…主体的に取り組めるように配慮した手立て、☆…掃除の取り組みやすさに配慮した手立て)

(*	一件りに払り組めるよ	グに配慮し	ルた手立て、☆…掃除の取り組み	× 9 0 1	・配思した子立て)
月	生徒の様子	٤.	指導内容 手立て		変 容
			・机・椅子の移動 ・床掃き]
4					
	・ごみを掃く方向ず、ごみが集まり		☆掃く順番や方向、ごみを 集める場所をテープで印 す。	・ごみを うにな	·掃く方向が揃うよ った。
5	・自分の机だけ運	\hat{p}_{i}°	☆運ぶ机の数を決める。	・自分り になっ	人外の机も運ぶよう た。
6					うに掃除をすること てきた。
		・机・椅	- 子の移動・床掃き・ 雑巾掛け	(週 1)	
7	・「雑巾掛けは疲 やりたくない」 ・掃除中に逸脱する		<生活単元学習> ★掃除の意義を確認した。 (掃除をしないと教室は どうなるのか)		
			★学級の掃除の様子を映像 で振り返る。		
8			★コース制の導入	するよ ・体の痕	の選択を楽しみに うになった。 近れ具合や時間割を ゴースを選ぶよう た。

9		・雑巾掛け強化週間の実施 (雑巾掛けの仕方の確認と 定着)	・雑巾掛けへの抵抗感が増した。
		☆雑巾掛けの分担箇所を明 確にする。	・待ち時間による逸脱が減 ってきた。
		☆扱いやすい薄手の雑巾を 用いる。	
		☆拭く範囲を段階的に広げ ていく。	
	机・椅子の)移動・床掃き・ 雑巾掛け(週	2)
10	・雑巾掛けが週2回に増え たことに納得がいかな い。	1	・週2回の雑巾掛けに納得した。
11	・掃き残しが目立つ。	☆雑巾掛け同様に床掃きも 掃除箇所を分担する。	・掃き残しに気付いたり、 ごみを見て掃いたりする ようになってきた。
		掃除箇所分担(教室前方)	掃除箇所分担(教室後方)
12		・掃除になれてきたので、 掃く順番を印したテープ を剥がした。	・印がなくても適切な順序 や方向で床掃き、雑巾掛 けをするようになった。
			・雑巾掛けに慣れ、抵抗感が少なくなった。 ・膝を床に付けずに雑巾掛けができるようになってきた。 ・作業効率が良くなり、掃

8 他の指導場面との関連

・生活単元学習で「教室環境を整えよう」という単元を組み、掃除の様子を映像で見合ったり、掃 除用具の正しい使い方の確認をしたりと、普段の掃除の振り返りや見直しの機会とした。

除の終了時間が早くなっ

てきた。

・調理活動後の調理室の掃除や、卒業生を送る会などの人を招くことを想定した事前の掃除など、 毎日の習慣としての掃除だけでなく、必要性を感じられるような場面設定ができる活動へと広げ ていった。

別紙

「地域とあゆむ 『いーなプラン』」

ベース	付けたい力	項目	ステップ1	ステップ2	ステップ3
<u> </u>		身辺自立	身の回りのことを自分で行う力	身の回りのことの処理を習慣化する力 規則正しい生活を送ることに気を付ける力	清潔さや適した服装を意識する力 健康を保つ力
体調等に応じて 生活リズムを	生活する力	族 原 ざ	挨拶や返事をする力	その場に応じた言葉遣いや 振る舞い方が分かる力	相手を意識した挨拶・行動をする力
- 形成する 		拉 知 知 知	学習や生活のきまりや習慣を身に付ける力	学校生活のきまりを守って生活する力	現場実習等で、職場でのルールを守る力
身近な人と 信頼関係を築く	7 5 6 1	意思表現	自分の意思や感情を表現する力	自分に合った方法で、 相手に伝わるように表現する力	問題が起きたときに、 報告したり相談したりする力
/ 場を共有する	人に悪しる力	集団 参加	身近な人とやりとりをし、 一緒に活動する力	集団での役割を理解し、協力する力	リーダーに協力して話し合う力 決まったことに仲間と一緒に取り組む力
~~ 職競ご		自己選択	好きなもの、好きなことを選ぶ力	自分の個性・興味・関心や活動の目標に 基づき、より良いものを選ぶ力	いくつかのやり方から より良い方法を選び実行する力
数 	考える力	判断行動	活動の見通しをもち、やり方が分かる力	周りの様子や手掛かり等を基に考え、 行動する力	全体の様子を見て、周囲に声を掛けたり 協力して作業をやり遂げたりする力
好きな物への興味・関心をもつ		認知知知	見る・聞く・操作する・行動の結果が 分かる力	基礎的な知識を得る方法を学び、 実際に使用する力	様々な経験の中から知識を習得し、 作業に生かす力
	意欲をもって	持続力	集中し、一定時間継続する力	集中力を持続し、 最後までやり通そうとする力	集中して与えられた仕事に 取り組み続ける力
	を使うして	自発力	やりがいや達成感を感じる力	少し難しいことに挑戦する力	苦手なことにも挑戦する力

地域の一般事業所・障害者福祉施設の方や、特別支援学校職員のアンケート結果をまとめて作成しました。 【卒業時に社会が求める高等部件像】

			「子来は「たなり、	「子来は「九女グショ中中十家」
ベーグ	付けたい力	項目	卒業後に「福祉サービス」	卒業後に「一般就労」を目指す人
			を利用する人	「就労継続支援A型」を利用する人
()		身辺 自立	健康に気を付けて毎日生活する人	身だしなみに気を配る人
体調等に応じて 生活リズムを	生活する力	挨拶 応対	誰にでも挨拶する人	場や相手に応じた挨拶・行動をする人
形成する 		社会 生活	施設でのルールを守る人	職場や社会でのルールを守る人
身近な人と 信頼関係を築く	- 7 5 7 8 7	意思表現	周りの人に意思を伝える人	同僚、上司と意思疎通・会話をする人
	人に悪しる力	集団 参加	仲間や職員と一緒に活動する人	職場の上下関係を理解し、従う人
環境に		自己選択	自分のやりやすい方法を選択する人	効率の良いやの方を考え、選択する人
安心感をもし	考える力	判断行動	手掛かり等を見て活動する人	作業時間、納期を守る人
好きな物への興味・関心をもつ		認知知知	新しいやり方を覚える人	作業の内容、手順の変化へ対応する人
	意欲をもって	持続力	一定時間、活動し続ける人	集中して与えられた複数の仕事に 取り組み続ける人
	初事に 向かう力	自発力	初めての活動・仕事にも 進んで取り組む人	どのような作業にも進んで取り組む人

基礎となる部分 【ステップ1】気持ちや態度の 育成 【ステップ2】方法の習得 ・強化 【ステップ3】実践 [ベース]

中学部3年「日常生活の指導」 指導の内容「掃除」

秋田大学教育文化学部附属特別支援学校 教諭 佐藤 美里

1 本指導の内容に関する、年度当初の対象集団の実態

知的障害のある中学部3年生、男子4名、女子2名、計6名の学級である。教室掃除では、 一か所にごみを掃き集めることは分かるが、6人が思い思いの場所を掃いていたり、ほうきを 床に押しつけてモップのように扱ったりしているため、掃き残しが多かった。また、一通りの 手順を覚えて掃除を進めることができるが、掃除を面倒と感じ、床の汚れに気付かない生徒が 多かった。

2 目標(本指導の内容に関して、今年度末までに身に付けたい力、目指す姿)

- ○正しい掃除用具の扱い方や保管方法を知る。
- ○役割分担をして時間内に教室掃除を行う。
- ○身の回りをきれいに保つことの大切さを知り、自分から掃除をしようとする。

3 授業改善の視点

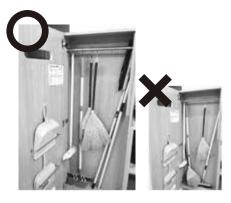
- ○掃除の習慣化
- ○他の場面への広がり
- ○目的意識の向上

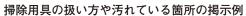
4 指導の実際

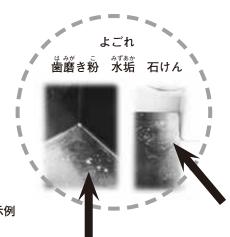
- (1) 活動の流れ
 - ①掃除用具(自在ぼうき、ちりとり、雑巾)の正しい扱い方と保管方法の指導
 - ②教室掃除に必要な役割と手順の提示
 - ③生活単元学習(進路学習など)と関連させた学習の展開
 - ④高等部サービス班の清掃作業見学
 - ⑤「お掃除検定」の実施

(2) 工夫点

- ※指導の手立て等
- ○掃除用具の扱い方や保管方法が分かるように、演示や写真で正しい方法を示して、練習す る場面を設定する。
- ○汚れに気付くことができるように、汚れている箇所と掃除方法の写真を掲示する。
- ○時間内に教室をよりきれいにするための役割分担を決める。
- ○掃除をすることの良さや必要性に気付いたり、他者から感謝されたりする場面を設定する。
- ○意欲的に掃除に取り組めるように、技術面を評価したり、友達同士で認め合ったりする場 面を設定する。











「お掃除検定」ポイント表

5 対象集団の変容

掃除用具の扱い方を練習したことで、自在ぼうきの持ち方を覚えて教室の端から順にごみを 掃き集めることができるようになってきた。また、用具を正しく片付けることで掃除がしやす くなり、用具を清潔に保つことができると分かり、自分たちで片付け方を意識するようになっ た。以前は、15分間で床掃除のみを行っていたが、同じ時間内に水飲み場やホワイトボード の掃除も行えるようになった。掃除箇所を増やしたことで、これまで気に掛けていなかった汚 れに気付くようになった生徒もいる。

生活単元学習の進路学習の単元と関連させ、暮らしの中で掃除をしないとどうなるのか、な ぜ掃除をしなければならないのかを考える場面を設定した。また、高等部のサービス班の清掃 作業の見学や、清掃作業を行っている高等部実習先へ職場見学を行った。さらに、卒業に向け ての単元と関連させ、卒業までの間に"一流中学生"を目指すため、掃除の手順や用具の扱 い、清潔への意識をポイントとして「お掃除検定」を実施した。

これらの実践により、これまで掃除に苦手意識があったり、面倒だと感じたりしていた生徒 も、将来の暮らしや働く中で掃除が必要なことであると実感し、自分たちで掃除を始めるよう になった。また、「お掃除検定」を通して、正しい方法を身に付け、合格することで、自信をも って掃除に取り組むようになり、家庭で自分の部屋を掃除したことなど、掃除したことを話題 にする様子も見られるようになった。



自在ぼうきの手入れ方法を学習



進んで更衣室のロッカーを掃除



「お掃除検定」中に掃き残しを発見

6 他の指導場面との関連

掃除に対する意識が変わってきたことで、更衣室など教室以外の汚れにも気付くようになっ た。今後も教室掃除の中で用具の扱い方など技術面での指導を継続しながら、校内または家庭 など場面を広げて指導していく。

中学部3年「日常生活の指導」 指導の内容「持ち帰る物の用意」

秋田県立栗田支援学校 教諭 加藤 秀幸

1 本指導の内容に関する、年度当初の対象生徒の実態

中度の知的障害を有する男子生徒で、簡単な言葉での受け答えができる。平仮名を読める が、文字情報のみで意味を理解することは難しい。

登下校には、路線バスを使用しており、筆記用具や食事用具の他、携帯電話や福祉特別乗車 証などの貴重品も携帯している。昨年度は、貴重品を忘れる心配があったため、登校後はかば んの中に入れたままにし担任が管理していた。また、家に持ち帰る他の物は、教師の言葉掛け を受けて一つずつ確認しながら準備していた。

2 目標(本指導の内容に関して、今年度末までに身に付けたい力、目指す姿)

○家に持ち帰るものを、自分で用意する。

3 授業改善の視点

- ○生徒の実態や変容に応じた支援内容・方法の見極め
- ○家庭との連携

4 指導の実際

- (1) 活動の流れ
 - ①貴重品を職員室から持ってくる。
 - ②持ち物チェック表を見て、所定の場所から家に持ち帰る物を持ってきてかばんに入れる。
 - ③かばんに入れたら、持ち物チェック表に付いている磁石を外す。

(2) 工夫点

○視覚的支援のための教材の工夫

持ち物チェック表を作成し、生徒が文字情報と実際の写真 を見ながら持ち帰るものを確認できるようにした。また、 一つずつ確実に確認できるように、かばんに入れた物の写 真に付いている磁石を外すことにした。登校後にも持ち物 チェック表を活用し、かばんから取り出した物の写真に磁 石を付けて確認するようにした。



「持ち物チェック表」

○主体的に活動できるようにするための工夫

主体的に持ち物を用意したり整理したりする意識が高まり、習慣化するように、登校後 にも持ち物チェック表を活用し、かばんから取り出した物の写真に磁石を付けて確認する 活動を行った。

持ち物チェック表を使用せずに持ち帰る物を用意すると、貴重品を職員室から持ってく ることを忘れることが何度かあったため、①貴重品は登校後に教師から受け取った貴重品 ケースに入れて職員室に持って行く ②帰りの身支度の際に職員室から貴重品を持ってき て、そのケースを教師に手渡す という教師とのやりとりを入れ、教師の存在を貴重品へ の意識と結び付けるための手掛かりとした。

○保護者との双方向での情報共有

家庭では、朝学校に持って行く物を決まった場所に置いておき、そこから持って行くよ うにしているという話を、保護者面談の際に母親から聞き、学校でも自分の持ち物を置く 場所を決め(給食袋は机の右横、水筒は教室後方の自分のロッカー等)、所定の場所に置 くようにした。

5 対象生徒の変容

はじめは、持ち物チェック表を教師と一緒に見ながら一つずつ持 ち物をかばんから出し入れしていた。徐々に持ち物チェック表の使 い方に慣れ、忘れずに物の準備ができるようになった。段階的に支 援を減らし、普段持ってきている物については、現在では持ち物チ ェック表が無くても一人で準備するようになった。

また貴重品については、貴重品ケースを使用する以前は職員室か ら持って来ることを忘れることがあったが、教師と貴重品ケースを 受け渡しするやり取りを設定したことで、忘れずに持ち帰るように なった。



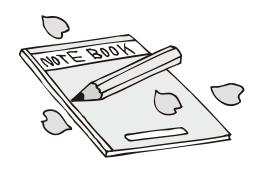
「持ち物チェック表」を見 て、持ち帰る物をかばんに 入れる様子

6 他の指導場面との連携

校外学習や修学旅行での持ち物の準備において、持ち物のイラストを見ながら一人で用意す るようにした。また、持ち帰る物を自分で用意するという活動を通して、写真等の情報から必 要な物を用意する力や、物の置き場所を決めて所定の場所に保管する習慣が身に付いてきてい る。そのことから、作業学習や生活単元学習において、写真等の情報を頼りに必要な道具や材 料を準備することや、使用した物を元の場所に戻すことといった他の活動における指導でも、 生徒の身に付きつつある力を生かせるようにしている。

Ⅲ. 資料編

- 資料1 小学部「生活科」と中学部「職業・家庭科」の目標、各 段階の目標及び内容
- 資料2 知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援 学校の各教科の各段階の構成
- 資料3 知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援 学校小学部の各教科及び中学部「職業・家庭科」の特質 に応じた見方・考え方
- 資料4 平成29年度特別支援学校授業改善プロジェクトの概要



資料1

小学部「生活科」と中学部「職業・家庭科」の目標、各段階の目標及び内容 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領(平成29年4月 文部科学省)より

|小学部 | 牛托|

7/	小子部 [生活]			
		具体が活動や経験を通して、生活に関わる見方・考え方を生かし、	具体的な活動や経験を通して、生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	ことを目指す。
		(1)活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び	社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活に必要な習慣や技能を身に付けるようにする。	習慣や技能を身に付けるようにする。
	田		自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて理解し、考えたことを表現することができるようにする。	るようにする。
		(3) 自分のことに取り組んだり、身近な人々、社会及び自然に自ら	自分のことに取り組んだり、身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり、生活を豊かにしようとしたりする態度を養う。	5。
\1 <u></u>	各段階の目標及び内容	1段階	2段階	3段階
		ア活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の指針・聞いなれてレスポー ゆら同りのたが・だいが	ア活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の指針を対して信任イマッポデーの呼が出す。これがあれ	ア活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自体を指義をトネータとの問われば行行ファルデー在がデジ
		ロ※シム豆をこれららし ノハハ ひこ、 とっと回っていますこう・・こう 文字 古木石字 空画名 打部 グラディディス アンディイス	ロジンとランスコンスコントのこので、女子と出合いらい、名別がら野南の古名が存みをして上げれていて下と	
		、発生されている時代によるできない。	1 日分日中や身の回りの生活のことや、東デオス人を、社会及び自	女子自成し込むの名に言うのました。 多いな人々、社会及び自人 自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自
	(1) 目 標	₹263	*	3
		242,	45.	ができるようにする。
		ウ 自分のことに取り組もうとしたり、身近な人々、社会及び自然	ウ 自分のことに取り組もうとしたり、身近な人々、社会及び自然	ウ 自分のことに取り組んだり、身近な人々、社会及び自然に自ら
		に関いをもち、意欲をもって学んだり、生活に生かそうとしたり	に自ら働きかけようとしたり、意欲や自信をもって学んだり、生	働きかけ、意欲や自信をもって学んだり、生活を豊かにしようと
		する態度を養う。	活に生かそうとしたりする態度を養う。	したりする態度を養う。
	ア 基本的生活習慣	食事や用便等の生活習慣に関わる初始的な学習活動を通して、次	食事、用便、清潔等の基本的生活習慣に関わる学習活動を通して、	身の回りの整理や身なりなどの基本的生活習慣や日常生活に役立
		の事項を身に付けることができるよう指導する。	次の事項を身に付けることができるよう指導する。	っことに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることがで
				きるよう指導する。
		(ア) 簡単な身辺処理に気付き、教師と一緒に行おうとすること。	(ア) 必要な身辺処理が分かり、身近な生活に役立てようとするこ	(ア) 必要な身辺処理や集団での基本的生活習慣が分かり、日常生
			٦Ĵ	活に役立てようとすること。
		(イ) 簡単な身辺処理に関する初歩的な知識や技能を身に付けるこ	(イ)身近な生活に必要な身辺処理に関する基礎が充織や技能を	(イ) 日常生活に必要な身辺処理等に関する知識や技能を身に付け
		रे	身に付けること。	ること。
	/ 安全	危ないことや 句象な場所等における安全に関わる初歩的な学習活	遊具や器具の使い方、避難訓練等の基本的が安全や防災に関わる	交通安全や避難制練等の安全や坊災に関わる学習活動を通して、
		動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導す	次の事項を身に付けることができるよう指導する。
			%	
		(ア) 身の回りの安全に気付き、教師と一緒に安全な生活に取り組	(ア) 身近な生活の安全に関いをもち、教師の援助を求めながら、	(ア) 日常生活の安全や防災に関心をもち、安全な生活をするよう
(2)		もうとすること。	安全な生活に取り組もうとすること。	心がけること。
K		(イ) 安全に関わる初歩的な知識や技能を身に付けること。	(イ) 安全や防災に関わる基礎的な知識や技能を身に付けること。	(イ) 安全や防災に関わる知識や技能を身に付けること。
-	ウ 日課・予定	日課に沿って教師と共にする学習活動を通して、次の事項を身に	絵や写真カードなどを手掛かりにして、見通しをもち主体的に取	一週間程度の予定、学校行事や家庭の予定などに関わる学習活動
₩		付けることができるよう指導する。	り組むことなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付ける	を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		イ・\《<田田-名巻』「江史雅』 木十一世~田田□~代田郷)の「山)夕(イブー)、《《田田-名巻)	ことができるよう指導する。 (ア) ゆらさっロ舗・ネイチュンシュア 要在と返出されてきます。	ジャンサイナウ ロボイン・コード サイナジン・コード・コード・コード・コード・コード・コード・コード・コード・コード・コード
		(2) なっ/回じっ/画手・キエを(J XIIOの、分替)の をE(J TEV) プロン (力地) トルコーゼ オヤトコ	(7) 払いさすま・コイン・ブン・火車で人気をごろくでディン・コドトランシ、ケイが増工・アペラ・ナントラー	ソノ エモゴロシエ茶・ゴボムジング・ちゃつシュボらんがんだっこう
		17岁10そノロックーロ。	(1年77年77年77年77年77年77年77年77年77年77年77年77年77	名用し名もつ ハニザフマンクックーク。
		(イ) 間中が甘黙いる。(、) 巻い名もして。	イ)女白さ口繋・十分について苦ること。	(ス) 工業へ込むさけ所約3つのに8つう数が発展へ込むのとしていて、アードをは、アードのに8つり数が発展した。
	上游び	自分で好きた旅びをすることなどに関わる学習活動を通して、次	教師や友達と簡単な旅びをすることなどに関わる学習活動を通し	日常生活の中での遊びと関わる学習活動を通して、次の事項を身
		の事項を身に付けることができるよう指導する。	て、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	に付けることができるよう指導する。
		(ア) 身の回りの遊びに気付き、教師や友達と同じ場所で遊ぎうと	(ア) 身近な遊びの中で、教師や友達と簡単なきまりのある遊びを	(ア) 日常生活の遊びで、友達と関わりをもち、きまりを守ったり、
		すること。	したり、遊びを工夫しようとしたりすること。	遊びを工夫し発展させたりして、仲良く遊ぼうとすること。
		(イ) 身の回りの遊びや遊び方にし、 片関にをもしこと。	(イ) 簡単なきまりのある遊びこついて知ること。	(イ) きまりのある遊びや友達と仲良く遊ぶことなどの知識や技能
				を身に付けること。

(イ) 者が回りのAVESATA (2014年 (2014年 (2014年 (2014年 (2014年 (2014年 2014年 (2014年 (2014年 2014年 (2014年 2014年 (2014年 2014年 (2014年 2014年 2014年 2014年 (2014年 2014年 2014年 2014年 2014年 (2014年 2014年 2014		THE THE	※1. 人々生力人の、その単分表 イーガンを新式表述分が田野なない		「光)を新世代の宗 と 29日~(2)です。 人・十七年、井、中、石田を存って、人・子は八年
(7) 要称で (1) 要求で (1) で (1) を表示している (1) を表		A 人CV/表427	当台町名油し、ベベノギザを名いいりの(タガスへて抜りのことなるに強んの子首に関か困して、欠シ書うを身に付けることができるよう指導する。	ガジューCを参門でX連C向りしC4Cに対える子自合製を囲して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
(イ) 検が取るしたが定義しようと称できるよう。 (イ) 検がな人との様しなどのできるよう指揮する。 (イ) 検がな人との様しなどができるようが開かる。 (イ) 検がな人との様しなどができるようが開かる。 (イ) 検がな人との様しなどのできるようが開かる。 (イ) 解する。 (イ) 解する			(ア) 教師や身の回りの人に気付き、教師と一緒に簡単な技物など	(ア) 身近な人を知り、教師の援助を求めながら挨拶や話などをし	(ア) 身近な人と自分との関わりが分かり、一人で簡単な応対など
### (7) 身で回りの人との限りが人との限りが人との際した。次の 「			をしようとすること。	ようとすること。	をしようとすること。
1 ((イ) 身の回りの人との関わり方に関心をもつこと。	(イ) 身近な人との接し方などについて知ること。	(イ) 身近な人との簡単な応対などをするための知識や技能を身に エュュー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
### #################################			- 1		NOOLC.
(7) 身の回りの無限に気が全を与ってと、			営沽動を通して、	字数ペ字年、 異年糖の場団等における役割に関わる字智店動を通して、 次の事項を身に付けることができるよう指導する。	様々な鬼団や地域での役割に関する宇智活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
(4) 解析文庫(2012年)			(ア) 身の回りの集団に気付き、教師と一緒に参加しようとするこ	(ア) 身近な集団活動な参加し、簡単な俗活動をしようとすること。	(ア) 様々な集団活動ご進んで参加し、簡単な役割を果たそうとす
 ** 手高い・住事 物価と・輸出日間移移組込ととそ後の回りの確単大手点がなどにつく。			と。(イ)集団の中での役割に関いをもっこと。	(イ)簡単な孫活動などの役割にしてて知ること。	ること。(イ)集団の中での簡単な役割を果たすための知識や技能を導い付
# 当23、(17年				The state of the s	1752 L.
### 10 10 10 10 10 10 10 1			数価と一緒に自場物を配ることや身の回りの簡単な手伝いなどに	人の役に立ってとのできる手伝、冬仕事に関わる学習活動を通し	自分から調理や製作などの様々な手伝いをすることや学級の備品
(7) 数の回りの確認な手続いそ仕事も認動にと称ことを (7) 数面が製りまめががらめ近で確認な主張、それもを (1) 無値なりまめががあるものとと (1) 離世之時、それはをしまり。 (2) 単位とは、 (3) 単位とは、 (4) 離世之時、それは、 (4) 離世之時、それは、 (4) 離世之時、それは、 (5) 単位として、 (5) 単位として、 (5) 単位のの全球を (5) となっては、 (5) 単位のの金球を (5) となっては、 (5) 単位ののの金球を (5) となっては、 (5) 単位ののの金球を (5) となっては、 (5) 単位のの金球を (5) となっては、 (5) 単位のの金球を (5) を (5)			関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう概念する。	て、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	等の整理などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう格質する。
(イ) 簡単な表ものと指数であるものと			(ア) 身の回りの簡単な手伝いや仕事を教師と一緒こしようとする	(ア) 教師の援助を求めながら身近で簡単な手伝いや仕事をしよう	- パース・ス・パーチン・ でんしょうとすること。 (ア) 日常生活の手伝、や仕事を進んでしょうとすること。
(イ) 金銭の扱い (イ) 解析な言葉のおおおおいます。 (イ) 解析を表現の作用であるよう指揮数で (イ) 金銭の扱い (イ) 金銭の扱い がなどを含えて見ばかってきまりが得かるようとす。 (イ) 金銭の扱いがなどを指定を表しら解析する。 (イ) 金銭の扱い がなどを知るできまりに関わる学習活動を通して、次の事項を外に打ちことができるよう指導する。 (イ) 金銭の扱いがなどを知ると、学習活動を通して、次の事項を外に打ちことができるよう指導する。 (イ) 金銭の扱いがなどを知ると、学習に関わる学習活動を通して、次の事項を外に打ちことができるよう指導する。 (イ) 金銭の扱いがなどを知ること。 (イ) 金銭の扱いがなまりに関わる学習活動を通して、次の事項を (イ) 多近で開却なきまりに関わる学習活動を通して、次の事項を (イ) 多近で簡単なきまりに従って参加を (イ) 多近で開却なきまりに対しなものととなどが顕微の色の大きが表します。 (イ) 金銭の扱いがなとを知ること。 (イ) 御間なきまりに関わる学習活動を通して、次の事項を (イ) 多近で簡単なきまりに関わる学習活動を通して、次の事項を (イ) 多近で簡単なきまりに対して (イ) 多近で関しまりと (イ) 多近で着のよう (イ) 一般である (イ) を表しまして、次の事項を (イ) を表しまして、次の事項を外に付けることができるよう指導する。 (イ) 御間なきまりにある (イ) 多近で表しまします。 (イ) 御間なきまりに関わるともこと たびが満しまりと。 (イ) 毎回の場のとのは関いなもらっこと たびが適かに関いて、次の事項を外に付けることができるよう指導する。 (イ) 身近な主命がとのは関いを含むるよう指導する。 (イ) 身近な主命を拠しようを表しように関わるを認しまして、次の事項を外に付けることができるよう指導する。 (イ) 身近な主命を作しますのが関いまりを考別に対して、次の事項を外に付けることができるよう指導する。 (イ) 身近な主命を作しまして、次の事項を外に付けることができるよう指導する。 (イ) 身近な主命や自然について関わるもののは超かを考えること。 (イ) 身近な主命や自然について関わるもののは超かを考えること。 (イ) 身近な主命や自然について関え、それを動師と ************************************			بال	とすること。	
	1		(イ) 簡単な手伝い、や仕事に関いをもつこと。	(イ) 簡単な手伝いや仕事について知ること。	(イ) 手伝い や仕事をするための知識や技能を身に付けること。
(7) 400014組分と (7) 400014組分ともこと、			簡単な買い物や金銭を大切に扱うことなどに関わる学習活動を通していたの事情を辿ってはストレジスキストには増する	金銭の価値に気付くことや金銭を扱うことなどに関わる学習活動・1381 / ※の事情を、助し出すととしばなきとしてお道士と	価格に応じて必要な貨幣を組み合わせるなどの金銭に関わる学習は重要にあった。その事でものイム・ストンジャン・スポース
(イ) 金銭の投い方式とは関いるようこと。 (イ) 金銭の大切いて成けてした。 (イ) 金銭の大切いて成けてした。 (イ) 金銭の大切いたは、大力を担心をようこと。 (イ) 金銭の大切いたは、大力を対してした。 (イ) 金銭の大切いたは、大力を対してした。 (イ) 金銭の大切いたは、大力を対してした。 (イ) 金銭の大切いたは、大力を対してした。 (イ) 金銭の大切いたとなりでは、大力を対していた。 (イ) 金銭の大切いたは、大力を対していた。 (イ) 毎週の上で、大力を対していた。 (イ) 毎週の指して、大力を対していた。 (イ) 毎週の日の間様なきまりに従って設備と一緒に行動しようと (イ) 毎回のの間様なきまりに従って設備と一緒に行動しようと (イ) 毎回のの間様なきまりに従って設備と一緒に行動しようと (イ) 毎回のの間様なきまりに従って設備と一緒に行動しようと (イ) 毎回の日の間様なきまりに従って設備と一緒に行動しようと (イ) 毎回の日の間様なきまりに従って設備と一緒に行動しようと (イ) 毎回の日の間がないた関心をよってと及び公路等の公共施設に関わる年の間を対して、大力を正常と (イ) 毎の回の日かたがはにはえよっととなどは関わるとように発揮する。 (イ) 毎の回の仕事な付益な大力は固定などととなどに関わるとができるよう指導する。 (イ) 毎の回の仕事などの自然に関わると対して、大力事項を対していて関 (イ) 身の回の仕事などがは、それを表摘して、大力事項を対していて関していて知るといて知るとのでとなどに関わる学習に関していて関していて知るとのでとなどに関わる学習に関していて関していて関したもとのとは超ななどといて知るとのできまえら指導する。 (イ) 身の回の生活の中で、物の重さに気付くことなどに関わる学習 (イ) 身の回の生活の中で、物の重さに気付くことなどもとおに関わる学習にあるが分かり、それらを表現しよったのの仕組がなどのとは知るを通して、大力事項を通して、大力事項を通して、大力事項を通して、大力事項を通して、大力事項を通して、大力事項を通して、大力事項を通して、大力事項を通して、大力事項を通して、大力事項を通して、大力事項を通して、大力事項を通して、大力事項を通して、大力事項を通して、大力事項を通して、大力事項を通して、大力事項を通して、大力事項を通して、大力事項を通して、大力事でと、(イ) 身の回のにあるものが打描なる他をとうとと。 (イ) 身の回りにあるものが打描なる他をとうとと。 (イ) 身の回りにあるものが打描なる他をとうとようと。 (イ) 身の回いにあるものが打描なる他をとうとように関います。 (イ) 身の回いにあるものが打描なる他をとうとと、(イ) 身の回いにあるものが打描なる他をになるよう指導す。 (イ) 身の回いにあるものが打描なる他をにないが打描なる他をにないます。 (イ) 身の面のにあるものが打描なる他をにないます。 (イ) 身の回いにあるものが打描なる他をにないます。 (イ) 身の面のにあるものが打描なる他をにないます。 (イ) 身の回いにあるものが打描なる他をにないます。 (イ) 身の回いにあるものが打描なる他をにないます。 (イ) 身の面のにあるものが打描なる他をにないます。 (イ) 身の正のよりにあるものが指するといと、(イ) から可います。 (イ) 身の正のは対しないます。 (イ) 身の正のまではないます。 (イ) 身の正のよりにあるといとはないます。 (イ) 身の正のよりにあるといとはないます。 (イ) 身の正のよりにあるといとはないます。 (イ) 身の正のよりにないます。 (イ) 身の正のよりにないます。 (イ) 身の正のよりにないます。 (イ) 身の正のよりにあるといとないます。 (イ) 身の正のよりにあるといとないます。 (イ) 身の正のよりにあるといとないます。 (イ) 身の正のよりにないます。 (イ) 中の正のよりにないます。 (イ) 身の正のよりにないます。 (イ) 身の正のよ			フト、女子単式的女子にいの「ハジ・こののそ」が伸ぶる。		「古型の角して、女子事が名と言うこの一つでいのので、在事での。()、「当年だでもだって発して行う」と言うにも言いていました。
(イ) 金数の扱いガルとに関いをもつこと。			(7) 並の回りの共活の上に、後至7一世四つ的数名技なり、2000年で、		(1) 日活生活の一に、金銭を石匠画ががだがり抜いに買いるした。
 かきまり 学校生活の簡単なきまりに関わる学習活動を通して、次の事項を (ア) 身の回りの簡単なきまりに認って製剤と一緒に行動しようと (イ) 毎世なきまりをマナーに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付わることができるよう指導する。 (イ) 確定なきまりに確していて関いをもつこと。 (イ) 確定なきまりに確していて関いをもつこと。 (イ) 確定なきまりに確していて関いをもつこと。 (イ) 確定なきまりに確していて関いをもつこと及び公園等の公共施設に関わる学習の表別を表別を表していて知るとと。 (イ) 確定なきまりにはおったができるよう指導する。 (イ) 単の回りにある社会の目標が全まりにないを認識の必要が表に関わると表別を表しまして、次の事項を分にはおよきとすること。 (イ) 身の回りにある社会の目標が全ましていてはあるとができるよう指導する。 (イ) 身の回りにある社会の目標が全ましていて関するといて関いをもの目がないとなどは関いをもつことができるよう指導する。 (イ) 身の回りにある日金や目標に関わる学習に関わる学習のとないに関いるととはから重要に関わるといて関いていて関するといて関するといてはいるといできるよう指導する。 (イ) 身の回りの生活の中で、物の重さに気付くことなどに関わる学習を知らればれることができるよう指導する。 (イ) 身の回りを活の中で、物の重さに気付くことなどに関わる学習を知らいで知るととができるよう指導する。 (イ) 身がた性高の中であるとができるよう指導する。 (イ) 身がた性高の中で、ものの仕組がなどに関わる学習話観に通して、次の事項を対に対するとができるよう指導する。 (イ) 身がた性高の中であるのの仕様がなをもつことなに関するとができるよう指導する。 (イ) 身がた性高の中であるがのがはあたがし、それを表類と、着になくいはあるとができるよう指導する。 (イ) 身がた性があるとができるよう指導する。 (イ) 身がた性があるとができるよう指導する。 (イ) 身がた性があことができるよう指導する。 (イ) 身がた性があるとができるよう指導する。 (イ) 身がた性があるとができるよう指導する。 (イ) 身がた性があるとができるよう指導する。 (イ) 身がた性ができるよう指導する。 (イ) 身がた性があるとができるよう指導する。 (イ) 身がた性があるとのがは細れたとはなどに関わるとができるよう指導する。 (イ) 身がたもの自然になるとのとは関するとのとないはあるとのとはないはあるとのとないとないとないとないとないとないとないとないとないとないとないとないとないと			こ。(人)会銭の扱い方などに関いをもしこと。	がんない、ちな出って、くらい。 (イ) 金銭の扱い方などを知るいと。	(イ) 金銭の扱い方などの名職や技能を身に付けること。
# 2(4) 5(2) とができるよう指導する。	2)		学校生活の簡単なきまりに関わる学習活動を通して、次の事項を	順番を守ることや信号を守って横断することなど、簡単なきまり	学校のきまりや公共の場でのマナー等に関わる学習活動を通し
(7) 身の回りの簡単なきまりに沿って影価と一緒に行動しようと (7) が上ささと (7) 簡単なきまりでマナーに気付き、それらを守って行動 しょうとすること。 (7) 簡単なきまりでマナーに対しておって (7) 簡単なきまりについて関心をもっこと及び公園等の公共協認に関わる (7) 解析なきまりをマナーについて知ること。 (7) 簡単なきまりをマナーについて知ること。 (7) 解析なきまりをマナーについて知ること。 (7) 解析なきまりをマナーについて知ること。 (7) 解析なきまりをマナーについて知ること。 (7) 身の回りにある社会の仕組みや公共協認に関わるとができるよう指導する。 (7) 教師のと類におんなに伝えようとすること。 (7) 教師のと報に関わる学習活動を通して、次の事項を対したどの自然に触れることを表現しまうとすること。 (7) 身の回りにある生命や自然に関わる学習活動を通して、次の事項を対したとができるよう指導する。 (7) 身の回りや生命や自然に関わる学習活動を通して、次の事項を対してとができるよう指導する。 (7) 身の回りにある生命や自然に関わる学習活動を通して、次の事項を対していて関していて関わるものの仕組みを対していて関いをするの仕組みを担いました。 (7) 身の回りや生命や自然に気付き、それを数値と一緒によっていて (7) 身の回りや生命や自然に気付き、それを数値と一緒によっていて (7) 身の回りや生命や自然に気付くことができるよう指導する。 (7) 身の回りを生命や自然に気付くことがではあるとができるよう指導する。 (7) 身の回りを生命や自然に対けることができるよう指導する。 (7) 身近な生命や自然に対していなものの仕組みを書のが仕組みを書とが付けることができるよう指導する。 (7) 身近な生命や自然にあるものが仕組みを書とが付けることができるよう指導する。 (7) 身近な生命や自然になって知るたいが仕組みを書とがしばるといが仕組みを書とがしばれるといが仕組みを書とがしばれるといがしばれるといが仕組みを書とがしまます。 (7) 身の回りにあるものが仕組みを書とがしままます。 (7) 身の回りにあるものが仕組みを書とがしままます。 (7) 身の回りにあるものが仕組みを書とがしままます。 (7) 身の回りにあるものが仕組みを書といが出れること。 (7) 身の回りにあるものが仕組みを書といが出れること。 (7) 身の回りにあるものが仕組みを書といが出れること。 (7) 身の回りにあるものが仕組みを書といが出れること。 (7) 身の回りにあるものが仕組みを書といが出れること。 (7) 身の回りにあるものが出れるを書といが出れるといが出れること。 (7) 身の回りにあるものに加えを書といが出れること。 (7) 身の回りにあるものが出れるといがはないます。 (7) 身の正がはないます。 (8) 身にないます。 (9) 身にないます。 (9) 身にないます。 (1) 身にないます。 (1	*		身に付けることができるよう指導する。	やマナーに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることが	て、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
(イ) 身の回りの簡単なきまりに従って参師と一番に行動しようと (イ) 簡単なきまりをヤナーに気付き、それらを牛って行動 しようと仕組みと				できるよう指導する。	
(4) 簡単なきまりについて関いをもつこと及び公園等の公共施設に関わる学 も分の音が表状では解し関いをもつこと及び公園等の公共施設に関わる学 も分の目の日にある社会の仕組みや公共施設に関わる学 (7) 身の回りにある社会の仕組みや公共施設に気けることができるよう指導する。 (7) 身の回りにある社会の仕組みや公共施設に気ける、それを教 (7) 身の回りにある社会の仕組みや公共施設に関わる学 (8) 身が回りの社会の仕組みを公共施設に関わる学 (9) 数値の援助を求めたがら身近な社会の仕組みや公共施設に関わる学 (10) 身の回りの社会の仕組みを公共施設の値、方などについて関 (11) 身が回りの社会の仕組みを公共を観いでして、それを表現しようとすること。 (12) 身の回りにある生命や自然に気付き、それを教師と一緒にみ (13) 身の回りにある生命や自然に気付き、それを教師と一緒にみ (14) 身の回りにある生命や自然に気付き、それを教師と一緒にみ (15) 身の回りにある生命や自然に気付き、それを教師と一緒にみ (16) 身の回りにある生命や自然に気付き、それを教師と一緒にみ (17) 身の回りにある生命や自然に気付き、それを教師と一緒にみ (18) 身の回りにある生命や自然に気付くことなどに関わる学習 (19) 身の回りにある生命や自然に気付くことなどに関わる学習 (19) 身の回りにあるもの自然な会に対けることができるよう指導する。 (19) 身の回りにあるもの自然な会に付けることができるよう指導する。 (10) 身の回りにあるもの自然な会に気付くことなどに関わる学習 (14) 身近な生命や自然になけることができるよう指導する。 (15) 身の回りにあるものの仕組みな働きに気付き、それを教師 (16) 身の回りにあるものの仕組みな働きに気付き、それを教師 (17) 身の回りにあるものの仕組みな働きに気付き、それを教師 (18) 身近な生命や自然が分かり、それらを表現しよ (18) 身が正なるものの仕組みなどのはおなが働きに気付き、それを教師 (18) 身近にあるものの仕組みを強いの仕組なな働きに気付き、それを教師 (19) 身が正なるものの仕組みを強いの仕組なな働きにこいで関いをよって、 (19) 身が正なるものの仕組みに関わると	体		5	(ア) 身近で簡単なきまりやマナーに気付き、それらを守って行動して、ここ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	(ア) 日常生活の簡単なきまりやマナーが分かり、それらを守って
4. は かっぱん かっぱん は かっぱん な かっぱん は かっぱん な かっぱん は かっぱん な かっぱん は かっぱん な かっぱん は かっぱん かっぱん かっぱん かっぱん かっぱん かっぱん かっぱん かっぱん			らしい。	フォングのしか。 (メ) 箱油なみまっなシナーアン・アゼベトブ	11型10よりですのした。 (人) 箱油なみまっなシナーご開子を色報込井部な 受い仕げる ア
### 1470条映や江森に関いをもつことなび公園等の公式電報に関わる。			(1) 同手ものよう(一) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1	(二) 画中なのよう (こう) (スカー) (こう) (スカー) (こう) (エカー) (こう) (エカー) (コー) (コー) (コー) (コー) (コー) (コー) (コー) (コ	************************************
(ア) 身の回りにある社会の仕組みや公共施設に気付き、それを教 (ア) 数師の援助を求めながら身近な社会の仕組みや公共施設に気 (イ) 身の回りの社会の仕組みや公共施設の使、方などについて関 (イ) 身近な社会の仕組みや公共施設の使、方などについて関 (イ) 身近な社会の仕組みや公共施設の使、方などについて関 (イ) 身近な社会の自組みや公共施設の使、方などについて関 (イ) 身近な社会の首となどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に (イ) 身の回りにある生命や自然に気付き、それを数師と一緒にみ (イ) 身近な生命や自然に気付き、それを数師と一緒にみ (イ) 身が一般になようとすること。 (イ) 身の回りの生活の中で、物の重さに気付くことなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (イ) 身近な生命や自然について関いをもつこと。 (イ) 身近な生命や自然について関いをもつこと。 (イ) 身が上が生命や自然について関いをもつことなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (イ) 身が上が生命や自然について関いをものの仕組みを働きに気付くことなどに関わる学習に関わる学習に関わる学習に関いを当まるに、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (イ) 身が正なるものの仕組みを働きに気付き、それを数師 (イ) 身が回りにあるものの仕組みを働きに気付き、それを数師 (イ) 身が回りにあるものの仕組みを働きに気付き、それを数師 (イ) 身が回りにあるものの仕組みを働きに気付き、それを数師 (イ) 身が正なるものの仕組みを観きが分がり、それらを表現しよ (イ) 身が同りにあるものの仕組みを動きに気付き、それを数師 (イ) 身が正なるものの仕組みを働きが分がり、それらを表現しよ (イ) 身が正なるものの仕組みを働きが分がり、それらを表現しよ (イ) 身が正なるものの仕組みを働きが分が、それらを表現しよ (イ) 身が正なるものの仕組みを働きが分が、それらを表現しよ (イ) 身が同りにあるものの仕組みを働きに気付き、それを数値に			目分の系族や近隣に関いをもっこと及び公園等の公共施設に関わる学習を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	目分の柱式地域のことや凶書館や児童館等の公共施設に関わる字 習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	目分の地域や周辺の地部などの社会の様く、響終者や消が著などの公共施設に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることなっまっまった。
(7) 身の回りにある行会の仕組みや公共施設に気付き、それを教 (7) 教師の援助を求めたがら身近な社会の仕組みや公共施設に気 (4) 身の回りの社会の仕組みや公共施設の使い方などについて関 (4) 身近な社会の仕組みや公共施設の使い方などについて関 (4) 身近な社会の仕組みや公共施設の使い方などについて関 (4) 身近な社会の首組みや公共施設の使い方などについて関 (4) 身近な生命を担 (4) 身の回りにある生命となどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に (7) 身近な生命や自然の変化が分かり、それを教師と一緒にみ (7) 身近な生命や自然の変化が分かり、それを表現しよ (7) 身近な生命や自然の変化が分かり、それらを表現しよ (7) 身近な生命や自然の変化が分かり、それらを表現しよ (7) 身近な生命や自然の変化が分かり、それらを表現しよ (7) 身近な生命や自然について関いをもつこと。 (4) 身の回りにある生命や自然について関いをもつこと。 (7) 身近な生命や自然について知るをものは関かる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 身近な生命や自然について知るをもの仕組みを働きに気付くことなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 身近な生命や自然について知るをもの仕組みを働きに気付き、それを教師 - (7) 身近なもの仕組みな働きが分かり、それらを表現しよ (4) 身の回りにあるものの仕組みを働きに気付き、それを教師 - (7) 身近にあるものの仕組みな働きが分かり、それらを表現しよ (4) 身の回りにあるものの仕組みを働きに気付き、それを教師 - (7) 身近にあるものの仕組みを働きた気がかり、それらを表現しよ (7) 身近にあるものの仕組みを働きた気にと。 (7) 身近にあるものの仕組みを働きに気付き、それを教師 - (7) 身近にあるものの仕組みを働きに気がしていた。 (4) 身の回りにあるものの仕組みを働きに気付き、それを教師 - (7) 身近にあるものの仕組みを表現しました。 (4) 身の回りにあるものの仕組みを働きにあるものの仕組みを働きに変しました。 (4) 身の回りにあるものの仕組みを働きに変しました。 (4) 身の回りにあるものの仕組みを過ぎました。 (4) 身の回りにあるものの仕組みを働きに気にないと知らまとができるように思いました。 (4) 身の回りにあるものの仕組みを働きに変しました。 (4) 身の回りにあるものの仕組みを働きに変しました。 (4) 身の回りにあるものの仕組みを働きに変しました。 (4) 身の回りにあるものの仕組みを過ぎました。 (4) 身の回りにあるものの仕組みを働きに変しました。 (4) 身の回りにあるものの仕組を使用を使用を使用を使用を使用を使用を使用を使用を使用を使用を使用を使用を使用を					//・/ こうしょ / 1日中の つ。
(イ) 身の回りの社会の仕組みや公共施設の使、方などについて関			(ア) 身の回りにある社会の仕組みや公共植設に気付き、それを教 ニュー独・セッジ・ケット・マッチャ・マ	(ア) 教育の援助を決めなぶのず近が合い自治を含み共福設に刻作す。 イナ・ダイド お手描し アドフギストラ	(ア)日常生活に関わりのある社会の仕組みや公共施設が分がり、イオ・ペケギ曲ギストゥ
・心をもつこと。 参師と一緒に公園や野山などの自然に触れることや生き物に興味 や関いをもつことなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に 作けることができるよう指導する。 (ア) 身の回りにある生命や自然に気付き、それを教師と一緒ごみ 人力なに伝えようとすること。 (イ) 身の回りの生活の中で、物の重さに気付くことなどに関わる学習活動を通して、次の 自身近な生命や自然について関いをもつこと。 (イ) 身の回りの生活の中で、物の重さに気付くことなどに関わる学習 おびな生命や自然について関いをもつこと。 (イ) 身がた生命や自然について関いをもつこと。 (イ) 身がた生命や自然について関いをもつこと。 (イ) 身がた生命や自然について関いをもつこと。 (イ) 身がた生命や自然について知るをもつこと。 (イ) 身がた生命や自然について知るを表現しま。 (イ) 身が同りにあるものの仕組みを働きに気付き、それを教師して、カッ専項を身に付けることができるよう指導する。 (イ) 身が同りにあるものの仕組みを働きに気付き、それを教師して、カッ専項を身に付けることができるよう指導する。 (イ) 身が同りにあるものの仕組みを働きに気付き、それを教師して、カッ専項を身に付けることができるよう指導する。 (イ) 身が同りにあるものの仕組みを働きに気付き、それを教師して、カッ専項を身に付けることができるよう指導する。			写りを記されていた。この。 (イ) ゆの回りの社会の土舗な会社構製の使い方などだして展	136、245の8名第24~17・9115。 (人) 東庁在社会の仕組みを公共構設の使い方法が各独ること。	ことの名名というこ。 (人)日常生活に関わりのある社会の仕組みな公共権設などを知っ
数師と一緒に公園や野山などの自然に触れることや生き物に興味 小動物等を飼育し生き物への興味・関心をもつことや天候の変化 全関心をもっことなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に 事項を身に関いをもっことなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 身の回りにある生命や自然に気付き、それを数師と一緒にみ うとすること。 (イ) 身の回りの生活の中で、物の重さに気付くことなどに関わる学習 身近な生命や自然について知ること。 (イ) 身の回りの生活の中で、物の重さに気付くことなどに関わる学習 身近な生命や自然について知ること。 (イ) 身の回りにあるものの仕組みや働きに気付き、それを数師と 次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 身の回りにあるものの仕組みや働きに気付き、それを数師と (ア) 身近な生命や自然について知るとができるよう指導する。 (ア) 身の回りにあるものの仕組みや働きに気付き、それを数師と (ア) 身近にあるものの仕組みを働きが分かり、それらを表現しよ (ア) 身の回りにあるものの仕組みを働きに気付き、それを数師と (ア) 身近にあるものの仕組みを働きが分かり、それらを表現しよ (メ) 身の回りにあるものの仕組みを働きに気付き、それを数師と (ア) 身が正なるものの仕組みを働きが分かり、それらを表現しよ (メ) 身の回りにあるものの仕組みを働きに気付き、それを数師と (ア) 身が正なるものの仕組みを働きが分かり、それらを表現しよ (メ) 身の回りにあるものの仕組みを働きに気付き、それを数値と (メ) 身が正なるものの仕組みを働きが分かり、それらを表現した (メ) 身の回りにあるものの仕組みを強きが分かり、それらを表現した (メ) 身の回りにあるものの仕組みを強またと。			心をもつこと。		たり、活用したりすること。
1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		サ 生命・自然	数価と一緒に公園や野山などの自然に触れることや生き物に関味を聞いずれて、ソカグに聞さる決略に重かる。	/動物等を値行し生き物への興味・関いあむしいとや天候の数に、 ※値の辞彙に関いずれ、してなど、関いない部を値を通し、外の	身近いる昆虫、魚、小鳥の飼育や草花などの栽培及び四季の変 ルや天体の働きたどに関わる受殺狂動を通って、かの東道を身が仕
(ア) 身の回りにある生命や自然に気付き、それを教師と一緒にみったがに定えようとすること。 (イ) 身の回りで生命や自然について関心をもつこと。 (イ) 身の回りを生命や自然について関心をもつこと。 (イ) 身近な生命や自然について知ること。 ものの仕組みと 動き (ア) 身の回りにあるものの仕組みを働きに気付き、それを教師と (イ) 身の回りにあるものの仕組みを働きに入いて関いをもとして、 (イ) 身の回りにあるものの仕組みを働きに入いて関いをもとして、 (イ) 身の回りにあるものの仕組みを働きに入いて関いをもとして、 (イ) 身が正をあるものの仕組みを働きがたいと関いを表れていた。			くびにほう (しょう) (はない もの) (はない こうかん (ないない) (ないないない) (ないないない) (ないないない) (ないないないない) (ないないないないないない) (ないないないないないないないないないないないないないないないないないないない	14/2017/2019 ひっしいのいになって 正式ののの こうだり 事項を身に付けることができるよう指導する。	「ロンストン数における」と目に数を通り、ことがよくによって、けることができるよう指導する。
かなに伝えようとすること。 うとすること。 (イ) 身の回りや生命や自然について関心をもつこと。 (イ) 身近な生命や自然について知ること。 ものの仕組みと 類が適して、次の事項を別に付けることができるよう指導する。 外の事項を身に付けることができるよう指導する。 次の事項を身に付けることができるよう指導する。 次の事項を身に付けることができるよう指導する。 次の事項を身に付けることができるよう指導する。 がの事項を身に付けることができるよう指導する。 がの事項を身に付けることができるよう指導する。 がの事項を身に付けることができるよう指導する。 がの事項を身に付けることができるよう指導する。 がの事項を身に付けることができるよう指導する。 がの事項を身に付けることができるよう指導する。 がしまる表現しより回じたるものの仕組みを過ぎがらかり、それらを表現しよりにあるよのの仕組みをもないの仕組みを過ぎたのい仕組みを過ぎた。			こ気付き、それを教師と一緒	ς΄	(ア) 日常生活に関わりのある生命や自然の特徴や変化が分かり、
(イ) 身の回りや生命や自然について関心をもつこと。 (イ) 身近な生命や自然について知ること。 ものの仕組みたとに関わる学習 身近な生活の中で、ものの仕組みなどに関わる学習活動を通して、 様の自身にあるものの仕組みを働きに気付き、それを教師・ 次の事項を身に付けることができるよう指導する。 次の事項を身に付けることができるよう指導する。 次の事項を身に付けることができるよう指導する。 がの事項を身に付けることができるよう指導する。 がの事項を身に付けることができるよう指導する。 がの事項を身に付けることができるよう指導する。 がの事項を身に付けることができるよう指導する。 がの事項を身に付けることができるよう指導する。 がしまる表現しよりのこれを表現しよりを表現しままたがに伝えようとすること。 がしまる表現しままれる表現しまままままままままままままままままままままままままままままままままままま			んなに伝えようとすること。	うとすること。	それらを表現すること。
ものの仕組みと 海勢を通して、次の事項を別に付けることができるよう指導する。 (ア) 身の回りにあるものの仕組みや働きに気付き、それを教師 - ア) 身近にあるものの仕組みや働きが分がり、それらを表現しよ 海になんだに伝えようとすること。 (イ) 身の回りにあるものの仕組みや働きに気付き、それを教師 - ア) 身近にあるものの仕組みや働きが分がり、それらを表現しよ 親になんだに伝えようとすること。 (イ) 身の回りにあるものの仕組みや働きにしてはいるもので仕組みや働きが分がり、それらを表現しよ 現すること。			(イ) 身の回りや生命や自然こつ、て関心をもっこと。	(イ) 身近な生命や自然について知ること。	(イ) 日常生活に関わりのある生命や自然について関いをもって調べること。
次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 身近にあるものの仕組みや働きが分かり、それらを表現しよ うとすること。 (イ) 身形にあるものの仕組みや働きが分かり、それらを表現しよ (ア)	<u> </u>		身の回りの生活の中で、物の重さに気付くことなどに関わる学習	身近な生活の中で、ものの仕組みなどに関わる学習活動を通して、	日常生活の中で、ものの仕組みなどに関わる学習活動を通して、
- (ア) 契囚にあるものの右指すな働きが分かり、不ちのを表現して (ア) っとするいと。 しんするいと・ (人) 専託におんまらの右蓋はな働きにして下出やにて (人)		働き	活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
リハッの1つ。			(ア) すの回りになるものの古組みた動きに似けず、んたを教誓――――――――――――――――――――――――――――――――――――	(ア) 身近にあるものの仕組みや働きが分かり、それらを表現しよる…・ナット・1.	(ア) 日常生活の中で、ものの仕組みや働きが分かり、それらを表品ナット:
			た。そうようなイギンのようこの。	ノハッのこの(人)東近におんれたのの下緒なや働きにして、竹色などが、	名とのこの(人)との分割を公園を行躍して関いをなって調えていて、

中学部 [職業・家庭]

				生活の営み乙係る見方・考え方や職業の見方・考え方を働かせ、生活や職業に関する実践的・体	生活の営みに係る見方・考え方や職業の見方・考え方を働かせ、生活や職業に関する実践り・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現に向けて工夫する資質・能力を次のとおり育成する
				ことを目指す。	
		目標		(1) 生活や職業に対する関心を高め、将来の家庭生活や職業生活に係る基礎的が組織や技能を身に付けるようにする。	こ付けるようにする。
				将来の家庭生活や職業生活に必要な事柄を見いだして	平価・改善し、自分の考えを表現するなどして、課題を解決する力を養う。
				(3)よりい家庭生活や将来の職業生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとする実践がな態度を養う。	
	発	各段階の目標及び内容	N 容	1 段階	2段階
		(1) 目 標	瀬	職業に係る見方・考え方を働かせ、作業や実習に関する実践的・体験的な学習活動を通して、	職業に係る見方・考え方を働かせ、作業や実習に関する実践的・体験的な学習活動を通して、
				よりよい生活の実現に向けて工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	よりよい生活の実現に向けて工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
				ア 職業について関心をもち、将来の職業生活に係る基礎が、治職や技能を別に付けるようにす	ア(働くことに対する関心を高め、将来の職業生活に係る基礎が決組織や技能を身に付けるよう
				ñ	にする。
				イ 将来の職業生活に必要な事柄でついて触れ、課題や解決策に気付き、実践し、学習したこと	イ 将来の職業生活に必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践し、学習した
				を伝えるなど、課題を解決する力の基礎を養う。	ことを振り返り、考え方ことを表現するなど、課題を解決する力を養う。
				ウ 将来の職業生活の実現に向けて、生活を工夫しようとする態度を養う。	ウ 将来の職業生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとする実践がな態度を養う。
1		A職業生活	ア 働くこ	働くことに関いをもち、作業や実習等に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けること	働くことに対する意欲や関心を高め、他者と協力して取り組む作業や実習等に関わる学習活動
			との意義	ができるよう指導する。	を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
				(ア) 働くことの目的などを知ること。	(ア) 働くことの目的などを理解すること。
				(イ) 意欲や見通しをもって取り組み、自分の役割について気付くこと。	(イ) 意欲や見通しをもって取り組み、自分と他者との関係や役割について考えること。
				(ウ) 作業や実習等で適切感を得ること。	(ウ) 作業や実習等に達成感を得て、進んで取り組むこと。
		_	イ職業	職業に関わる事柄こついて、考えたり、体験したりする学習活動を通して、次の事項を身に付	職業に関わる事柄ころ、て、考えを深めたり、体験したりする学習活動を通して、次の事項を
				けることができるよう指導する。	身に付けることができるよう指導する。
111				(ア) 職業に関わる知識や技能について、次のとおりとする。	(ア) 職業に関わる知識や技能について、次のとおりとする。
謹 ៖				の職業生活に必要な独立のでもあること。	の職業生活に必要が知識や技能を理解すること。
张 〈				の職業生活を支える社会の仕組み等があることを知ること。	③職業生活を支える社会の仕組み等があることを理解すること。
K H				の材料や育成する生物等の扱い方及び生産や生育活動等に関わる基礎的な技術について知る	の材料や育成する生物等の特性や扱い方及び生産や生育活動等に関わる基準がな技術につい
R	(2)			عْلُ اللَّهُ	く理解すること。
	长			②作業課題が分かり、使用する道具等の扱い方に慣れること。	色作業課題が分かり、使用する道具や機械等の扱い方を理解すること。
	-[③作業の特続性やび線性などを身に付けること。	③作業の確実性や特続性、巧緻性等を身に付けること。
	*			(イ) 職業生活に必要な思考力、判断力、表現力等について、次のとおりとする。	(イ) 職業生活に必要な思考力、判断力、表現力等について、次のとおりとする。
				の職業に関わる事柄と作業や実習で取り組む内容との関連について気付くこと。	の職業に関わる事柄と作業や実習で取り組む内容との関連について、考えて、発表すること。
				①作業に当たり安全や衛生について気付き、工夫すること。	①作業上の安全や衛生及び作業の効率について考えて、工夫すること。
				の職業生活に必要が健康管理について気付くこと。	の職業生活に必要な健康管理とついて考えること。
		B情報機器の活用	活用	職業生活で使われるコンピュータ等の情報機器で触れることなどに関わる学習活動を通して、	職業生活や社会生活で使われるコンピュータ等の情報機器を扱うことに関わる学習活動を通し
				次の事項を身に付けることができるよう指導する。	て、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
				アコンピュータ等の情報機器の初歩的な操作の仕方を知ること。	アコンピュータ等の情報機器の基礎が対操作の仕方を知り、扱いに慣れること。
				イ コンピュータ等の情報機器に触れ、体験したことなどを他者に伝えること。	イ コンピュータ等の情報機器を扱い、体験したことや自分の考えを表現すること。
		C産業現場等における実習	における実習	実際的な学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	実際的な学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
				アの職業や進路に関わることについて関心をもったり、調べたりすること。	アの職業や価格に関わることにして、調べて、理解すること。
				4 職業や職業生活、進路に関わることについて、気付き、他者に伝えること。	イ 職業や職業生活、進給に関わることと自己の成長などについて考えて、発表すること。
]	1				

 1た、よりよい生活の実現に向けて工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 して、よりよい生活の実現に向けて工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ガ 家族や自分の役割について理解し、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎が、理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 イ 家庭生活に必要な事柄について考え、課題を設定し、解決策を考え、実践し、学習したことを振り返り、考えたことを表現するなど、日常生活において課題を解決する力を養う。 こしよ ウ 家族や地域の人々とのやりとりを通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとする実践が立態度を養う。 	 て、 7 自分の成長 自分の成長と家族や家庭生活などに関わる学習活動を通して、次の事項を 身に付けることができるよう指導する。 (ア) 自分の成長を振り返り、家庭生活の大切さず3気持ちを育み、よりより関わり方について考え、表現すること。 (イ) 家族生活やの役割などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付ける の方。 (ア) 家庭生活での役割などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付ける 当を考え、表現すること。 (ア) 家庭生活に必要なことに関して、家族の一員として、自分の果たす役割を考え、まはすること。 (イ) 家庭生活に必要なことに関して、家族の一員として、自分の果たす役割を考え、表現すること。 (イ) なども活できるよう指導する。 (イ) なども活における健康や分類に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (イ) 望ましい生活環境や健康管理及び自分に含った糸根の過ごし方について考え、表現すること。 (イ) 望ましい生活環境や健康管理及び自分に合った糸根の過ごし方についてあって、理解することなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (オ) 家族との触れ合いや地域生活に関心をもち、家族や地域の人々と地域活動とこと。 (イ) 家族との触れ合いや地域生活に関心をもち、家族や地域の人々と地域活動とこと。 	大 食事の役割 楽しく食事をするための工夫などに関わる学習活動を通して、次の事項を 別ご付けることができるよう指導する。 (ア) 健康な生活と食事の役割や日常の食事の大切さを理解すること。 (イ) 日常の食事の大切さや規則正しい食事の必要性を考え、表現すること。 (イ) 日常の食事の大切さや規則正しい食事の必要性を考え、表現すること。
生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通 して、よりよい生活の実現に向けて工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ア 家庭の中の自分の役割に気付き、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等 についての基礎が次理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 イ 家庭生活に必要な事柄について触れ、課題や解決策に気付き、実践し、学習したことを伝えるなど、日常生活に必要な事柄について触れ、課題や解決策に気付き、実践し、学習したことを伝えるなど、日常生活によいて課題を解決する力の基礎を養う。 ウ 家族や地域の人々とのやりとりを通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫しようとする態度を養う。	自分の成長に気付くことや家族のことなどに関わる学習活動を通して、 次の事項を別に付けることができるよう指導する。 (イ) 家族とのやりとりを通して、家族を大切にする気持ちを育み、よりよ い関わり方について気付き、それらを他者に伝えること。 家庭の中での役割などに関わる学習活動を通して、次の事項を別に付ける ことができるよう指導する。 (イ) 家庭生活に必要なことや自分の果たす役割に気付き、それらを他者に 伝えること。 (オ) 家庭における余暇の過ごし方などに関わる学習活動を通して、次の事項を 身に付けることができるよう指導する。 (イ) 望まし、生活環境や健康及び様々な余暇の過ごし方について気付き、 エ夫すること。 (イ) 望まし、生活環境や健康及び様々な余暇の過ごし方について気付き、 エ大すること。 (イ) 望まし、生活環境や健康及び様々な余暇の過ごし方について気付き、 (イ) 望まし、生活環境や健康及び様々な余暇の過ごし方について気付き、 (イ) 望まし、生活環境や健康及び様々な余暇の過ごし方について気付き、 (イ) 望まし、生活環境や健康及び様々な余暇の過ごし方について気付き、 (イ) 当まし、生活環境や健康及び様々な余暇の過ごし方について気付き、 (イ) 幼児の特徴や過ごし方について知ること。 (イ) 幼児の特徴や過ごし方について知ること。	食事の仕方や食事の大切さに気付くことなどに関わる学習活動を通して、 次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 健康だ生活と食事の役割について知ること。 (イ) 適切な量の食事を楽しくとることの大切さに気付き、それらを他者に
生活の営みに係る見力 して、よりよい生活の実 ア 家庭の中の自分の についての基礎的な イ 家庭生活に必要な えるなど、日常生活 ウ 家族や地域の人々 うとする態度を養う。	7 自分の成長 と家族 イ 家庭生活と ウ 家庭生活こ おける糸暇 エ 幼児の生活 と家族	ア食事の役割
(1) 目 標	A家庭・家庭生活	B次食住の生活
	家庭分野32内容	1

				イ 栄養を考え	バランスのとれた食事について考えることに関わる学習活動を通して、次
				た食事	の事項を身に付けることができるよう指導する。
					(ア) 身体こ必要な栄養について関心をもち、理解し、実践すること。
					(イ) バランスのとれた食事について気付き、献立などを工夫すること。
		イ調理の基礎	必要な材料を使って食事の準備をすることなどに関わる学習活動を通し	ウ調理の基礎	食事の準備や調理の仕方などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に
			て、次の事項を身に付けることができるよう指導する。		付けることができるよう指導する。
			(ア) 簡単な調理の仕方や手順について知り、できるようにすること。		(ア) 調理に必要な材料の分量や手順などについて理解し、適切にできるこ
					۵ĵ
			(イ) 簡単な調理計画こつ、で考えること。		(イ) 調理計画に沿って、調理の手順や仕方を工夫すること。
		ウ 衣服の着用	衣服の着方や手入れの仕方などに関わる学習活動を通して、次の事項を身	エ 衣服の着用	衣服の手入れや洗濯の仕方などに関わる学習活動を通して、次の事項を身
		と手入れ	に付けることができるよう指導する。	と手入れ	に付けることができるよう指導する。
			(ア) 場面に応じた日常着の着方や手入れの仕方などについて知り、実践し		(ア) 日常着の使い分けや手入れの仕方などについて理解し、実践すること。
			ようとすること。		
			(イ) 日常着の着方や手入れの仕方に気付き、工夫すること。		(イ) 日常着の快適な着方や手入れの仕方を考え、工夫すること。
		エー代画な住ま	持ち物の整理や住まいの清掃などに関わる学習活動を通して、次の事項を	オー代適で安全	住まいの整理・整頓や計帯などに関わる学習活動を通して、次の事項を身
		1.坊	身に付けることができるよう指導する。	な住まい方	に付けることができるよう指導する。
			(ア)住まいの主な働きや、整理・整頓や清掃の仕方について知り、実践し		(ア) 快適な住まい方や、安全こついて理解し、実践すること。
			ようとすること。		
			(イ) 季節の変化2合わせた住まい方、整理・整頓や清掃の仕方2気付き、		(イ) 季節の変化に合わせた快適な住まい方に気付き、工夫すること。
			工夫すること。		
無い	C消費生活・環境	ア・身近な消費	買物の仕組みや必要な物の選び方などに関わる学習活動を通して、次の	アータ近な消費	身近が消費生活について考えることなどに関わる学習活動を通して、次の
		生活	事項を身に付けることができるよう指導する。	生活	事項を身に付けることができるよう指導する。
			(ア) 生活に必要な物の選び方、買い方、計画的な使い方などについて知り、		(ア) 生活に必要が物の選択や扱い方について理解し、実践すること。
			実践しようとすること。		
			(イ) 生活に必要な物を選んだり、物を大切に使おうとしたりすること。		(イ) 生活に必要が物について考えて選ぶことや、物を大切に使う工夫をす
					816°
		イ環境は配慮	身近な生活の中で環境、国連することに関わる学習活動を通して、次の事	イ 環境 温息	自分の生活と環境との関連などに関わる学習活動を通して、次の事項を身
		した生活	項を身に付けることができるよう指導する。	した生活	に付けることができるよう指導する。
			(ア) 身近な生活の中で、環境に配慮した物の使い方などについて知り、実		(ア) 身近な生活の中での環境との関わりや環境に配慮した物の使い方など
			践しようとすること。		について理解し、実践すること。
			(イ) 身近な生活の中で、環境に配慮した物の使い方などについて考え、エ		(イ) 身近な生活の中で、環境との関わりや環境に配慮した生活について考
			大すること。		えて、物の使い方などを工夫すること。

知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科の各段階の構成

特別支援学校学習指導要領説明会配布資料(平成29年7月)より抜粋

段階	内容の対象、ねらい等
小学部1段階	主として知的障害の程度は、比較的重く、他人との意思の疎通に困難があり、
	日常生活を営むのにほぼ常時援助が必要である者を対象とした内容を示してい
	る。
	この段階では、知的発達が極めて未分化であり、認知面での発達も十分でない
	ことや、生活経験の積み重ねが少ないことなどから、主として教師の直接的な援
	助を受けながら、児童が体験し、事物に気付き注意を向けたり、関心や興味をも
	ったりすることや、基本的な行動の一つ一つを着実に身に付けたりすることをね
	らいとする内容を示している。
小学部2段階	知的障害の程度は、1段階ほどではないが、他人との意思の疎通に困難があり、
	日常生活を営むのに頻繁に援助を必要とする者を対象とした内容を示している。
	この段階では、1段階を踏まえ、主として教師からの言葉掛けによる援助を受
	けながら、教師が示した動作や動きを模倣したりするなどして、目的をもった遊
	びや行動をとったり、児童が基本的な行動を身に付けることをねらいとする内容
	を示している。
小学部 3 段階	知的障害の程度は、他人との意思の疎通や日常生活を営む際に困難さが見られ
	る。適宜援助を必要とする者を対象とした内容を示している。
	この段階では、2段階を踏まえ、主として児童が自ら場面や順序などの様子に
	気付いたり、主体的に活動に取り組んだりしながら、社会生活につながる行動を
	身に付けることをねらいとする内容を示している。
中学部1段階	小学部3段階を踏まえ、生活年齢に応じながら、主として経験の積み重ねを重
	視するとともに、他人との意思の疎通や日常生活への適応に困難が大きい生徒に
	も配慮した内容を示している。
	この段階では、主として生徒が自ら主体的に活動に取り組み、経験したことを
	活用したり、順番を考えたりして、日常生活や社会生活の基礎を育てることをね
	らいとする内容を示している。
中学部2段階	中学部1段階を踏まえ、生徒の日常生活や社会生活及び将来の職業生活の基礎
	を育てることをねらいとする内容を示している。
	この段階では、主として生徒が自ら主体的に活動に取り組み、目的に応じて選
	択したり、処理したりするなど工夫し、将来の職業生活を見据えた力を身に付け
	られるようにしていくことをねらいとしている。

資料3

知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校小学部の各教科 及び中学部「職業・家庭科」の特質に応じた見方・考え方

特別支援学校学習指導要領説明会配布資料(平成29年7月)より抜粋

教科名	見方	考え方	
生活科	生活を捉える視点であり、生活におけ	自分の生活において思いや願いを実現	
(生活に関わる)	る人々、社会及び自然などの対象と自	していくという学習過程の中にある思	
	分がどのように関わっているのかと	考であり、自分自身や自分の生活につ	
	 いう視点で捉えること。	いて考えることやそのための方法のこ	
		と。	
国語科	対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言	<u></u> 葉の意味、働き、使い方等に着目して捉	
(言葉による)	えたり問い直したりして、言葉への自	覚を高めること。	
算数科	事象を数量や図形及びそれらの関係な	どに着目して捉え、根拠をもとに筋道を	
(数学的な)	立てて考え、総合的・発展的に考える	こと。	
音楽科	音楽に対する感性を働かせ、音や音楽	を形づくっている要素とその働きの視点	
(音楽的な)	で捉え、自己のイメージや感情、生活	や文化などと関連付けること。	
図画工作科	感性や想像力を働かせ、対象や事象を	、形や色などの造形的な視点で捉え、自	
(造形的な)	分のイメージをもちながら意味や価値	をつくりだすこと。	
体育科	運動やスポーツを、その価値や特性に	着目して、楽しさや喜びとともに体力の	
(体育の)	向上を果たす役割の視点から捉え、自	分の適性等に応じた「する・みる・支え	
	る・知る」の多様な関わり方と関連付	けること。	
(保健の)	個人及び社会生活における課題や情報	を、健康や安全に関する原則や概念に着	
	目して捉え、疾病等のリスクの軽減や	生活の質の向上、健康を支える環境づく	
	りと関連付けること。		
職業・家庭科	家族や家庭、衣食住、消費や環境など	に係る事象を、健全で豊かな家庭生活を	
(生活の営み	営む視点で捉え、生涯にわたって自立し共に生きる生活を創造するために、よ		
に係る)	りよい生活を工夫すること。		
(職業の)	職業に係る事象を、将来の生き方等の	視点で捉え、よりよい職業生活や社会生	
	活を営むための工夫を行うこと。		

資料4

平成29年度特別支援学校授業改善プロジェクトの概要

【目的】

- (1) 日常生活の指導の基礎・基本に基づく実践の充実を図る。
- (2) 日常生活の指導の基礎・基本に基づく実践の推進において、中心的役割を担う人材を 養成する。

【概要】

【概			ملت مليل را ر	
口	期日	内容	出席者	
1	平成29年	基礎研修会		
	6月14日	・講義演習①「日常生活の指導の基礎基本」	担当教諭 13名	
		講師:秋田県教育庁特別支援教育課	特別支援教育課 3名	
		主任指導事 佐々木孝紀		
		・講義演習②「日常生活の指導の実際」		
		講師:秋田県立支援学校天王みどり園		
		教諭(兼)育専門監島津憲司 教諭		
		・協議「各担当者の事例における授業改善の視		
		点等について」		
2	平成29年	第1回プロジェクト会議	担当教育専門監 2名	
	7月 4日	担当者、事例内容確認	特別支援教育課 2名	
		• 年間予定確認		
3	平成29年	授業・事例検討会【県北・県央地区】	授業提示担当教諭 1名	
	9月 4日	・提示授業、提示事例の指導案等検討	事例提示担当教諭 1名	
			担当教育専門監 1名	
			担当指導主事 1名	
4	平成29年	授業・事例検討会【県央・県南地区】	授業提示担当教諭 1名	
	9月11日	提示授業、提示事例の指導案等検討	事例提示担当教諭 1名	
	, ,		担当教育専門監 1名	
			担当指導主事 1名	
5	平成29年	授業・事例研究会【県央・県南地区】	会場校校長	
	10月10日	(1)授業提示「朝の会」	担当教諭 8名	
	,,	ゆり支援学校教諭の小野祐美子	担当教育専門監 1名	
		(2) 事例提示「教室掃除」	特別支援教育課 2名	
		稲川支援学校 教諭 山口 梓		
		(3)提示授業、提示事例の協議		
		(4) 各担当の事例の協議		
6	平成29年	授業・事例研究会【県北・県央地区】	会場校校長	
	10月31日	(1)授業提示「着替え」		
	,, , -	比内支援学校 教諭 松尾 佑美		
		(2) 事例提示「朝の会」	特別支援教育課 2名	
		比内支援学校かづの校 教諭 湊 奈緒		
		(3) 提示授業、提示事例の協議		
		(4) 各担当の事例の協議		
7	平成29年	第2回プロジェクト会議	担当教育専門監 2名	
	11月 7日	・授業・事例検討会、研究会のまとめ	特別支援教育課 2名	
	/ • • -	・日常生活の指導ガイドの内容検討		
8	平成30年	秋田県教育研究発表会	発表者:担当指導主事	
	2月 8日	・特別支援学校授業改善プロジェクトの取組	質疑応答対応:	
	, , , , ,	・特別支援字校授業改善プロジェクトの取組 質疑応答対応: ∼各教科等を合わせた指導「日常生活の指導」 担当教諭3名		
		について~	1— 1 17 MH1 2 I	
9	平成30年3月	日常生活の指導ガイド発行		
			I	

平成29年度特別支援学校授業改善プロジェクト 担当者

【担当教育専門監】

秋田県立比内支援学校 小笠原 英 紀 秋田県立ゆり支援学校 宮 野 俊 実

【担当教諭】

秋田県立秋田きらり支援学校 髙 橋 亜希子 同 渡 辺 美樹子 秋田県立比内支援学校 松 尾 佑 美 秋田県立比内支援学校かづの校 湊 奈 緒 秋田県立比内支援学校たかのす校 村 出 利 哉 秋田県立能代支援学校 伊 藤 綾華 秋田県立支援学校天王みどり学園 鎌 田 育 子 秋田県立栗田支援学校 加 藤 秀幸 秋田県立ゆり支援学校 小 野 祐美子 秋田県立大曲支援学校 洋 平 遠 Ш 秋田県立横手支援学校 佐 藤 深 雪 秋田県立稲川支援学校 梓 ılı 秋田大学教育文化学部附属特別支援学校 佐 藤 美 里

【担当指導主事】

秋田県教育庁特別支援教育課 小 山 高 志

【引用・参考文献】

·特別支援学校小学部 · 中学部学習指導要領

平成29年4月 文部科学省

平成29年7月 文部科学省

·特別支援学校教育要領·学習指導要領 総則等編(幼稚部·小学部·中学部)

・日常生活の指導の手引(改訂版)

平成6年3月 文部省

・精神薄弱教育における生活科指導の手引

平成3年5月 文部省

・遊びの指導の手引

説明会配布資料

平成5年9月 文部省

・生活単元学習指導の手引

昭和61年2月 文部省

・作業学習指導の手引(改訂版)

平成7年2月 文部省

・生徒指導提要

平成22年3月 文部科学省

・特別支援学校 作業学習ガイド

平成27年3月 秋田県教育委員会

・特別支援学校 生活単元学習ガイド

平成28年3月 秋田県教育委員会

・特別支援学校 遊びの指導ガイド

平成29年3月 秋田県教育委員会

・特別支援教育の基礎・基本 (新訂版)

平成27年1月 独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所

・ICF (国際生活機能分類) 活用の試み-障害のある子どもの支援を中心に-

平成17年4月 独立行政法人 国立特殊教育総合研究所

・「日常生活の指導」の実践 キャリア発達の視点から

平成29年9月 全国特別支援学校知的障害教育校長会

- ・重複障害児の指導ハンドブック 平成12年1月 社会福祉法人 全国心身障害児福祉財団
- ・「関係」によって気付くキャリア発達、「対話」によって築くキャリア教育

平成29年12月 キャリア発達支援研究会

特別支援学校 日常生活の指導ガイド 平成30年3月発行 秋田県教育委員会

> 〒010-8580 秋田市山王三丁目1-1 秋田県教育庁特別支援教育課 電話 018-860-5135

> > FAX 018-860-5136